SERAPHIM COMICS

成年コミック

メイドのおしごと。

MAID'S WORK.

荒岸来歩

ALEXI LAIHO

メイドのおしごと。
荒岸来歩
成年コミック

ヒット出版社

ISBN978-4-89465-948-3
C9979 ¥1527E
雑誌52020-73
ヒット出版社／定価 本体1527円+税

MAID'S WORK.



ALEXI LAIHO

好評既刊絶賛発売中!!

（在庫が無い場合は電子書籍等にてお買いもめください）



「メイドのXXXはアナタのために」
A5判・本体1000円+税



「ヌキ挿し自由のメイド穴」
A5判・本体1000円+税



「メイド学園へようこそ!!」
A5判・本体1000円+税



「精いっぱい ご奉仕メイド」
A5判・本体1000円+税



「全速全身 ご奉仕メイド」
A5判・本体1000円+税


メイドのおしごと。／荒岸来歩
荒岸来歩
シリーズ累計販売数
ダウンロード
50万部突破!!
超人気の異色メイドおねショタ同人作品が満を持して待望のコミックス化!
思春期真っ盛りな坊ちゃまの性欲に振り回される母親系メイドのミサトさん。
許されぬ関係を結んでしまった不器用な二人が迎える歪んだ純愛の結末は…!?
怒濤の長編280PC大量加筆&修正を加えたファン納得の商業完全版!!
荒岸来歩
成年コミック
ヒット出版社
COMIC
●実力派執事陣●
各種新刊情報にラブ画ギャラリー等、見て読んで楽しめる、
ヒット出版社の公式HPはこちら!!
http://www.hitpub.com/
B5判並定価1,400円
「全速全身○ご奉仕メイド」
A5判・本体1000円+税

各話解説&小話

っていうか各話のあとがきを再編集したやつ。

1話
そもそもはツイッターに上げた「無表情メイドの事務的おねショタ」的な落描きが予想以上に反応が良くて、
じゃあこのキャラで漫画化しちゃおうと思い立ったのが第1話。というかそもそも2話以降のことなんて
その時点では全く考えてなかったので5話通して読むとこの話だけちょっと浮いてるw
メイドさんのパンツ盗んでオナニーとかメイドさんからのお説教とかメイドさんにおまんこ見せてもらって見抜きとか
まーこれでもかというほどに僕の性癖を好き勝手ねじ込んでありますね。
当時のツイッターで「エロマンガの導入は短ければ短いほど良い」みたいな話があって「はぁぁ？？」って
反骨精神を発揮してしまったこともあり、34Pのエロマンガの導入に21P使ったのも今となっては良い結果に
つながったのかなと思います。(そもそも長い導入はお家芸ですけど

2話
ここからお話をもう少し掘り下げて行きました。
「もしあなたが中学生の女の子(男の子)に本気でセックスをせがまれたら？？」と考えたとき自分ならどうするかと
捕らぬ狸のなんとやらで脳内シミュレートしたのがこのお話。中学生とかいう後先考えずに浅はかな行動＆発言しちゃう
未熟な生き物に自分の社会的生殺与奪権を握らせる勇気などあるのかと。
僕ももうミサトさん同様に中学生の子供が居てもいい歳なのでアレくらいの年頃の女の子を性的対象として見られるかと
言われると正直にNOだったりしますし、そもそも女性のお股にはびっしり毛が生えてないと興奮しな…(ちがくて
それでも万が一、自分のことが大好きで大好きで仕方がない子が思春期特有の悩みを抱えつつ何度も何度も必死に
お願いしてきたら…「手でくらいならしてあげちゃうんじゃん…？？」っていうコトでこんな展開に。
このあたりからミサトさんのお人好しダメなっぷりが露呈してきます。

3話
「宿題やったんですけど家の机の上に忘れました…！！」
こんなクソみたいな言い訳あなたも身に覚えがありませんか？？当時は天才的な言い訳だなって思いましたが
大人になって考えてみれば先生は当然わかっていたワケです。
幼少から思春期、いや20代前半くらいまでのことを思い返すと、「この歳頃ってこういうもんだよな」って
周りの大人達に許されて配慮されて思いやってもらって僕も大人になったんだなとつくづく思います。
そんな思い返すと布団をかぶってジタバタしたくなるような思春期真っ只中の優太くんにフォーカスを当てた第3話。
学校で学ぶことではないのに知っていなければ仲間内で優位に立てない「エロ知識」。みんな必死に「エロ知識」を収集するのが
使命みたいなこの歳頃に、自分だけセックスし放題なのに決して自慢してはいけない。そんな状況に当時の自分だったら…と
中学生の自分を優太くんに憑依させ行動させたら無事に大暴走しました。
一応あとがきに「次巻で「写真で脅してみんなでヤッちゃおうぜ！」みたいな展開にはなりませんからご安心ください」と
書いたのに「そういう展開にしたらブッ殺す」的な熱いファンレターを初めて頂いたのも今となってはいい思い出です。

4話
僕が16歳の高校1年の頃初めて彼女ができました。
当時同じクラスで仲良しだった友人と同じ女の子が好きだったことを知りながら、どうにか水面下で出し抜いて
無事にその子と付き合えることになりました。そしてあろうことか僕は真っ先にその友人に嬉々として報告したのでした。
今考えればどうしてそんなコトが平気でできたのか神経を疑うレベルですが、当時の僕はその友人よりも自分の存在価値が
上だという勘違いに酔いしれていたのです。子供であればあるほど相手の気持ちなど考えずに残酷なことができるもので。
そして僕からその報告を受けた友人は、素直に悔しさを表現しながら応援してくれ、高校を卒業するまで良き友人であり続けて
くれました。
彼は僕よりはるかに思いやりのある大人だったのです。
というワケでそんなほろ苦くも良き思い出からできあがったこの第4話。
佳祐くんの気持ちなど微塵も考えない優太くんの自分勝手な行動は僕のこの高校時代の愚行が土台になっています。
一方で幼馴染の優太を親友だと信じてやまない佳祐くんの描写も、僕の中高生の頃を思い出しつつ描いています。
男子の中高生の頃ってこう「アイツは俺の親友…！」みたいな熱苦しい時期あるじゃないですか。
俺の親友のはずなのに俺より他のヤツと仲良くしてる！みたいな嫉妬したりとかそういう恥ずかしい思い出ありませんか？
僕は多々あります(苦笑)あ…空の為言っときますけど僕はノンケです(
そしてそんな思春期男子×2を相手に孤軍奮闘するミサトさんも実はまぁまぁこじらせてるというかダメ女なワケです。
回想シーンの24歳の頃のミサトさんはメイドの専門学校を出て(この作品はフィクションです！)そのままメイドとして
就職したミサトさんに対し、周りの友達は大学を出て立派に就職したり結婚したり子供ができたりし始める頃。
自分の人生はこのままでいいのかと焦りがちなお年頃に未婚で経験させられる初めての子育て。
そんな現実から逃げ出すために結婚して幸せになりたいと集れば集るほどクズ男に騙され精液コキ捨て穴にされる日々。
元来のお人好しさと優柔不断さから仕事を辞める決断も優太の世話を放棄することもできず、歳を重ねることに失われてゆく
自分の女としての魅力や価値とともに、ミサトさんは感情の起伏も失っていったのです。
キャラクターがそのキャラクターになるまでには必ずそのバックボーンがあるはずで、それがキチンとあると
「生きたキャラクター」になると僕は思ってて、キャラを作るときそれをすごく大事にしてます。



hit

メイドのおしごと。

WORK.

荒岸来歩

成年コミック

ヒット出版社

5話(最終話)
正直自分でも「どーすんだこれ…」ってなってた4話のラスト。
1話のラストはどこへやらってくらいに風呂敷を広げすぎて畳むのに死ぬほど苦労しました。
もちろん大まかな結末は4話に至るまでに決めてあったんですけど、結末に至るまでの紆余曲折が
どう考えても同人誌一冊で収まり切る分量じゃなくて、5話6話の2冊でやるかどうするかと悩んだ末に
結局100ページ超えの頭のおかしいエロ同人誌になったこの最終話。
印刷ではなく電子配信がメインの昨今じゃ印刷費考えなくていいので大ページを躊躇うことなく珍しくないですけど
それは縦横1ページに大コマ2個とかそういう電子配信向けの最近流行りの描き方のマンガだったりするので
4～5コマテキストびっしりというオールドスクールマンガスタイルで100ページ超えは
やっぱり頭おかしいのではないかなと自負しております。
電子配信で読みづらいエロマンガで本当に申し訳ない(反省
結末に向かわせるために大きくページを割いてしまってエロシーンが34ページしかないんですが、
34ページのエロページって普通に考えれば多いのでどうかご容赦いただきたく(
しがして今までの4巻分のエロページはすべてこの最後のセックスの前戯だったのだと思えるくらいの
本当に愛情に満ちたセックスが描けたのではないかなと思っています。
近年SNSで「叩いてもいいひと」として世間に認定されてしまうことで本当に恐ろしいですよね。
町の広場で石打ちや公開処刑を見世物の娯楽にしていた頃と人類は本質的に何も変わらないのだと感じます。
この最終章はそんな人間の本能的な暴力性や利己性から幼ちゃまを守るさとを強いられ
キャパを超えて疲弊していくミサトさんが最大の見所です(鬼畜
結局人間はみんながみんな自分が幸せになりたいから仕方ないのです。
優太くんも、ミサトさんも、佳祐くんも、クラスの友達も、週刊文冬の記者だって
でもそんな世の中で他の人のために、愛する人のために自分が何をできるか、何を成せるか。
何を残じて死んでいくのか。
そう…それがこの「メイドのおしごと。」の壮大なるテーマだったのですよ……嘘ですけど。
本当のトコは毎回行き当たりばったりで
「母親みたいなメイドさんに愛されたい叱られたい甘やかされたい！」っていう
僕の願望をひたすらに描いていたマンガでした。
愛情深さゆえの自己犠牲の末に自首して逮捕されるおねショタヒロインは
後にも先にもミサトさんくらいなんじゃないでしょうか(
そんなこんなで散々ひどい目にあわせたミサトさんですが
最後はほんのちょっとだけ願いを叶えてあげました。
もちろんこの子が優太くんの子なのか、新しい誰かの子なのかは
読者のあなたの心のなかで決めてください。
どちらにしても晴れやかな彼女の笑顔にもう迷いや弱さはありません。
エンディングに関しては本当に多数の賛否両論頂きましたが僕自身は
「メイドおねショタという非現実を最大限のリアリティで描く」
というのがテーマの(こっちは本当)この作品らしい
良いエンディングになったんじゃないかと思ってます。




MAID'S WORK.
メイドのおしごと。
荒岸来歩

▼CONTENTS▼

メイドのおしごと。Ⅰ●003
（[同人誌修正版]Ｃ阿吽2023年2月号掲載）

メイドのおしごと。Ⅱ●037
（[同人誌修正版]Ｃ阿吽2024年8月号掲載）

メイドのおしごと。Ⅲ●071
（同人誌『メイドのおしごと。Ⅲ』掲載）

メイドのおしごと。Ⅳ●107
（（同人誌『メイドのおしごと。Ⅳ』掲載）

メイドのおしごと。最終章●173
（（同人誌『メイドのおしごと。最終章』掲載）









やっ♡
あっあっ♡
ビクッ
はっ♡
あぁッ♡
くちゅ♡
くちゅ♡
ぬちゅ♡
ぬちゅ♡
ぬ
ちゅぁっ♡
やあぁんっ♡
すげぇだろ…？
あっ♡
ドキ
ドキ
ドキ
これが本物のセックスだぜ優太
兄貴の部屋で見つけたんだ
あんッ♡
ドキ
ドキ
あっ♡
やっぱビデオはエロ本とは迫力が違うよな
す…すごいこんなことするんだ…
俺たちのスマホじゃフィルタリングで全然エロいの見れないからな
おっ 挿れるぞ！ここからもっとスゴいんだ！
でも…やっぱり肝心な所見えないね…
ギシッ
あっ♡
あぁっ♡
ギシッ
モザイクとかホントうぜぇよな！一番見たいトコなのにさ！
あぁんっ♡
ギシッ
あっ♡
あっ♡
ギシッ


あーあ
どっかにアソコ
見せてくれる女
いねーかなー！
っていうか
彼女欲しー！
セックスしてぇー！
じた
ばた
あはは…
おはは
優太はイイよなぁ
家に美人のメイドさん
居てさ
ウチなんか女は
母ちゃんくらいだし
え…？
ミサトさん…？
めちゃくちゃ
頼んだら見せて
もらえるかもよ？
動画とか撮らせて
もらって 俺にも見せて
くれよ 優太ー
む…無理だよ
そんなのっ！


そういえば…
小さい頃からうちに居て
お世話してもらってたから…
居て当然って感じで
そんなふうに見たこと
無かったけど…
確かに言われてみれば
結構美人だよね…
ミサトさん…
メイドのおしごと。
美里 加奈子（35）


ぼ…僕もう今日は帰るねっ…！
おっ コイツ帰ってヌく気だなー？
まぁ待て待て
今日は特別にエロ本を貸してしんぜよう
い…いいよ佳祐っこんなのバレたら叱られるよっ！
ちゃんと隠せば大丈夫だって♪
ヌくならオカズほしいだろー？
それはそうだけどっ…
じゃあなー頑張れよ若者ー♪
同い年だろっ…！じゃあねっ！
それにしてもすごかったな…さっきのビデオ…
女のヒトってホントに気持ち良いとあんな大きな声出すんだ…
ってことはじゃあやっぱりミサトさんも…？
いやいやそんなことより…
今日はなるべく部屋までミサトさんに見つからないように…
ピッ
ウチャ…。


あら
坊ちゃま
おかえりなさいませ
ドキッ
!!
た…ただいまっ
ミサトさんっ
あせ
よ…よりによって玄関の
掃除してるなんて…!
また寄り道して
来られたんですか
この時間だと夕食に
差し障りますので
ガマンしてくださいね
お腹が空いている
ようでしたら
早めにご夕食を
準備しますけど…
う…ううんっ
いつもの時間で
大丈夫っ!
じ…じゃあそれまで
ゲームでも
してようかなー
ちゃんと
宿題もしなきゃ
ダメですよ
お手伝いは
できませんからね
よかった…!
気付かれなくてっ…!


さて…
それじゃあ
そろそろ
夕食の支度でも
しようかしら
ふぅ…


なんか
ダメだ…
何度出しても
全然エッチな気分が
収まらないよ…
今日は本まで
借りたのに…
あんなの
見たせいだな…
あっ
ピロン
もう晩ごはんか…
18:55
美里加奈子
ごはんですよ
ご夕食の用意ができました


僕にはお母さんが
居なくて…
父さんも
仕事でいつも
海外だから
普段はこうして
ミサトさんと一緒に
ごはんを食べる
「私は使用人ですから」
って最初は断ってた
ミサトさんに…
チラッ
子供の頃の僕が
独りごはんが寂しくて
二人の時は一緒に
食べるように
泣きついたらしい
物心ついた頃から
週末のお休み以外は
住み込みでずっと僕の
面倒を見てくれていて…
僕にとってミサトさんは
父さん以上に近い
お母さんかお姉さんのような
本当の家族みたいな存在だった…


はずなのに…
覗く度胸もなければ…
襲いかかるなんて絶対無理なのに…
佳祐に言われたことが頭から離れなくて…
ついミサトさんが入ってるお風呂場まで来ちゃった…
でももし この扉を開けて… 佳祐の言う通り ミサトさんに 頼み込んだら…
もしかして…アソコ… みせてくれるかな…
いや…やっぱり そんなのマンガの中だけだよ…!
嫌われて 口も聞いて くれなくなって きっと父さんにも 言いつけられる…!
あっ…


ミサトさんの…
着替え…
って言うことは
これが…
ミサトさんが…
さっきまで
履いていた…
さっきまで
ミサトさんのアソコを
包んでた下着…！
……
ゴクッ…
ちょっと汚れてる…
ここに
当たってたんだ…
ミサトさんの…
洗剤と…
香水の匂いと…
スン
スン
なんだか…
すごくエッチな
匂いがする…
スルッ


ミサトさん…
明日はこの下着で
過ごすんだ…
明日のミサトさんの
メイド服の下は…
こうなって…
ミサトさんの…
下着姿…
良いですよ…
坊ちゃま…
…!!
したい…
セックス
してみたい…!
ふっ
ミサトさんと…
セックス…!
ミサトさんの
アソコに…
シュッ
シュッ
ふうっ
シュッ
おち○ちん
入れてみたい…!
その時は…
はっ
はぁっ
ちゅこ
きっとミサトさんも
僕のおち○ちんで…
あのビデオみたいに
大声出して…感じて…
ちゅこ
はぁっ
ちゅこ
ちゅこ
僕は…
ミサトさんの
中にっ…
はぁっ
ミサトさ…
んっ…!
はぁっ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ


ぷぴゅっ
あっ…！
？
ちゃぷんっ
ザァァァッ
やばいっ…！
ビクッ
ミサトさんが出てくる…！
サァアアアアアア
精子…拭く時間ないっ…！
ゴッゴッ
せめて元通りの場所にっ…！
キュッ
ダダッ
ガチャッ


あれ…？
洗濯する下着と新しい下着が逆になってるような…
ぼこ
ぼこ
私こんな置き方したっけ…
ビクッ
…！
これ…
精液…？


はぁー…
顔…合わせづらいな…
……
やっぱり昨日のこと…気付かれてるよね…
怒られるかな…
どうしてあんなことしちゃったんだろ…僕…
あら
おはようございます坊ちゃま
何してるんです？
早く朝食を召し上がらないと遅刻しますよ
あっ…！
お…おはよう…ミサトさん…！
もしかしてミサトさん…気付いてない…？
いってきます！
はい お気をつけて行ってらっしゃいませ
助かったぁー
やっぱり脱いだ下着だから汚しても気付いてないんだ…！
さて…と…
ベッドの下とは…
なんとまぁ定番の隠し場所ねぇ…


坊ちゃまも
こんなモノを読む年頃に
なったのね
坊ちゃまの歳なら
女性の身体や
セックスに
興味を持つのは
おかしくないし…
別段 コレに関しては
そっとしておくつもり
だけど…
となると昨日の一件は
やっぱり坊ちゃまで
間違いない…か…
対象が
私というのは
少々問題だわ…
べつに私自身は
坊ちゃまみたいな子供に
お風呂を覗かれても
下着をイタズラされても
どうって事ないけれど…
変に受け入れて
エスカレートしても
面倒よね…
でも直接叱りつけて
ギクシャクしても
これからの仕事…
やりづらいし…
旦那様に相談して
お任せするのも…
それはそれで
気まずいし…
ちょっと
可哀想だし…
一体どうしたものやら…
まぁ
お年頃の子の性なんて
繊細な問題だし…
もうちょっと様子を
みてみようかしら…
昨日のは一時の
気の迷いかも
しれないし…
ところが
そんな私の
期待は虚しく…
坊ちゃまは
あれから毎晩
入浴中の私の下着で
イタズラするように…
それでもそのうち飽きる
だろうと見て見ぬフリを
続けていたある日…


替えの下着にイタズラするなんて…
これはもう…バレるのをわかってて私を試しに来てる…
ここまでされたら黙っていてあげられないじゃない…
面倒だけど…そろそろ面と向かって叱るしかないわね…
ふぅ…


旦那様にも何かあったらキチンと叱るように言われてるものね…
坊ちゃま
お休みになる前に少々お話があります
ごめんなさい…ミサトさん…


坊ちゃまもお年頃の男の子ですから
そういうコトに興味が沸くのは決して悪いことではありません
でも今日のことは…やってはいけないことだということはわかりますよね？
……
女性の身体に触れたりセックスしたりという性行為は
もう少し坊ちゃまが大きくなって心を通わせる女の子と出会って
お互いの同意の上で行うことです
今日坊ちゃまがしたことはあまりにも自分勝手で一方的な相手を傷付ける行為ですよ


どうして
こんなこと
したんですか
坊ちゃま…？
あ…
この叱り方は少し
イジワルすぎたかな…
どうせ下着に
イタズラされた事に
私が興奮して…なんて
エッチなビデオみたいな
都合のいい展開期待して
やったんだろうし…
とても言えないわよね…
それは…
その…
あの…
もうだめだ…
ミサトさんに
完全に軽蔑
されてる…
でも…どうせ嫌われ
るなら…いっそ…！
ぼ…僕…！
おかしく
なっちゃったんだ…！
最近…
女の子のことばっかり…
エッチなことばっかり
考えるようになっちゃって…
こんなこと
自分でもダメだって…
わかってるのに…
全然やめられなくて…
本とか見て
なんとかしようとしても…
見たい所は隠されてて
見れないし…
だから…その…
なんとかして…
ミサトさんに
アソコを見せて
もらいたくて…！
ミサトさんと
セックスしたくて
こんなことをして
しまいましたっ！
ごめんなさいっ！
しまった…
……
すごく答えに困る
最低な告白を
引き出してしまったわ…
まさかこんな正直に
直球で来るとは…
こういう場合
なんて答えたら
傷つけないかしら…


このままじゃ僕きっと変態になっちゃうよっ！
お願いしますミサトさんっ！
アソコ…見せてくださいっ！
た…畳み掛けてきた…
…最低なお願いで…
私はただのメイドだし…母親って訳でもないから…この子がこの先どう育とうと関係は無いんだけど…
このまま変に傷つけたらいろいろと歪んでしまいそうだわ…
赤ん坊の頃から面倒を見てるから情も親しみもあるのは確かだし…
正直 こんなおばさんのアソコを見せるくらいどうって事ないんだけど…
それはさすがに一線を超えてしまう気もするし…
でも…これからもっとおかしな方向に性欲が向いても厄介だし…
あぁもうこんな子供の性教育に悩まされるなんてメイドの仕事じゃないわよ…
うぅーん…
…坊ちゃま
…！
それじゃあ私とお約束してください
まず…下着にイタズラするのはもうやめること

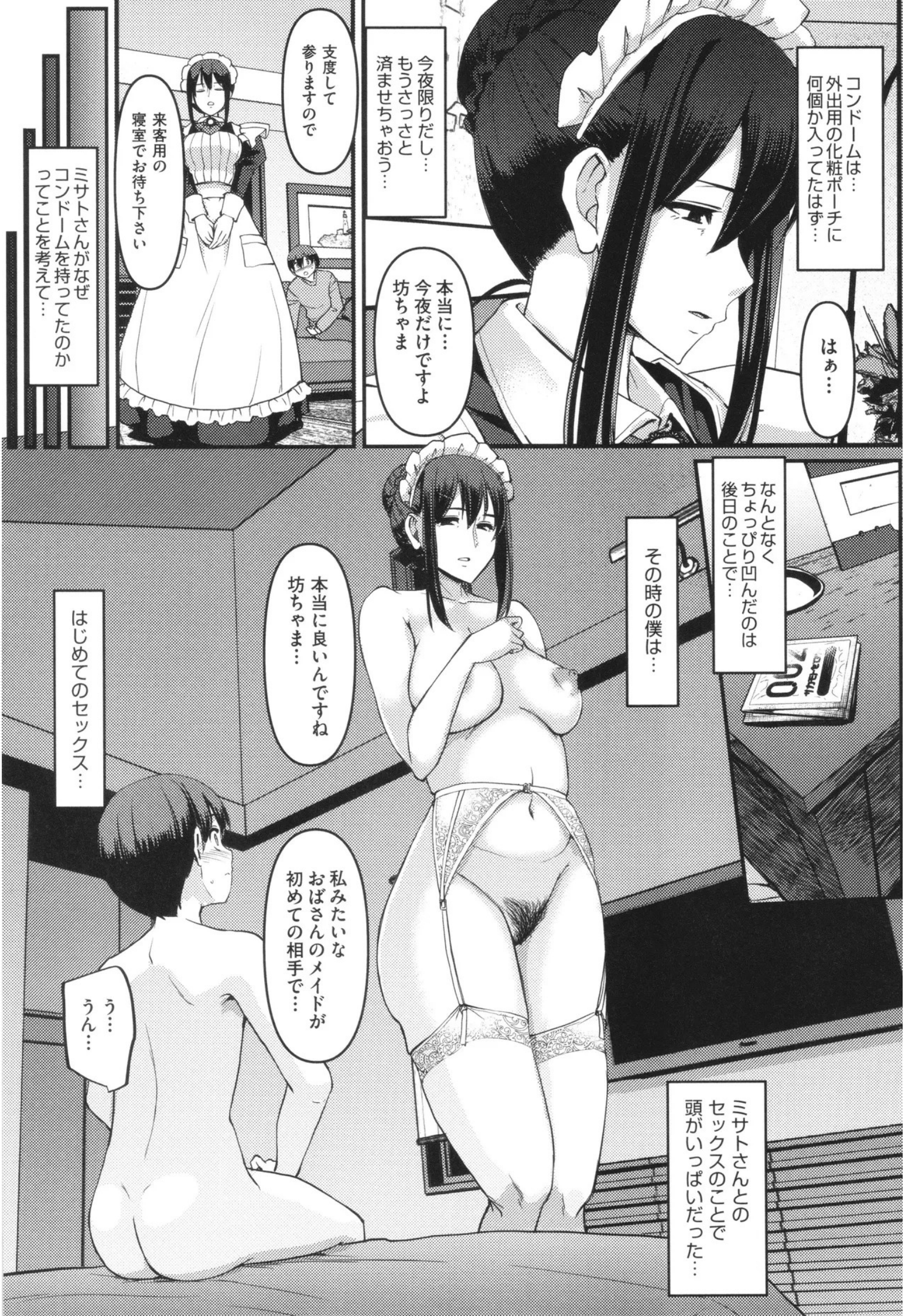

そしてもう一つ
今日のことは誰かに話したり…お友達に自慢したりしてはいけません
明日には忘れてお互い 今まで通りに過ごすこと
その2つのお約束を絶対に守れるなら…
今日は特別に…見せて差し上げます…
う…うんっ！約束する…！
絶対約束するよミサトさんっ…！
ひとまずこれで…落ち着いてくれるでしょ…
このまま興味をこじらせて…もし同級生の女の子に悪さしたりしたら大ごとだものね…
わかりました
私が少し見せて解決するのであればお安いものだわ…
どうせあと2~3年もすれば彼女でも出来てちゃんと経験する事だろうし…
まぁ初めて見るアソコが四十手前のメイドの使い古しっていうのもちょっと可哀想な気はするけれど…
ルレッ
ス
ル
ドキ


それでは
坊ちゃま…
どうぞ
御覧くださいませ
わ…
ドクン
こ…これが
女の人の…
ミサトさんの…
ドクン
ドクン
ためらいもなく
そんな近くで…よっぽど
見てみたかったのね…
そういう事…
最近無かったから
毛の処理も
全然してないわ…
お風呂
入った後だから
匂いは大丈夫だと
思うけど…
も…もっと
よく見たいよ…
ミサトさん…
はいはい


これで
よろしいですか？
かぽっ
冷静に考えると
とんでもない事
してるわね 私…
やっぱりただ
叱りつけておしまいが
正解だったんじゃ…
ね…ねぇ
ミサトさん…
触ってみても
いい…？
もぢ
もぢ
もぢ
ダメです
見るだけで
我慢なさって
ください
じ…じゃあ…
その…
見ながら…
ひとりでするのは…
……
…今日だけ
ですからね
本当に目の前で
オナニー
始めるなんて…
この年頃の
男の子の性欲って…
はぁっ…
シコ
シコ
はぁっ…
シコ
シコ
本当に
見境ないわよね…


あくまで今の私はこの子にとって…
無修正のエッチ本みたいなモノなんでしょうけれど…
まさか私もこんな歳の離れた若い男の子に…
はっ…
ミサトさんっ…
あっ…
こんなにも必死に求められるなんて思ってもみなかったわ…
まだまだこんなあどけない顔して…
たぶん私とセックスする妄想でオナニーしてるのよね…
はっ
はっ
はっ
まぁ…一人の女としては…
ちょっと悪い気はしないかな…
ミサトさんっ…もう僕イキそうっ…！
イクっ…イクよっ…ミサトさんっ…！
あうっ…あっ…！
はっあっ！
もう…そんな所に出しちゃって…
あとで掃除と洗濯しなきゃいけないじゃない…
しかしずいぶん出るわね…少なくとも今日2回目のはずなのに…


まぁここまでしてあげれば…
○学生には充分でしょ…
はぁ…
ねぇ…ミサトさん…
はぁ…
アソコから透明な汁出てるの…
もしかしてそれが…濡れてるってこと…？
な…そんなわけっ…
ねえっ！やっぱりそうでしょっしたいんだよねっ！
ミサトさんも僕とセックス…！
お願いっミサトさんっ！僕やっぱり最後までしてみたいよっ！
今日だけだからっ！絶対誰にも言わないからっ！
これでおしまいなんてやだっ！
なんとなく予想はしてたけどやっぱりこうなっちゃったわね…
誰にも言わないのは約束したけどっ
失態だわ…まさかこんな子供に見られて濡れるなんて…
ダメです坊ちゃま…！見るだけだとお約束を…
セックスしないなんて約束してないよっ…！ミサトさんお願いっ！
…いいですか坊ちゃま妊娠を目的としないセックスには避妊具を使わないといけません
坊ちゃまお持ちではないでしょう？ですから今日は…
じゃあ僕今から買ってくるからっ！
それならいいでしょ!?ねっ？
いけません！こんな時間に外に出るなんて…！
ダメだわ…
もうこうなったら男の子は止まらないわよね…
お願いミサトさんっ！
ちゃんと約束守るからっ！
ねえっミサトさんっ！


コンドームは…
外出用の化粧ポーチに
何個か入ってたはず…
はぁ…
今夜限りだし…
もうさっさと
済ませちゃおう…
本当に…
今夜だけですよ
坊ちゃま
支度して
参りますので
来客用の
寝室でお待ち下さい
ミサトさんがなぜ
コンドームを持ってたのか
ってことを考えて…
なんとなく
ちょっぴり凹んだのは
後日のことで…
その時の僕は…
本当に良いんですね
坊ちゃま…
はじめてのセックス…
私みたいな
おばさんのメイドが
初めての相手で…
う…
うん…
ミサトさんとの
セックスのことで
頭がいっぱいだった…

じ…じゃなくてっ
ミサトさんっ…
その…美人だし…

ぜ…全然おばさん
なんかじゃないよっ…

だから…
ぼくっ…

ありがとう
ございます

わっ

ギシッ

それでは僭越ながら
今夜は私がリード
させて頂きます…

とはいえ私も
もう充分に濡れて
おりますし…

ぴりっ

AMOTO ZERO TWO
カモトゼロツー
アルフィット

坊ちゃまもまた
勃起なさってますので

時間も遅いですし
手早く挿入して
しまいますが
かまいませんね？

う…
うん…

ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ

それでは…
失礼致します

初体験の坊ちゃまには
可哀想だけど…

あんまり丁寧で濃厚な
セックスしちゃうのも
おかしいし…

騎乗位で私が動いて
すぐに終わらせちゃおう

ギシッ

くちゅっ

ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ

ちゅぷ…

あっ

ビク〜〜
ビクッ


おぁあぁあっ!!
ミルクもあげて
おむつも替えてた
男の子と…
まさか本当に
セックスする事に
なるなんて…
あーあ 本当に
挿れちゃったわ…
ちゅぷっ
それにしても
こんな細くて小さいと
私のアソコ…
ユルくないかしら…
いつもよりちょっと…
強めに締め付けて…
それじゃあ
動きますね
坊ちゃま
ま…まって…
ミサトさっ…!
ぶるっ
ぶるっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
あっ!ああっ!あっ!
ミサト…さんっ!
なにっ…これっ…
だめっ…!
溶けるっ…
溶けちゃうよっ…!
良かった…
ちゃんと気持ちいい
みたいね…
あっ!あぁっ!
きもちっ…きもちいっ!
あっ!出ちゃっ!
出ちゃうっ!ミサトさんっ!
って…
もうイクんだ…
まぁ楽でいいけど
パンッ
パンッ
パンッ



ビュクン♡
ビュクン♡
ビュクン♡
ビュクン♡
あぁぁぁぁぁぁ!!!
ビクビクビクビクビクビク
はぁっ…あっ
あっあっ…
ズルルルッ
ちゅぽんっ
あうっ
いかがでしたか坊ちゃま
初めてのセックスは
にゅるるっ


うぅっ…
ミサトさんのアソコ…
気持ちよすぎて…
ワケわからないうちに
終わっちゃった…
ね…ねぇ…
ミサトさんは
感じた…？
キュッ
僕のお○ちん
気持ちよかった…？
…あ…はい
とっても
感じてしまいました
うぅ…
優しい嘘は
つらい…
しゅん
今度は絶対ミサトさんも
気持ちよくするからっ！
もう一回っ…
良いでしょ
ミサトさんっ！
やっぱり
あんな短いセックスで
はいおしまいじゃ
納得してくれないか…
う…うん！
ち…
ちょっとまって…
あ…あれ…
これ…逆…？
あせ
あせ
私にとって…
少し甘やかし過ぎな
気もするけど
まぁ今夜限りだし…
もう少しくらい
自由に使わせて
あげようかな…
ちゃんとコンドームを
付けてからですよ
坊ちゃま
焦らなくて
良いですよ
コンドームには
向きがあって…
そう…そのまま
爪を立てないように
根本まで…
今日のセックスは
ただの性教育…


坊ちゃまの宿題を手伝うのと…
キチンと付けられないと坊ちゃまに恋人が出来た時困りますからね
……
なんら違いはないけど…
それなら…ミサトさんがなってよ…
ぼ…僕の彼女に…
坊ちゃまにとっては初めて女性と肌を重ねる大事な日なのよね…
傷付けないようにできるだけ優しく…
大変光栄なお申し出ですが…
けれど一線は引いて接する…
私はもう少し大人の男性が好みですので…
さぁ坊ちゃま…挿れてみてイイですよ
それがきっと…今夜の私の…メイドのおしごと…
くぱっ♡
はっ…うっ…
くちゅ
ぶるるっ
んううっ…！
にゅぐっ


あっ…あぁっ…
気持ちいいっ…
ミサトさんの
アソコ…
ミサトさんはっ…
ミサトさんは
気持ちいいっ…？
はい
坊ちゃま
ではそのまま
腰を動かして
出し入れしてみて
下さい
うん…
あっ…はっ…
うっ…うぅっ…
初体験の
女性の膣の刺激に
必死に耐えながら…
はぁっ
うっ
どうにか私を感じさせ
ようと一生懸命に腰を
振る姿は可愛らしくも
あるけれど…
セックスとしては
やっぱり全然…
物足りない
わね…
んっ…
うっ…
んっ…
うぅっ…気持ちいい…
またすぐ出ちゃいそう…
でも頑張って…
ミサトさん
いっぱい
感じさせて…
せめてもう少し
長さがあれば…
イイところ…
当たりそうな
のに…
はぁっ…
はっ…
あっ…！
また僕と
セックスしたいって…
思って
もらわなきゃ…！



なんか普通に気持ちいいセックスしたくなってきちゃったなぁ…

そろそろ誰かいい人…居ないかしら…

はっ

はぁっ

はぁっあっ！

んっんっ

うっ！

ああぁっミサトさんっ

僕またっイッちゃうっ…！

どうぞ我慢しないでお出し下さい

ミサトさんっミサトさんっミサトさっ

あぁぁっ!!!



すごい勢いで射精してる…
あっ…あぁっ…あっ…
ゴム越しでも判るくらい…
ごめんね…ミサトさん…また僕だけ…
いいえ 坊ちゃま初めてにしてはとてもご立派でしたよ
さぁ もう遅いですから そろそろ就寝致しましょう
でもまだ…一個あるよね…
コンドーム…
僕まだ寝たくない…
やっぱりもっとミサトさんとセックスしたいよ…!
この底無しの性欲は若さなのか…それとも坊ちゃまは少し旺盛なのか…
……
それなら私も少しくらい…
それでは坊ちゃま…
最後はぜひ後ろからお願いします
私の一番感じ易い体位ですので…
欲を出してもいいわよね…


わ…！
わかったっ！
い…いくよっ
ミサトさんっ…！
はうっ…
あっ…あぁっ


やっぱり…
ちょっと
足りないけど…
あっ…
はっ…
あっ…
あぁっ…！
正常位よりは
深く入ってる…


坊ちゃまも
さすがに5回目
ともなると…
うっ…
んっ…
ふっ…
うっ…
ふっ…
ふっ…
すぐに
イッちゃう事もなく
頑張ってるし…
くうぅっ…


入り口のあたり…
硬いので程よく
かき回されて…
きもち…
いっ…
でもまぁ全然
イケる程じゃ
ないわね…
ちょっと
気持ちいいかも…
坊ちゃま寝たら…
オナニーしようかな…
ミサトさんの…
ナカっ…
あぁっ…！
ごめんねっ…
ミサトさんっ…
僕の…
小さくてっ
セックス…
ヘタでっ
ミサトさんがいっぱい
大きな声出るくらい…
感じさせて
あげたいのにっ
僕ばっかり…
気持ちよくてっ
ああっ…
あああっ…
私…いつもそんなに
大声出さないんだけど…
エッチなビデオの影響
なのかな…
自信喪失させても
可哀想よね…
ちょっと合わせて
あげようかしら…


んっ…あっ…
お上手です…
ぱちゅんっ
坊ちゃま…
あっ…
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ミサトさん
感じてるっ！
エッチな声
出てきたっ！
もう少しだっ！
頑張らなきゃっ！
はぁっ…んっ…
ぱっ
あっ…はっ…
ぱっ
ぱっ
こんな必死な
腰振りされるのも…
学生の頃のセックス
みたいで新鮮かも…
ぱっ
ぱっ
ぱっ
でも…
そろそろ終わりに
させて貰うわね…
ギュルル
キュウウウ
うあっ…！
ミサトさんの
アソコっ…！
急に
ギュウってっ！
あぁあっ！
ビクッ



ごめん…なさいっ！ミサトさんっ！
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
僕もうっ…またイッちゃうよぉっ！
ぱちゅ
すごく…ご立派でしたっ…
どうぞっ…坊ちゃまっ…
ぱちゅ
ぱちゅ
お出し下さいっ…
たぷっ
たぷっ
たぷんっ
ぱちゅ

あっ…あぁっ
ビクッ
ミサトさんっ…ミサトさんっ…
ビクビク
ミサトさっ…あぁっ…!!
ぶるるっ
ドュクン
ん…
あぁぁぁっ!!!…
ドュクン
ドュクンッ
ぶるぶるぶる


ねぇ…
ミサトさん…
ホントに…
もうセックス…
してくれない？
はい
そういう
お約束ですから
絶対ダメ…？
絶対ダメです
お約束
したでしょう？
僕…
ミサトさんのこと…
好きだよ…？
ミサトさんは
嫌いなの…？
まったく…ただ
好きとか嫌いとか…
そう単純な話じゃ
ないのに…
こんなおばさん
相手に…
もう…
これだから
子供って…
それじゃあ…

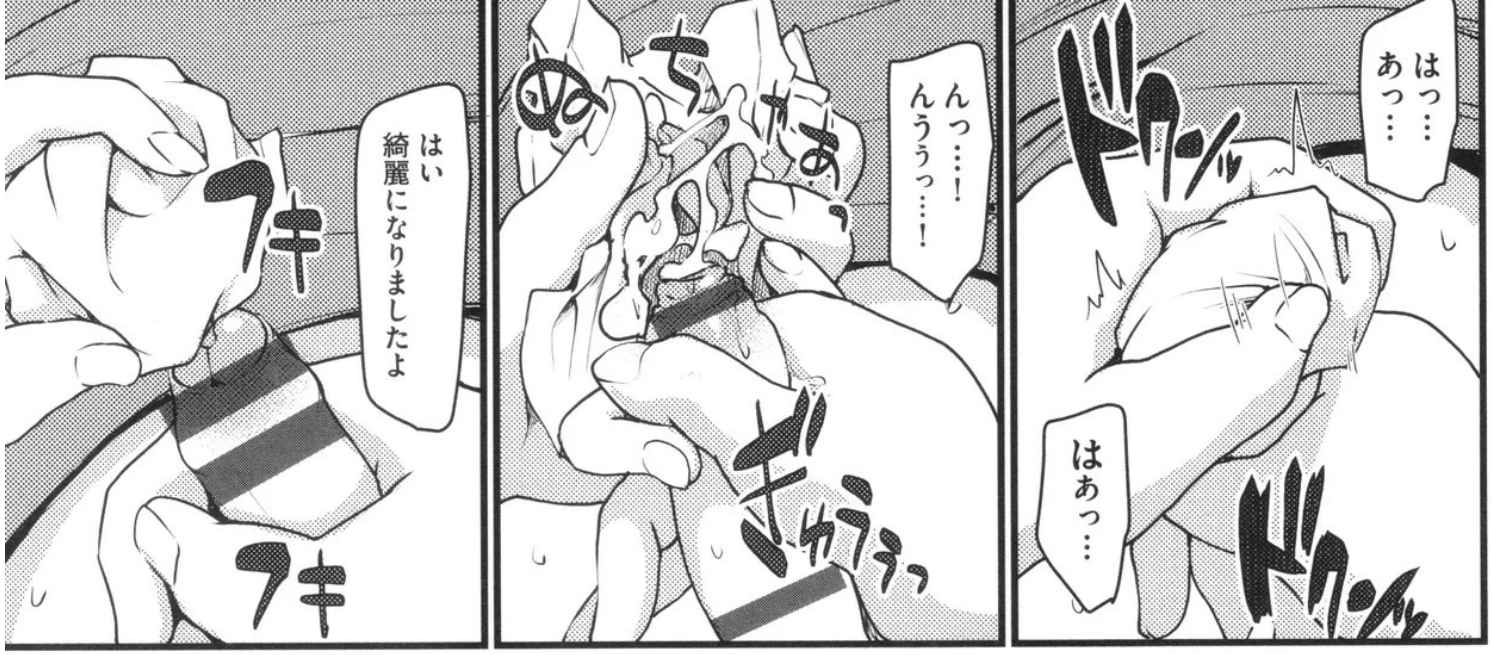

今度の期末テストの
成績が良かったら…
もう一度考えて
差し上げます
だからちゃんと
お勉強頑張るん
ですよ？
ふぅっ
まぁ…
坊ちゃまの
正しい性教育も…
メイドのおしごと…
かな…？
ミサトさんっ…！
うんっ…！
僕 絶対
頑張るよっ…！
がばっ
さぁ早く寝ないと
明日起きられませんよ
はーい！
コンドーム…
買っておかなきゃね…

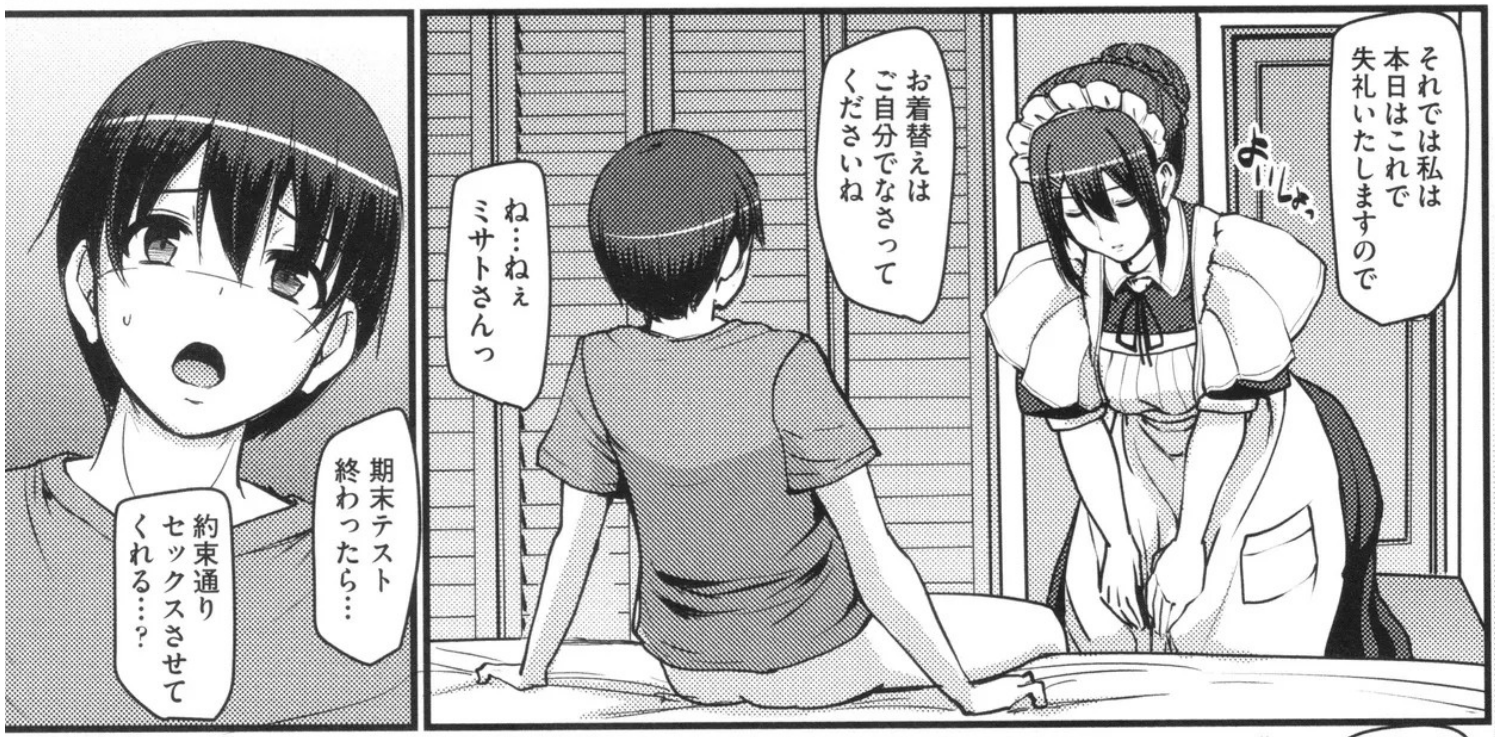
■おわり■


ね…ねぇ…
ミサトさん…
やっぱり…
僕も
ミサトさんのこと…
ちゅこ
気持ちよくっ…
あぁっ…！
私への お気遣いは
結構ですから
遠慮なさらず
射精して下さい
で…でもっ
あっ…
コス
僕っ…
ミサトさんとっ…
そのっ…
セックスが
したくてっ…！
ビクンッ
あっ…！
私の手では気持ち
よくありませんか
坊ちゃま？
ぬちっ
そ…そんなこと
無いけどっ…
あぁあっ！


やっぱり僕っ…
またミサトさんの
アソコにっ…
はっ…
あっ…！
で…でちゃうっ
もう出ちゃうよっ
ミサトさっ…
あっ
はい
坊ちゃま
どうぞ
ご遠慮無く
ミサトさん
イクっ…！
イッ…！


くっうううっ…！
美里 加奈子(36)
みさと かなこ
ああっ…！
はっ！
あうううっ…！
メイドのおしごと。
MAID NO OSHIGO'TO III


はっ…
あっ…
はぁっ…
んっ…！
んうぅっ…！
はい
綺麗になりましたよ


それでは私は
本日はこれで
失礼いたしますので
お着替えは
ご自分でなさって
くださいね
ね…ねぇ
ミサトさんっ
期末テスト
終わったら…
約束通り
セックスさせて
くれる…？

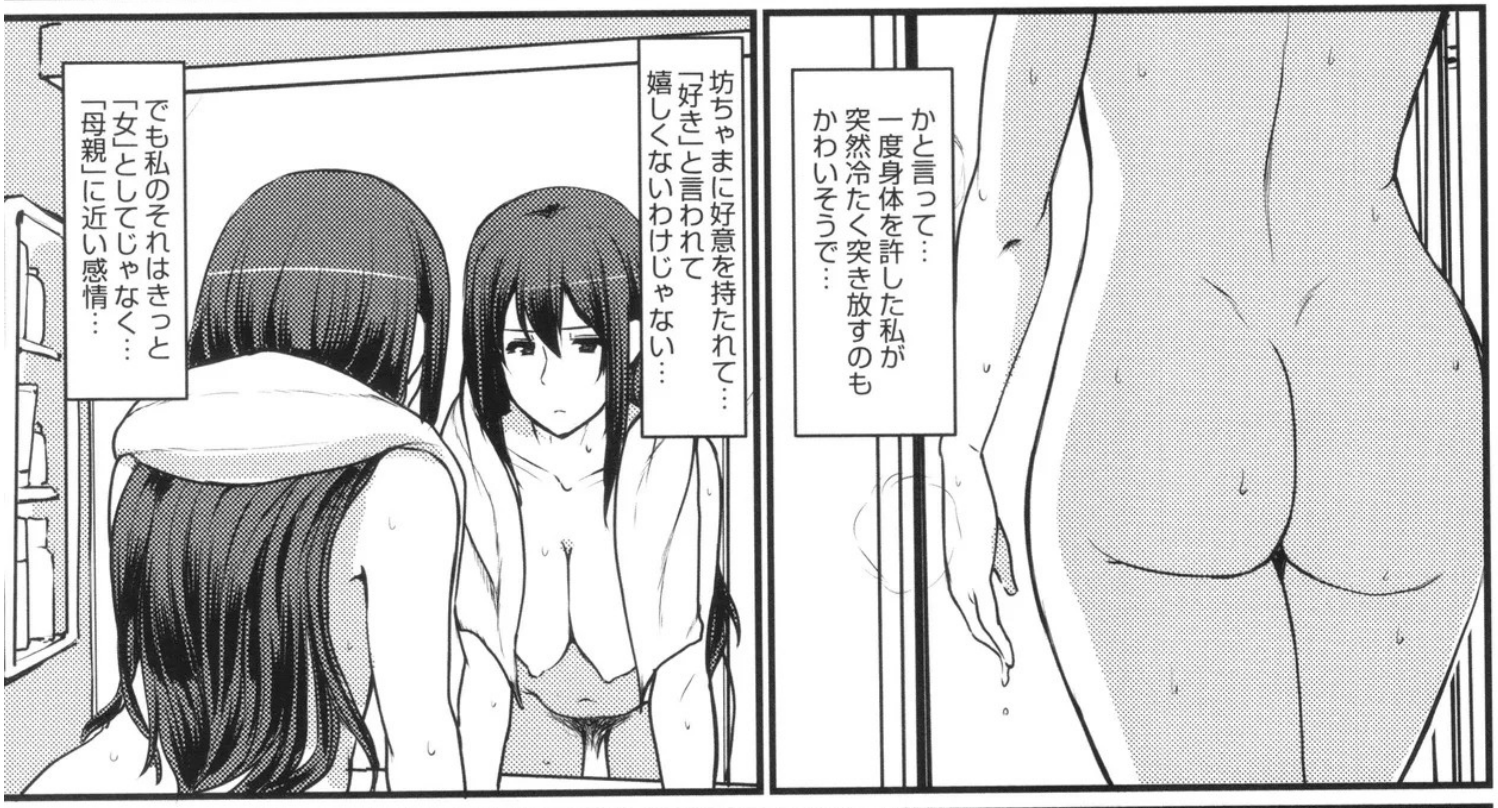

私はテストの成績が
良かったら「考える」と
申し上げたのです
おやすみなさいませ
ま…まってよ
ミサトさっ…
あの日から僕は…
ミサトさんとの
セックスが
忘れられなくて…
何度も何度も
セックスを
お願いした…
でも
そのせいか…
するとミサトさんは…
仕方なく手で
してくれるように
なったんだ…


なんだか最近…
ミサトさんが少し
よそよそしいような
気がする…
嫌われて当然な
ワガママばっかり
言ってるから
仕方ないのは
わかってるけど…
忘れられるわけ
ないよ…
ミサトさんとの
セックス…
もう一度…
いや何度だって
したい…
ミサトさんは全然
そんなふうに思って
くれてないのかな…
ぴろっ

僕はあれから毎日…
ミサトさんのことで
頭がいっぱいで…
あっ…
ミサトさんのこと
考えると
胸が苦しくて…
はっ…
ミサトさっ…
僕…きっと
ミサトさんに
恋…しちゃってるんだ…


ミサトさん…っ
ミサトさん…っ
ミサトさんっ！
あっ…！
はぁー…
はぁっ…
はぁっ…
やっぱり
間違いだったわね…
坊ちゃまと
セックス
しちゃったのは…


あの年頃の男の子じゃ
無理も無いけれど…
少し
痩せなきゃな…
「セックスしたい」と
「好き」を
勘違いしちゃってる…
別に本当はこんな
おばさんの身体なんて
いくら使わせてあげても
いいんだけど…
そんな事して…
もし旦那様や
世間様にバレたら
シャレにならないし…
いやまぁ…
手コキも
充分アウトよね…
ムニッ


かと言って…
一度身体を許した私が
突然冷たく突き放すのも
かわいそうで…
坊ちゃまに好意を持たれて…
「好き」と言われて
嬉しくないわけじゃない…
でも私のそれはきっと
「女」としてじゃなく…
「母親」に近い感情…


この歳まで独身だと
自分が結婚して
家庭に入る姿なんて
もういまいち想像も
できないのに…
結婚より先に
子育てに悩む事に
なるなんて…
皮肉な話ね…
でも…
それがきっと
今の私の仕事…
メイドのおしごとだわ…


そうだ
優太
兄貴の部屋でまた
新しいAV
見つけたんだ
このあと
またウチで
観ようぜ
うーん
やめとくよ
期末テスト
来週だし
ちぇっ
なんだよー
最近ちょっと
付き合い悪いぞ
優太ー
ごめん佳祐
テストの点悪いと
叱られちゃうから…
まぁ優太は一応
お坊ちゃまだしな
テスト終わったら
思いっきり遊ぼうぜー
うん
また明日ー
ミサトさんと
約束した
テストの点数も
大事だったけど…
今日こそは
ミサトさんとの
関係がなにか
進展するかも…
エッチなこと
できるかも…
なんて期待で…
ただいまー
最近の僕は
学校が終わると
出来るだけ早く
家に帰った
ただいま
ミサトさんっ


あら坊ちゃま
これは失礼いたしました
お外は暑かったでしょう
おかえりなさいませ
ヒュウウウウン
今冷たいお茶をご用意致しますね
うんっ
どうぞ坊ちゃま
ありがとミサトさん
コトッ
それでは
私も少々休憩させて頂きます


ミサトさん…
すごい暑そう…
夏用とはいえ
あんなメイド服じゃ
無理ないよね…
カラン
ミサトさんが動くたびに
香水の匂いと
ミサトさんの匂いが
ふわっと…
ミ…
ミサトさん…
すごい
汗かいてるね…
ゴクッ
あら
失礼いたしました
お見苦しい所を
お見せして…
掃除中で
換気をして
おりましたが
すぐに冷房が
効いてくると
思いますので…
コトッ
ぼ…僕が
ガシッ
拭いて
あげるね…！
ぼ…坊ちゃま…
お気遣いは
無用です

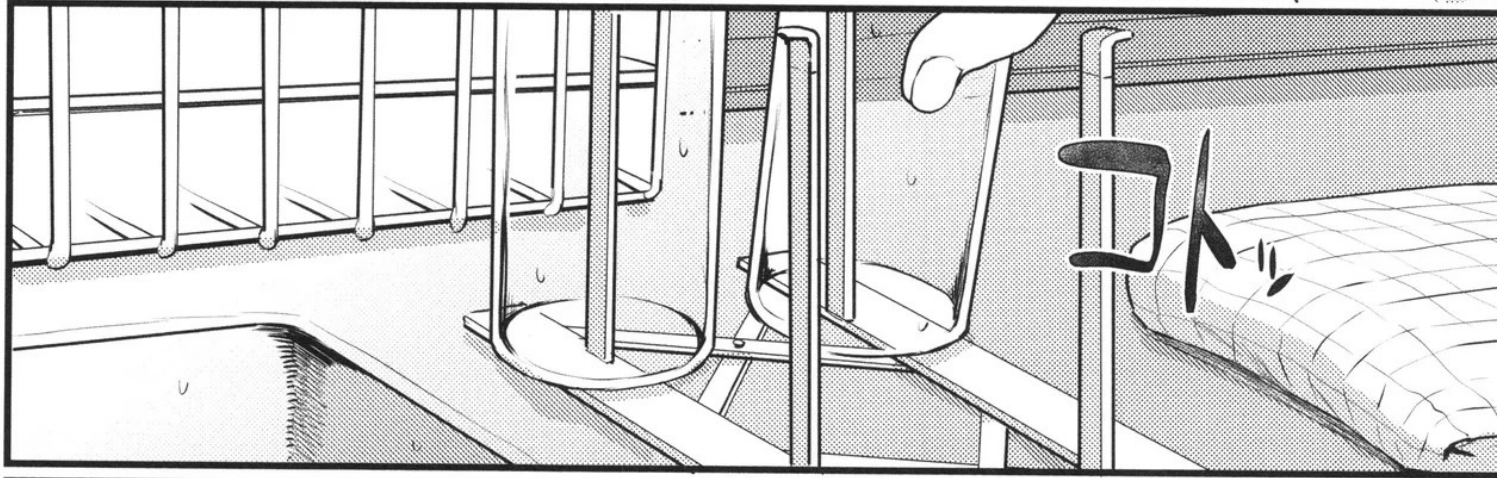

結構ですから
坊ちゃま…！
坊ちゃま


こんな
コトしても
セックスは
しませんよ


べ…別に僕…
そんなつもりじゃ…
僕は…
ただ…
ミサトさんっ…！
ムギュ
こ…コラ坊ちゃまっ！
ねぇっ…！今日こそいいでしょミサトさんっ！
ミーン
僕っ…ミサトさんのこと好きなんだっ！
本気なんだっ！
ちゃんとっ…ミサトさんもっ
僕が気持ちよくしてあげるからっ…！
!!
ミンミン
やめなさい！坊ちゃまっ！
ガタン
ガタ
何をしているかわかってるんですか!?


っ!!
ミ…
ミサト…さん…
カラン
少し頭を冷やして
よく
考えてくださいね
坊ちゃま
ご自分が
いま何を
しようとしたのか


パタン
ミズヤ
うっ…
カチャ
カチャ


コト


はぁー…
つい叩いてしまった…
これで少しは
わかってくれると
いいんだけど…
きっとそう
簡単なものじゃ
ないわよね…

あれくらいの年頃の男の子の恋愛感覚なら…

セックスは恋愛の到達地点だし…

一度セックスを許した私がセックスを拒絶するって事は…

ただ私に嫌われたんだと思うだろうし…

きっとそんな焦りもあって 何度もセックスを求めてきたのよね…

大人と子供のセックスに対する価値の違い…本当に私の思慮が足りなかったわ…

自己承認への欲求と…抑えきれない性衝動…

心と身体のバランスが不安定な時期…

誤魔化すみたいに手で処理してあげた事もまたややこしくしちゃったのかな…

坊ちゃまの心は今頃きっと大混乱よね…

なんだか全部私のせいのような気がしてきたわ…

やっぱり旦那様に丸投げして…深入りするんじゃなかった…

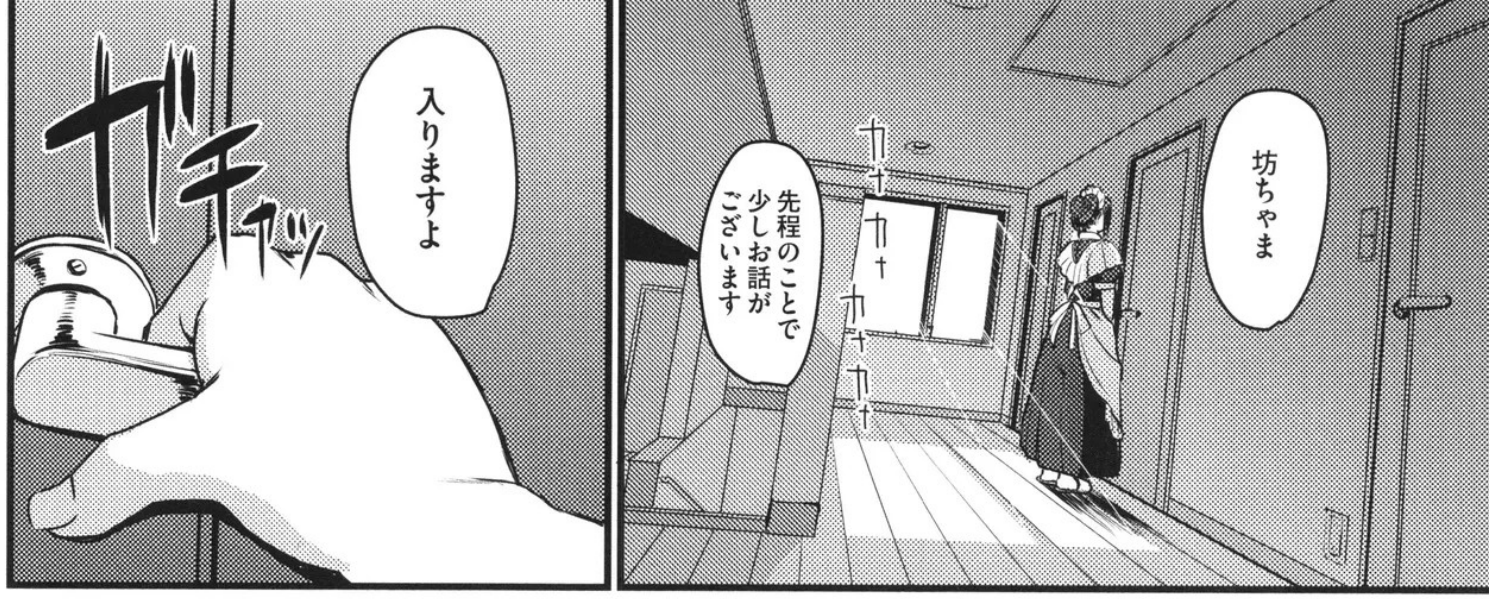
面倒だけど…今回もちゃんと叱っておかないとね…

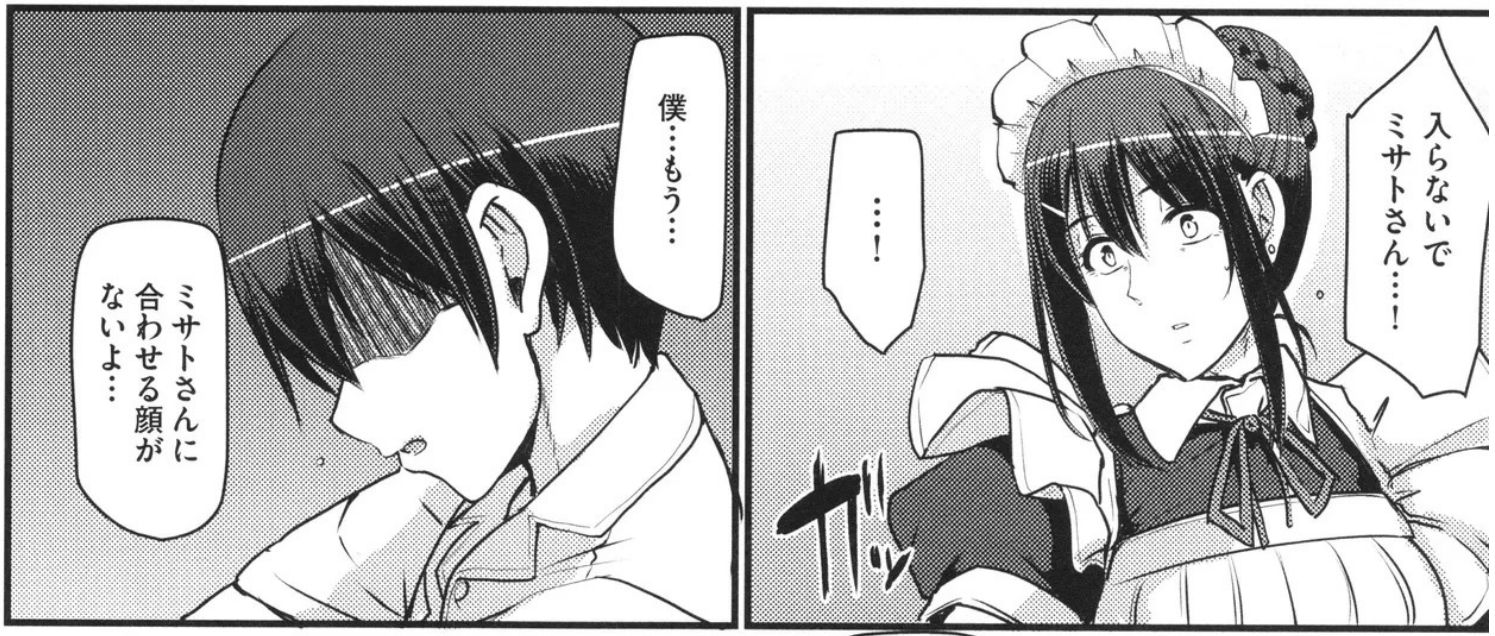
多少は懲りたでしょうし今日は素直に聞いてくれるでしょ…

このまま放っておいてスネて晩ごはん要らないとか言われても困るし…

夕飯の支度前にさっさとお小言を済ませて…

今日は坊ちゃまの好きなモノ…作ってあげよう…


坊ちゃま
先程のことで少しお話がございます
入りますよ
ガチャッ


入らないでミサトさん…！
…！
ガッ
僕…もう…
ミサトさんに合わせる顔がないよ…


ミサトさんが…嫌がってるの…
僕だって…ちゃんとわかってたけど…
でも…そんなの…認めたくなくて…
ミサトさんに嫌われるのはイヤだけど…エッチなことはしたくて…
エッチなこと…我慢できない自分がまたイヤで…不安で…
うえっ
でも…ミサトさんに認めてほしくて…
ひっ
ひぐっ
僕…ミサトさんが好きなのは…本当だから…
もう…どうしたらいいのかわからないよ…
思ってたより重症ね…コレは…
面倒だなぁ…もう…


いっそこのまま放っておいて
冷たく距離を置くのも…
坊ちゃまの成長の為には
必要な事かもしれない…
現実的に
私と坊ちゃまの
恋愛関係なんて
ありえないし…
若いうちの失恋の傷も…
大事な経験だし…
でも…
その傷を付けるのが…
本当に私で良いの…？
こんな年増のメイドのせいで
坊ちゃまが恋愛に
臆病になってしまったら
あまりにも不憫だわ…
坊ちゃま…


私も…
坊ちゃまのことが
好きですよ…
ですが…
それはどちらかと言えば
母親のような感情です
血は繋がっていなくとも
長年坊ちゃまのお世話を
させて頂いた私にとって…
坊ちゃまは本当の
子供のようなモノ…
嫌いになんて
なれませんよ…
……


でも…だからこそ
坊ちゃまが悪いことをしたら
キチンと叱らせて頂くのです
家族のように思って下さっていた私が
突然性の対象になってしまった
坊ちゃまの戸惑いはわかります
それについては軽率に
坊ちゃまと性行為をしてしまった
私にも大きく非があります
それでも…あんな無理矢理
力尽くで女性にセックスを
迫るなんて 絶対にしては
いけないことです
それはちゃんと
わかりますよね
坊ちゃま
…うん…


私は坊ちゃまの母代わりとして
これからも坊ちゃまの成長を見守って行きたいのです
ですから…これまでのおかしな出来事は忘れて
少し距離を置いてキチンと一線を引いた関係を…
嫌だっ!!
やだよっ！そんなのやだっ！
坊ちゃま…
僕は本気でミサトさんのことが好きなんだっ…！
もう遠い昔の事だけれど…初めての失恋って…こんな感じだったわね…
あぁ…
激しく胸を焦がす焦燥感…世界の終わりのような喪失感…辛くて…苦しくて…
この人を失うくらいならって泣いて泣いて…
みっともないほど必死にすがりついて…
もっと近くで…一緒に居てよっ
ミサトさんと離れるなんて…嫌だよっ…
駆け引きもまだろくに出来ない未熟な坊ちゃまの悲痛な泣き顔と剥き出しの感情が…
歳を重ねて失う事にも慣れ…
いつのまにか鈍化していた私の心に突き刺さる…


坊ちゃま…
坊ちゃまの私に対する
お気持ち…
充分に伝わりました…
罪を重ねる事に
決めた…


我が子同然の
坊ちゃまへの
母性からなのか…
あるいは
その両方なのかは
わからないけれど…
はたまた青い頃の
自分を重ねた哀れみ
からなのか…
私はこの時再び


そんなのいいよ…
むりだよ…僕は…
ミサトさん
じゃなきゃ…
やだよ…
ですから…


ですが何度も
申し上げた通り
私は坊ちゃまと
恋仲になることは
できません
坊ちゃまにはこれから
もっとふさわしい
女性と恋をして…
素敵な男性に
なって欲しいのです


今の私に
できることは
ただ一つ…
坊ちゃまが
一人前の男性に
なるための
性教育として…
私の身体で
セックスを教えて
差し上げることだけです
こんな官能小説みたいな
言い訳が…
世間に通用するはず
ない事なんて
わかってる…
…!!


でも…今の私と
坊ちゃまにとって
その建前は…
寝室…
行きましょうか…
大事な最後の
一線なのだ…


では坊ちゃま
今日は坊ちゃまの思うように進めてください
思うところがあればその都度助言をしてまいりますので
初めて出来た恋人とのセックスのつもりでしてみてくださいね
う…うん
結局のところこれは…
ふっ…
ちゅっ
ちゅっ
んっ…
ちゅっ
泣き喚く僕を黙らせるための飴玉…
ちゅぷっ
ちゅっ
はあっ…
それはもちろんわかっているけれど…
ミサトさんが僕を見捨てず受け入れてくれたっていう事実が…
ミサトさん…
ギシッ
僕にとっては何よりも嬉しかった…
そ…そこに寝て…
はい坊ちゃま


はぁ…
肝心なところで…
私っていつもこうね…
まぁこんな
私なんかを…
こんなにも
求めてくれるのは…
だから
結婚できないんだわ…
押し切られたり…
流されたり…


決して…
悪い気はしない
わけで…
じ…じゃあ…
脚…
開いて…
はい
坊ちゃま
ですが
今日は…


昼間汗をかいて
そのままですので
ドキッ
ちょっと
匂いがキツイかも
しれません


うわ…
ほ…ほんとだ…
スカートの中から
熱気と…ミサトさんの
濃厚な匂いがここまで…
ドキ
ドキ
ドキ


いつもオナニーに
使ってるミサトさんの
パンツの匂いを…
何倍も
濃くした感じ…


でも…
全然イヤじゃない…
すごく…ドキドキする…
やっぱり僕って…
変態なのかな…


流れと雰囲気でシャワー浴びられなかったけど…
汗で蒸れたおばさんのアソコの匂いなんて…
やっぱりイヤよねぇ…
坊ちゃま…やはり先にシャワーにしましょうか…
お互い汗で汚れておりますし…
だ…大丈夫だよミサトさん…
イヤがってないのは少し安心したけどそう露骨に嗅がれるのはさすがに少し恥ずかしいわね…
それは彼女との初めてのセックスではあまりおすすめできないわ 坊ちゃま…
いや…でもアソコの匂いをイヤがったりして女の子を傷つけるよりはいいかな…
まぁ…しばらく好きにさせましょ
下着の上からおっかなびっくりの不慣れな触り方が…
くすぐったいようなソフトな刺激で…悪くない…


AVみたいにもっと
乱暴にしてきたら少し注意
しようかと思ったけど…
これなら
大丈夫そうね…
ミ…ミサトさん
じゃあ今度は
パンツ脱いで
アソコ…
よく見せて…
はい
もう全然 彼女との
初体験みたいな雰囲気
じゃないけど…
念願のセックスに
夢中な坊ちゃまに
水を指すのも
可哀想だし…
性教育だなんて…
どうせ建前だし…
ピクッ
カリ
カリ
カリ
カリ
スルッ


好きに使わせて
あげるわ…
どうぞ
坊ちゃま
こんな
年増メイドの
身体くらい…
その代わり…
カプッ
ヒクン
ヒクン


どうせまた罪を犯すなら開き直って…
坊ちゃま…
舐めて…
下さいますか…？
私も少し楽しませてもらうわね…
う…
うんっ…！


はぁ…久々のクンニ…気持ちいい…何年ぶりかしら…
挿入自体は物足りなくても…これは大人とそう変わらないものね…
もしかして…時間をかけて練習させたら…それ以上になるかも…
ぴちゃっ
ぺちゃっ
ちゅるっ
ふっ


なにより…ほとんど自分の息子のような男の子が…
私に自分の未成熟なペニスを挿入して射精するために…
私の使い古しの汚れたアソコを必死に舐め回す姿は…
なかなか背徳的でちょっぴりゾクゾクするわ…
あぁ…いい…そこよ…坊ちゃま…
そのままクリ舐めてくれれば…イケる…かも…
れろっ


…って
いけないいけない
ムクリッ
いくらご無沙汰
だからって…
ありがとう
ございます
坊ちゃま…
とてもお上手
でしたよ
ぷはっ
さぁそれでは
今度は
坊ちゃまのお支度を
致しましょう
わっ


ミ…ミサトさんっ
ズボンくらい
自分でっ…
おせっ
おせっ
ムクン
お任せ下さい
坊ちゃま
私のも
すごい匂い
だったけど…
さすがに坊ちゃまのも
今日はすごい匂いね…
スルルッ


それでは
失礼致します
そう言えば坊ちゃまに
フェラは初めてだっけ…
私もこのサイズの
ペニスを咥えるのは…
初めてだけど…
そろ…
フェラはそれなりに…
自信あるわよ…
ああああっ！
ヒクッ


はぁっ…！
あぁっ！
気持ちっ…！
あぁっ…！
あっ！
はぁっ！
ミサト…さんっ…！
あぁあっ！
これだけ
感じてくれると
フェラのしがいも
あるわね
小さいから…
口の中で舌も
動かしやすいわ
この口の中に
全部収まるサイズの
坊ちゃまのペニスが…
あと2、3年もしたら
きっと立派に大人の
サイズになるのね…
その頃には私も
その成長した坊ちゃまの
ペニスであんあん
鳴かされていたりして…
って…
何を馬鹿な事
考えてるんだか
私ったら…
早く坊ちゃまが
私に飽きてくれるのが…
一番なんだから…
ミ…
ミサトさんっ…！
もう射精るっ！
射精ちゃうよぉっ！
どうぞ
坊ちゃま…
あぁっ！あっ！
あぁあぁっ！


あぁぁぁぁ
ビクンッ
ビクンッ


鼻に抜ける
この強烈な
青臭い匂い…
ドクンッ
ドクンッ
ドクンッ
そして
相変わらず
すごい量…
ごくっ
ごくごくごくっ
射精の量だけは
大人にも負けないわね…
ごくっ
ぶるるっ
ぶるるっ
…口の中から
あふれそうなくらい…
ちゅぽんっ
ビクンッ


しかしコレも久々だけど…
やっぱりマズいわねぇ…
ティッシュティッシュ…
…っ
そんな顔で見て…
わかりましたよ坊ちゃま…
あんまり飲むのは好きじゃないけど…
んっ…
コクッ
今日は特別ですよ…
さぁ…坊ちゃま
これからが本番です…
私のアソコを使って…
どうぞお気の済むまでセックスの練習をして下さいませ


はあっ
はっ
はあっ
んっ
あっ
ほら坊ちゃま
もっと奥まで
ああっ！
キチンと
大きく腰を動かして
出し入れしないと
ゆっくりでも
構いませんから
丁寧に前後するんです
まってっ…
ミサトさん
無理だよっ
ミサトさんの
ナカっ…
気持ちよすぎる
からぁっ…！


何度射精しても構いませんから
しっかり練習してください坊ちゃま
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ギシッ
ギシッ
相変わらず長さも太さも物足りないし…
腰使いのリズムも悪いから全然イケないけど…
私の膣内でこんなにも感じてくれてるのは…
女としてやっぱり悪い気はしないわ…


面倒なコトは御免だけれど…
少しだけ…
ぬるっ
ぬるっ
ぬるっ
ぬるっ
ぬるっ
ほっ
あっ
あっ
ほっ
ほんの少しだけ…この子を私の身体に…溺れさせてみたい…

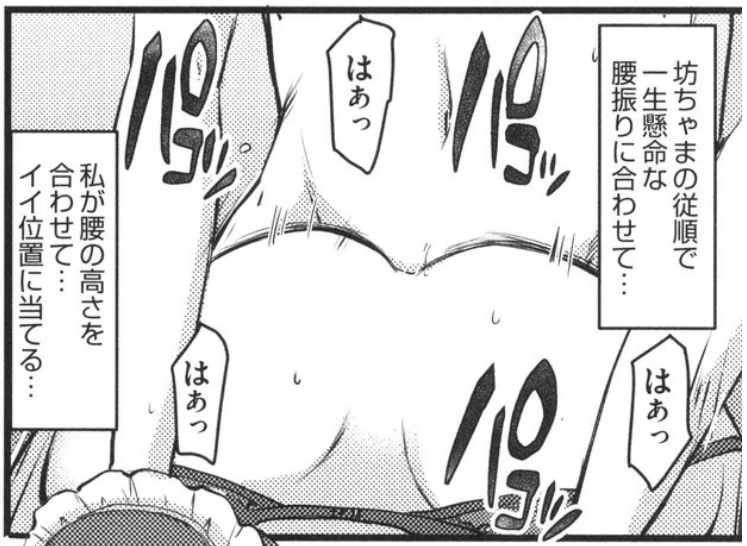

ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ミサト…さんっ…
僕もうっ…もうっ…！
そんな欲望も時たま私の中に顔を覗かせる…


どうぞ
坊ちゃま
お射精(だし)
ください
それは我が子を
喜ばせたいと願う
母親の顔なのか…
それとも…
私の女の顔なのか…
あぁぁぁ!!


ご立派でした
坊ちゃま
はーっ
はーっ
はーっ
少し休憩
なさいますか…?
もっと…
もっとするんだ…
もっと…
練習して…
なるから…
僕…
FUJI LATEX
ミサトさんに
ふさわしい大人の
男にっ…!


ぱんっ
ぱんっ
ぱんっ


緩急はっ…大事ですがっ…
止めてっ…しまってはっ…
女性もっ…快感の波にっ…
乗りづらいっ…ですからっ…
これだけされると
私も…
あんなに物足りなかった
坊ちゃまのペニスでの
感じ方が…
なんとなく
掴めてきたわ…


坊ちゃまの従順で
一生懸命な
腰振りに合わせて…
はぁっ
はぁっ
私が腰の高さを
合わせて…
イイ位置に当てる…
はぁっ


これ…騎乗位なら
もしかして…
さすがに
お疲れでしょう
坊ちゃま…
よく
頑張りましたね…


それでは
私の騎乗位で
本日は最後の
射精と致しましょう
坊ちゃまはただ
気持ちよくなって
くだされば
いいですから



思った通り…角度次第で結構イイ場所…当たるわ…
いくら小さいって言っても硬さは充分で…指よりは太いし大きいし…
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっあぁっ！ミサトさんっ！
腰っ…速いよぉっ…！
ずっと焦らされるみたいにアソコいじられて…使われて…
正直…かなりムラムラしてた所にこれは…
ミサトさんっ…
あぁ…このままじゃダメ…
あっ
あぁっ
ダメッ
坊ちゃまを想う母親の顔から…
ただの女の顔になってしまいそう…
早く終わらせてしまわなきゃっ…
ああっ！だっ…ダメッ…
ミサトさんっもう出るっ…！
あっ…あああっ！


ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
すーっ
すーっ
こんな子供相手に…
自分がほんの少し「女」になってしまった事に…
驚くやら…情けないやら…
でもまぁ セックスさえさせておけば…
サラッ
おとなしくしてくれるんだし…
上手く言い聞かせて…立ち回るしかないわね…
もう後戻りはできない…
私が…坊ちゃまを導かなきゃ…
それが私の…
メイドのおしごとだもの…
■おわり■


今日のお天気
MAPLE SYRUP
はぁっ…
今日の日中は全国的に爽やかな気温と暖かな日差しで秋らしく過ごしやすい一日となるでしょう
それでは今日のお天気です
はっ…
ごめんね…ミサトさんっ…
どうしても…我慢できなくてっ…はっ…あっ…
構いませんから早く射精なさってください
遅刻してしまいますよ


う…うんっ…でもミサトさんもっ…我慢しないでっ…
感じてくれていいからねっ…はぁっ…はっ…
一方夕方からはグッと気温が下がり肌寒さを感じるかもしれません
体温調節のしやすい服装でお出かけ下さい



いっ…
イクねっ…
ミサトさんっ…！

パーン♥ パーン♥ パーン♥

あっ…！

どうぞ
坊ちゃま…

パーン♥

そのまま
お出し下さい

パーン♥

メイドのおしごと。

MAID NO III OSHIGOTO III

ドクン

ラララっ!!

ドクン

ドク♥ ドク♥ ドク♥ ドク♥ ドク♥

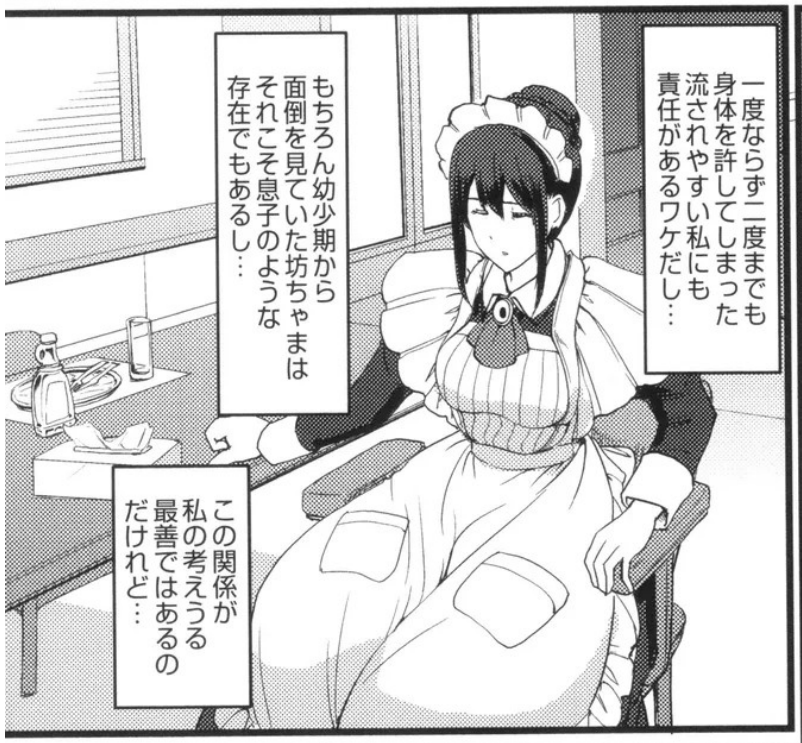
ふぅっ…

美里 加奈子（36）


行ってきますっ！


坊ちゃまに同情して
二度目のセックスを
受け入れたあの日から…
ほぼ毎日
私と坊ちゃまは
身体を重ねている…


あんな自分の息子でも
おかしくない年頃の
男の子との恋愛ごっこを
させられるよりは…
キチンと一線を引き
坊ちゃまの性教育と称して
ただ身体を差し出した方が…
坊ちゃまの今後の将来を
考えても悪影響は少ないと
私は判断したのだ…

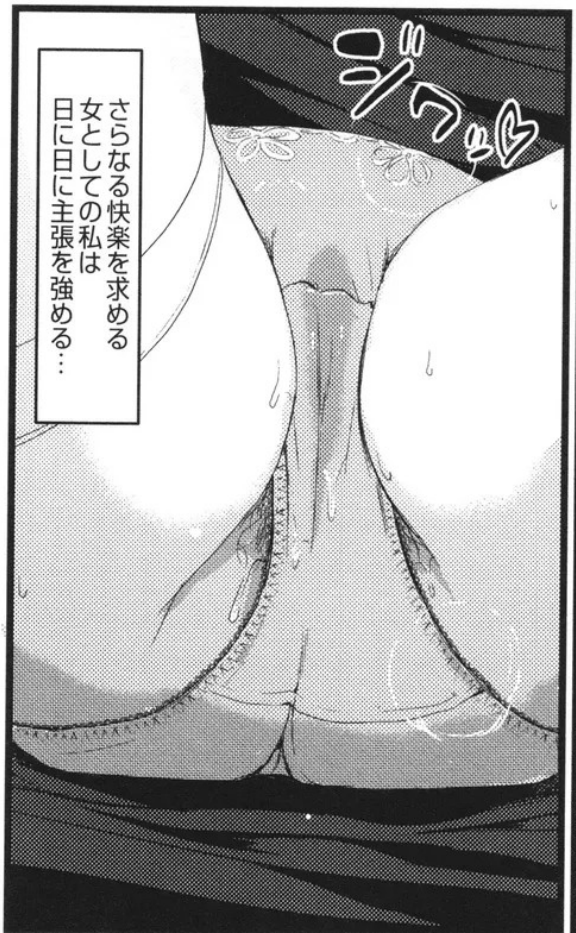

一度ならず二度までも
身体を許してしまった
流されやすい私にも
責任があるワケだし…
もちろん幼少期から
面倒を見ていた坊ちゃまは
それこそ息子のような
存在でもあるし…
この関係が
私の考えうる
最善ではあるの
だけれど…


私にとってはただ
手当も付かない
日々の業務が
一つ増えてしまった
ようなもので…
本当に量だけは
ものすごいわね
坊ちゃまは…


正直 セックスで
全然性欲を
満たされない分…
既婚者の遊び相手
だった頃よりも
よっぽど不毛だわ…
ワンシャツ


でも…まだ未成熟な
ペニスに関しては
仕方がないとしても
前戯に関しては…
今から教え込めば
完璧に私好みの愛撫を覚えて
最高の性欲処理道具になるん
じゃないか…
スズッ
そんな考えがこうして
中途半端なセックスを
終える度にふと
頭をよぎるけれど…
理性と罪悪感と…
そして自慰行為で
その誘惑をかき消す…
ギュッ


あくまでもこれは
坊ちゃまが
ちゃんと女の子と
付き合った時に
失敗しないため…
だからこんな年増女の
身勝手な性欲で
坊ちゃまをこれ以上
ゆがめてしまうなんて
もってのほか…
そんな母親代わりの
メイドとしての
理性とは裏腹に…
毎日坊ちゃまの拙(つたな)いピストンで
膣の浅い所をもて遊ばれる度に
久しく忘れていた女としての
快楽の味が徐々に記憶の奥から
染み出して…
ふっ…
ふっ…
くに
くに
くに


さらなる快楽を求める
女としての私は
日に日に主張を強める…
ジワッ


罪を犯している事には変わりないのだから…
思い切って楽しんでしまおうか…
スルルッ
欲望に身を任せて…
堕ちて行ってしまおうか…
そんな誘惑を…
ここ最近は毎日のように…
んっ…
ふっ…
ズリュッ
ズリュッ
ズリュッ
ズリュッ
こうして紛らわせているのだ…
んっ…
オナニーなんて前は…
週に一度するかしないかだったのに…
ちゅぷっ
ちゅぷっ
ちゅぷっ
はっ…
はぁっ…
これじゃ 坊ちゃまと全然変わらないじゃない…


オナニーのネタは…過去のセックスを思い出しながら…
私…男運は正直悪かったけれど…
セックスは上手な男性(ヒト)が多かったのよね…
硬くなった大きいのを口いっぱいに咥えて…奉仕して…
ご褒美だ…なんて何度も何度もイかせてもらって…
あぁ…久々に服従させられるようなセックス…したいな…
あっ…イクッ…
んっ…!
あっ…
はっ…
はーっ…
はーっ…
はぁーっ…
あっ…あっ…
はぁ…またやっちゃったわ…
本当に…
どうしたらいいのかしらね…


いやいや
安藤は全然
ダメッしょ
ぺったんこだし
ダッ


アイツたぶんまだ
マン毛も生えてねーよ
見た目は
悪くねーけどさ
やっぱウチのクラスで
一番エロく育ってんのは…


藤原だよなー
ヤるなら
断然アイツっしょ
なにしろもう
Eカップあるって
噂だぜ
おーすげ
揺れてんの
こっからでも
わかるわ


優太はどうよ？
え？
え？
じゃねーよ
優太も藤原の胸揉みてーだろ？


あぁ…
藤原さんかー
意識したこともなかったなぁ…
ウチのメイドさん比べ物にならないくらい胸大きいからさ…
たぶんアレはHカップはあるんじゃないかな…


Hカップのメイド!?マジかよ…！
じゃ…じゃあもしかして…一緒に住んでるんだし風呂とか覗けんの!?
モミ
モミ
モミ
まぁ僕はそんなコトしないけど…
その気になれば別にそれ以上だって…
ぶはははははっ
フフンッ


おいおい待てよ
優太んちのメイドって
あの暗いオバサンだろ!?
げっ
なに?熟女なの?
ウチらの母ちゃんと歳
変わんねぇくらいじゃん!
ババァの垂れパイは
巨乳とは言わねーよ!
なんだよ優太ー
期待させやがってー
ひょっとしてお前
マザコンかぁ?
なっ


そっ
そんなこと
ないっ…!
ミサトさんはオバサン
なんかじゃっ…
取り消してよっ!
ま…まぁまぁ
優太!
お子ちゃまの
こいつらにも
そのうち
解るって!


優太んちのメイドさんの
あの溢れる大人の魅力…!
くぅーっ
手取り足取り
色々教えてもらい
てぇ――っ!
うげぇーっ
なんだよお前ら
熟女フェチかよー
ヤッバ
キモいわーっ
オラ お前ら
遊んでんじゃないぞー
はーい
サーセーンッ
……


なぁ優太…
なんかお前
最近ちょっと
イラついてるよな
なんか
あったのか？
別に…
なんにもないよ…
そーかぁ？
今日のはちょっと
俺 アセったぞ？
もう僕は…


毎日セックスしてる
大人なのに…
たしかにアイツら
バカにするみたいな
言い方するけどさ
あそこは
笑って流さねーと
なんか悩みあるなら
俺に遠慮しないで
話せよ？
佳祐よりも
アイツらよりも
クラスの誰よりも…
親友（マブダチ）なんだしさ
俺たち
セックスのコト…
女のヒトのコト
知ってるのに…
うん…
ありがと…
気をつける…
みんなは僕のこと
子供だって
思ってるんだ…


ま
そんなテンション下がっちまった時は…！
一発抜くのが一番だって！
兄貴のパソコンから新しい動画ゲットしたからあとでスマホに送ってやるよ！


しかも聴いて驚け 優太！今度のヤツはなんと…
モザイク無しの無修正だぞっ！
あぁ…うん…
ありがと…


でも僕もうそういうのいいんだ…
僕には…ミサトさんが居るしさ
え…？
ミ…ミサトさんがってまたお前…
そりゃ冗談でそそのかしたの俺だけどさ…
優太 お前まさか…
あのメイドさんと本気でエロいことできるって思ってんのか…？
！


どんだけ歳離れてると思ってんだよ…！
いくら美人でも付き合えねーよ…！
そもそも俺らみたいなガキ…
カチン
相手にしてもらえるわけねーだろ！
！
なんだよ佳祐っ…！何も知らないクセにっ！
ミサトさんと僕はっ…！

僕は…あれ…？
ミサトさんと…僕は…
セックスはしてるけど…付き合ってない…恋人じゃない…
僕はミサトさんの…なんなんだっけ…


も…もういいっ！
じゃあねっ！
なんだよ…どうしちまったんだよ…
優太のやつ…


ただいま…
ちょうど
フルーツケーキが
焼けたところです
後ほどお部屋に
お持ちしますが
お飲み物は紅茶で
よろしいですか？
ぽた
お帰りなさいませ
坊ちゃま
ぽた
……
ミサトさん…
好きだよ…
ギュッ


はい…
ありがとうございます


冷えてきましたから風邪を引かないよう手洗いうがいをキチンとしてくださいね
あっ…


ミサトさんっ…！


困ります…
坊ちゃま…
…！


何度も申し上げている通り私は坊ちゃまと恋仲になることはできません
私とのセックスはあくまで坊ちゃまの教育の一環であり
私のカラダは坊ちゃまの教材…単なる道具です
そうお約束したでしょう?
それですら本当は決して…
許される関係ではないのですからね
うん…
わかってるよ…
本当は…全然わからない…


どうして…ミサトさんのコト…
じゃあ…
好きじゃいけないのかな…
今日もセックス…練習させて…
ミサトさん…
……
ふうっ…


わかりました
寝室でお待ち下さい
お洗濯物を
取り込んでから
参りますので
うん…
前はどんなに
ミサトさんが
困ってでも…


ミサトさんと
セックス
したかったのに…
最近は…
その少し面倒そうな
困った顔を見るのが
すごくツラい…
スルッ
僕のセックス…
そんなに下手なのかな…
どうしたら
ミサトさん…
僕を男として認めて
くれるのかな…
大人の男のセックスと
そんなに違うのかな…
どうしたら
ミサトさん…
僕を好きになって
くれるのかな…
どうなさいましたか
坊ちゃま?
早くお召し物を
脱いで下さい


んっ…んうっ…
くっ…
ちゅっ
ちゅぷっ
ちゅぷっ
ちゅぷっ
あっ…うっ…
ビクン
ちろ
ちろっ
ビクッ
ううっ…ふっ…
ちろ
ちろっ
性欲と恋愛感情を混同しているだけだと思ったから…
あっ…!!
うっ…!!
こうして性欲を満たしてあげてさえいれば上手くやり過ごせると思っていたのに…
れろ
れろ
れろ
れろ
一番面倒な感じになっちゃったわね…
はぁっ!!
あっ!!
うっ…!!
ちゅぽっ
ちゅぽっ
ちゅぽっ
結局は性行為に至るくらいに異性に自分の存在を認めて貰ったっていう事実が年頃の男の子にとっては実は一番大事なのよね…
ちゅっ
あぁっ!!
はっ!!
あっ!!
あっっ
くぽっ
くぽっ
かぽっ
ちゅるるっ
ちゅーっ
くぽっ
くぽっ
セックスなんて突き詰めればただ粘膜を擦り合わせて快楽を得るだけの行為だし…

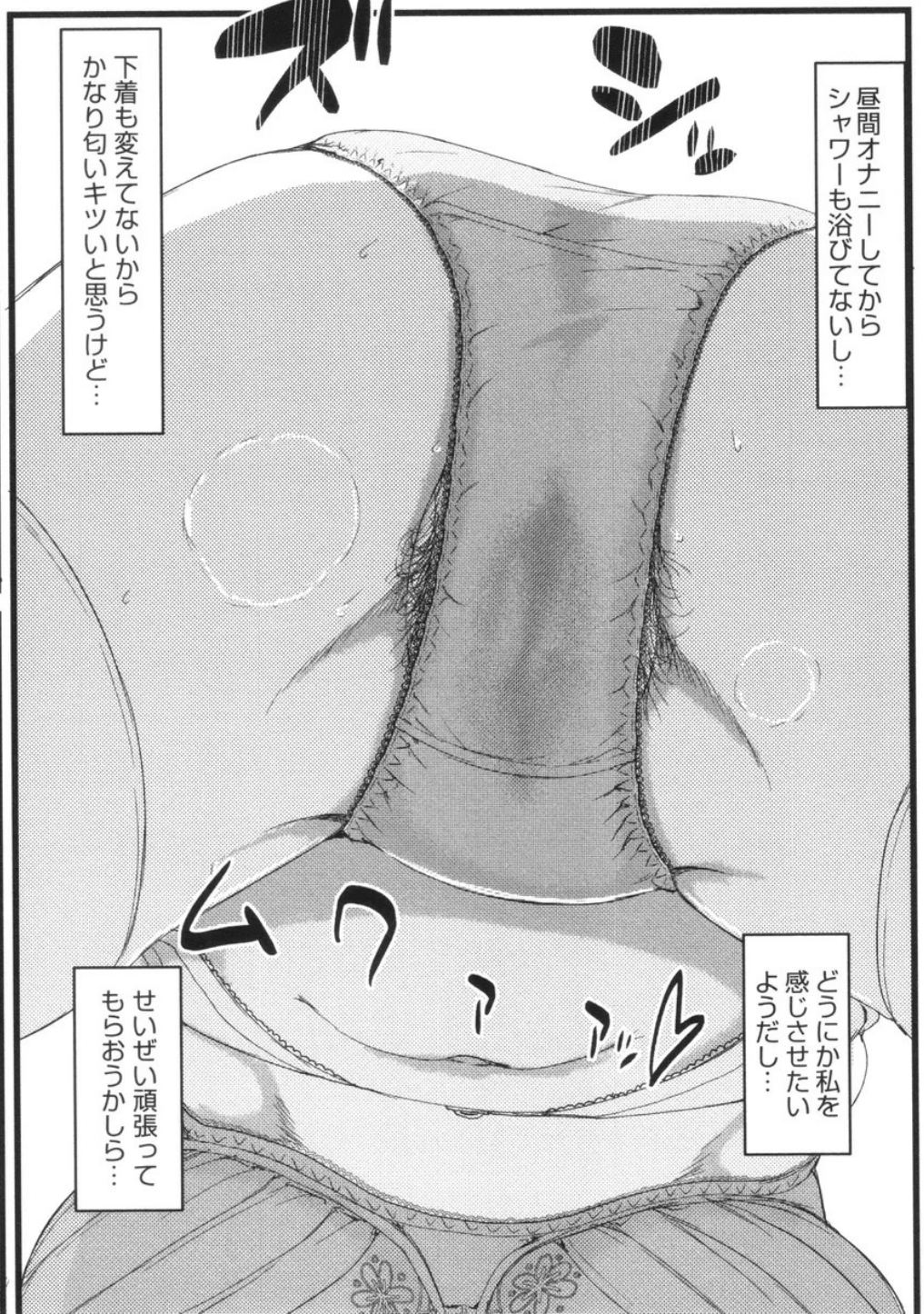

お互いを認め合って許し合う 大事なその恋愛というプロセスをスキップして…
坊ちゃまは先にセックスだけを経験してしまったんだもの…
心に歪(ひずみ)が生じて虚しさを感じてしまうのも考えてみれば当然ね…
けれどその承認欲求を満たしてあげるのはやっぱり私じゃダメ…
坊ちゃまは年相応の相手と恋愛をすべきなの…


そこだけは譲れないわ…
ミ…ミサトさん
ぼ…僕もしてあげるよっ…!
そうですか…









ギシッ

それでは今日はお言葉に甘えて…

お願い致します

ズシッ

昼間オナニーしてからシャワーも浴びてないし…

下着も変えてないからかなり匂いキツいと思うけど…

ムワァァッ♡

どうにか私を感じさせたいようだし…

せいぜい頑張ってもらおうかしら…

ドキ ドキ ドキ

……

ゴクリッ

ぢゅるるっ♡

んっ…

ピクッ


あぁ…
罪悪感が勝っちゃうから
あまりさせなかったけど…
アソコ舐められるのは
やっぱり気持ちいいわ…


坊ちゃまも…
クリトリスを重点的に
舐めたり…
少しづつ
わかってきた
みたいだし…


本当にこのまま私が
イけるようになるまで
練習させようかしら…
クンニくらい上手でも
別に将来
悪い事じゃないし…


そろそろ
少しは自信持たせて
あげないと…
セックスに対して
臆病になっちゃうかも
しれないし…
んんっ！


ぷはっ…！
ミ…ミサトさんっ！
ちょっとまってっ…！
んぷうっ！
なんて
やっぱりそんなの
ダメよ…
坊ちゃまに簡単に
イかされるように
なったら私の面目が
立たないわ…
んんっ！
ちゅっぽ
ちゅっぽ
自然に上達するまで
気長に待ちましょ…
んーっ！
ちゅっぽ
ちゅっぽ
ちゅっぽ
んっ！
だめっ…
もう…いっ…
ああああっ！
くっ…


ごめん…ミサトさん…
また僕だけ…
すぐイっちゃって…
いいえ
お構いなく
はぁ
はぁ
ちゅぽっ

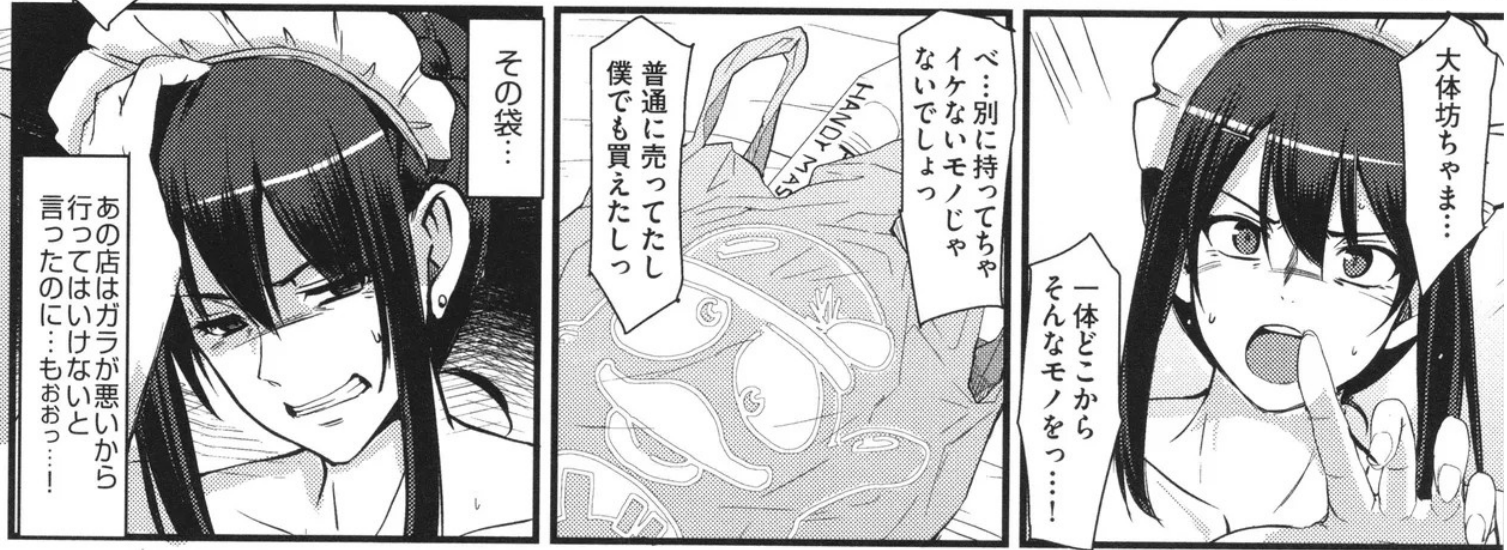

う…うんっ…だって
ミサトさんのコトも
気持ち良くしなきゃっ
そうですか


さて
坊っちゃま…
まだ 続き…
なさいますか？


それでは
お好きにどうぞ
コンドームは
きちんと着けて
くださいね
ふぅうっ
やっぱり…
ミサトさんにとって
僕の相手は面倒なんだ…
もちろんそんなの
駄々こねてセックス
させてもらった時から
わかってたけど…


もし僕が…
ちゃんとミサトさんを気持ち良くできれば…
ミサトさんもそんな顔せず僕とのセックス…楽しみになって…
ゴン
ゴッ
きっと僕のこと…認めてくれるハズ…
だから今日は用意したんだ…
THRIVE
これならミサトさんだって…！
随分手間取ってるわね…
コンドーム着けるのももうだいぶ慣れたハズだけど…
え…
ちょっ…
ちょっと坊ちゃま…！


な…なんですか
それはっ！
よしなさいっ！
ビデオで
見たんだっ
こ…これ
アソコに当てると
スゴい感じるん
でしょっ？
僕っ どうしても
ミサトさんを
気持ち良くして
あげたいんだっ
ま…
まってっ
ちょっとっ！


大体坊ちゃま…
一体どこから
そんなモノをっ…！
べ…別に持ってちゃ
イケないモノじゃ
ないでしょっ
普通に売ってたし
僕でも買えたしっ
その袋…
あの店はガラが悪いから
行ってはいけないと
言ったのに…もぉおっ…！


ってそうじゃないわ…！
そんなモノ使われたらっ
いけません
坊ちゃまっ…！
そんなのセックスの時に
使うものじゃっ…
いくら私でもっ…
やめなさいっ…！
坊ちゃっ…


はっ!!
!
い…いけないっ
我慢しないとっ…!
…くっ…
ふっ…!
坊ちゃまにこんなのでイクところなんてっ…見せられないっ…!
うっ
ふっ
おやめ…ください…っ
坊ちゃまっ…!
んんっ
すごい…
ミサトさんのこんな声と顔…
初めてだ…
本当に感じてるんだ…!
あっ
ミサトさんっ…!

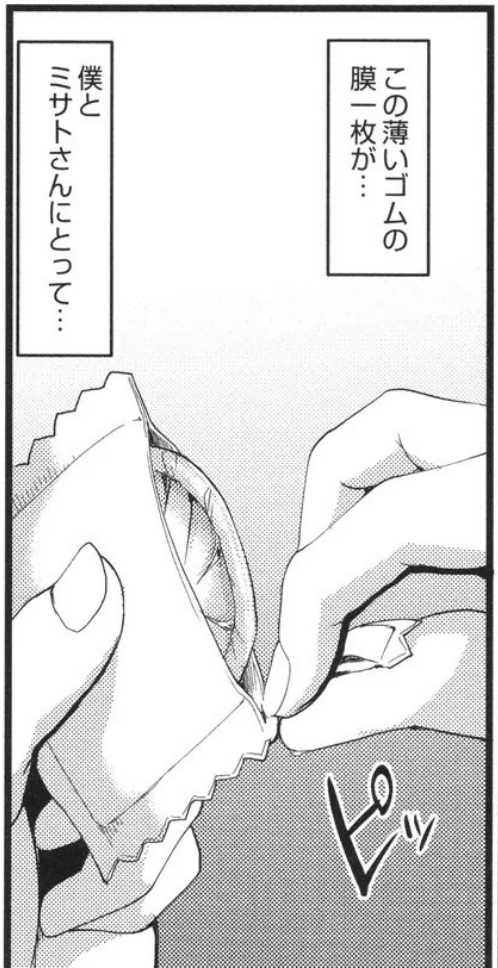

あぁダメ…ホントに気持ちいい…
もう…いいかしら…イッちゃっても…
別に…本気で叱れば…やめさせられるけど…
どうせもう散々セックスしてるんだし…
イかなかったからって許される訳じゃないんだし…
ビクン
イクッ…イッ…
ダメッ…そんなこと考えて…気を抜いたら…すぐにっ…
あぁ…だめ…来る…来ちゃう…！
だめだめだめだめ…！あぁっ…！
あっ…！


ミ…ミサトさん…？
もしかして…
イッた…？
ヒクン
イッたの…？
ヒクン
ねぇ…？
は…はい…
ほ…ほんの…
少しだけ…
ですが…


やった…！
ついに…
イカせたんだ…！
僕が…
ミサトさんをっ…！
ちゃんと
気持ち良くして
あげられたっ…！
今なら…僕のこと…
認めてくれるかな…
許してもらえるかも…！
ヒクン
ヒクンッ
ヒクン


…坊ちゃま…
お忘れですか…？


コンドーム無しの…
恋人同士の
セックス…！
ヒクッ
ヒクッ


この薄いゴムの
膜一枚が…
僕と
ミサトさんにとって…
ピッ


別に…
うん…
コンドームを着けたら
気持ち良くないとか…
そんなこと
全然ないんだけど…


挿入する時は
コンドームを
必ず着ける…
お約束
ですよね…？


とても分厚い
心の壁のような
気がするんだ…
ぱんっ
ぱちゅっ
ギシ
ん…っ


気持ち良くて…
イクの拒めなかった…
意思が弱くて
私って本当に
ダメね…
坊ちゃまのため
とかなんとか
言っておいて…
本当に情けないわ…
ちゅぱっ♡


とはいえ…面倒で…
物足りない
坊ちゃまとの
セックスだけど…
我が子同然に面倒を見てきた
男の子が…
私の身体で…私の膣内で…
こんなにも
快楽に溺れた表情を見せて
悦んでくれるのは…
正直…やっぱり
悪い気はしないのだ…
ぱちゅっ
はっ
あっ


だけどそれ以上では
決して無いし
それ以上になる事も
許されない…
甘やかし
過ぎぬよう…
厳し過ぎぬよう…
何が正解なのかは
私にも
わからないけれど…
本当に私がしっかり
しないと…
でも…
実は少しづつ…
坊ちゃまのセックスは
上達していて…
クリの裏側の
気持ちいいところに…
うまく当ててくる…
最近
知ってか知らずか…
正常位のときに…
もしかしたら本当に…
坊ちゃまとのセックスで
満足させられてしまう日も
近いかもしれない…


そんな期待のような
不安のような気持ちを
抱いてしまう…
やっぱり私…
ダメ女だわ…
ミ…ミサトさんっ
ごめんっ……！
僕もう…
イッちゃうよ…
はい…
お好きな時に
射精してくださって
構いませんよ…
イクよっ
ミサトさんっ！
あっ！あぁっ！
あっあっあっ！
あああああっ！





ミサトさっ…
ぶるるッ
ぎぃぃぁっ
ドクンッ♡
ドクンッ♡
ドクンッ♡
ドクンッ♡

ねぇ…ミサトさん…
やっぱり怒ってる…？
僕があんなの使ったから…
でも…イッたんだから…
気持ち…よかったんだよね…？
怒ってると言うよりは…


あんなモノで不覚にもイッてしまった自分への…
そうですね…
ですが…
いや…快感を拒めなかった自分への自己嫌悪中なんだけども…
変に誤魔化すより…ちゃんと教えていくべきよね…
ああいった道具はかなり刺激の強いモノですので…
女性によってはただの苦痛にもなり得ます
すべての女性が必ず快感を得られるというモノではありませんよ


あんなモノを毎回使うようになるよりはやっぱりキチンとセックスを教えて上達させる方がいいわ…
もちろん道具も上手に使えば充実したセックスになりますが…
恐縮ながら坊ちゃまのセックスのお手前はまだまだ未熟ですから…
まずは道具に頼らずに女性の快感を司ることを覚えていきましょう…


なんだか私自身への言い訳のような…妥協のような気もするけれど…
そのために私は坊ちゃまに身体を許しているのですから…
今後 ああいった道具はお使いにならないようお願いしますね
……
僕とのセックスじゃ気持ち良くないからだって思ったから…
どうにかしなきゃって思ったんだ…
ごめんなさい…でもミサトさん…僕がセックスお願いするといつも…
すごく面倒そうな顔…するし…


恋愛感情をなるべく
意識させない為に
冷たい対応してたのが
相当堪えていたのね…
それは
失礼いたしました…
ですが私ももう
若くはありませんので…
毎日二回三回となりますと
どうしても体力的に
少々負担がありまして…
私を感じさせようと
してくださる
坊ちゃまのお気持ちは
とても嬉しいですよ…
露骨にため息ついたり
やりすぎたかしら…
やっぱり少し自信つけて
あげないと…


じ…じゃあさ…
ミサトさんの…
エッチな写真…
撮らせて欲しいな…
どうしても
セックス我慢できない時
以外はそれで一人で
するから…
…!!


それならミサトさんも
疲れないでしょ…?
……


おねがい
ミサトさん…
だ…
ダメかな…?
まぁ別に…
写真くらいなら
今までの彼氏にも
何度も撮られてるし…


…わかりました
ほ…ホント!?
ましてや
こんな年増の裸の
写真に価値なんて
あまり無いし…


じゃあ撮るね…


そんな写真一枚で
毎日深夜や早朝に
セックスをせがまれて…
顔は一応
隠しますからね…
う…うん
寝てる所を
起こされなく
なるなら
お安いものだわ…


そんな表向きの冷めた
目論見に秘めた正直な心の
内側を告白してしまえば…
こんなに年若い異性が
セックスと
引き換えにしてまで…
もう価値が無いと
思っていた
自分の裸体の写真を
欲しがる事に…
私はほんの少しだけ
女としての自尊心を
くすぐられてしまって
いたのだと思う…
カシャッ
ポートレート 写真 ビデオ その他


ありがとう
ミサトさん…！
これが取り返しの
付かない面倒を
引き起こす事なんて…
すごいエッチで
キレイなの
撮れたよ…
大事に…
使わせてもらうね…！
容易に想像できた
ハズなのに…


はぁー…
俺が言い過ぎたのかな…
あのメイドさんのこと…
優太は本気なのかも
しれないし…
優太が俺に
あんなに怒るの
初めてだもんな…
優太にしてみれば
確かに 俺がつべこべ
言う事じゃないよな…
ROUTE
US
66


おっ…！
ピロン♪
優太からだっ…！
やっぱアイツも
気にしてたんだなっ
そうだよ
このままじゃお互い
気分悪いもんなっ
今日のうちに
俺もさっさと
謝って明日は…
!!


おい…
なんだよ
コレ…

■おわり■



はっ…あっ…♡

もう…私っ…いっ…イクッ…

んうっ♡

今度はちゃんと大声出してイケよっ！俺もイクぞっ…！

ギシッ

ギシッ

ギシッ

ギシッ

ギシッ

ギシッ

あっあっあぁっ♡イクッ…♡

イッちゃうっ…あっあああああッ♡

ぶるるっ♡

ほら加奈子

スケベマ○コヒクつかせて余韻浸ってないでしっかりチ○ポ掃除しろ

はっあっ…♡

ぬぽっ♡

ビクンッ♡

ビクビクッ♡

ビクンッ♡

ビクンッ♡

イクううううッ♡

あーすげぇナカビクビクしてる♡

マジで搾り取られてるみてぇ♡

やっぱ加奈子のマ○コ最高だわ♡

ぶるるっ♡

今日は俺のメイドなんだからな♡

は…はい…♡

ご主人様…♡

はーっ♡

はーっ♡

ギュウウウッ

美里（みさと） 加奈子（かなこ）(24)







しっかし
ホントにフェラ
上手いよな 加奈子

案外お勤め先でも
オッサン相手に毎日
ご奉仕してたりして♡

ふっ♡

ちゅっ♡

ちゅぽっ♡

もう…
前に言ったでしょ…

れろっ♡

れろっ♡

んっ♡

勤め先に居るのは
小さな男の子だけよ…

そうだっけ？

じゃあ
大きくなったら
筆おろしして
やんなきゃな♪

やめてよ
もーっ…！

しっかし
自分の女に仕事着姿で
チ○ポしゃぶらせんの
やっぱ最高だわ

んっ♡

ちゅっ♡

ふっ♡

ちゅぽっ♡

ふっ♡

んっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

俺ドSだから
その姿マジで
たまんねーよ

ちゅっ♡

まぁ そのメイド服は
ちょっと地味だから
ハメやすいミニスカの
方が良いけどな

加奈子も興奮
してるだろ？

んっ♡

ご主人様に
ご奉仕させられる
メイドのシチュ…

んっ♡

くぽっ♡

くぽっ♡

かぷっ♡

ドMの加奈子には
ピッタリだよなぁ

ふっ♡

かぽっ♡

んんっ♡

くぽっ♡

んっ♡

ほら
「ご主人様のチ○ポ
美味しいです」って
言ってみろよ



ご主人様の…ち…チ○ポ…
美味しい…です…♡
れろぉぉっ♡
ふぅぅ♡
んっ♡
ちゅるるるっ♡
よし偉いぞ加奈子
くぽっ♡
んっ♡
くぽっ♡
んんっ…
くぽっ♡
くぽっ♡
あー♡
加奈子のフェラがエロいせいでまたマ○コハメたくなってきたわ
今度は騎乗位でそのデカいケツ振ってご奉仕な♡
ちゅっぽ♡
んっ♡
ちゅっぽ♡
ちゅっぽ♡
んっ♡
ちゅっぽ♡
ちゅっぽ♡
ちゅっぽ♡
ちゅっぽ♡
ちゅっぽ♡
えっ…だ…ダメよ…
ゴムさっきので最後だし…
ぷはっ
いいじゃんいいじゃん♪
ナカには出さないからさっ♪
きゃっ
ガバッ
とろぉ♡




加奈子だって生チ○ポの方が気持ち良いだろ？
そうっ…だけどっ♡
んっ♡んんっ♡あっ♡
赤ちゃん…できたらっ…♡どうするのっ…♡
よおっ♡
そしたら俺がちゃんと責任とるからさっ♡
それはっうれしいけどっ♡
でもそんなっ…♡
あっ♡あぁっ♡
だからやっぱ中出しでもいいよなっ♡
ばちゅっ♡
ばちゅっ♡
ばちゅ


えっ
そ…それはっ
大好きな
加奈子の中に
出したいんだよ♡
今日俺
誕生日だし
特別特別っ♡
でもっ
でもおっ♡
あっ♡あぁっ♡
でもでもぉなんて
言う割には…
加奈子もマ○コ
締め付けて俺の精子
欲しがってんじゃん♡


あーもう
出る出る出る♡
まってっ
やっ…やっぱり
中はイヤッ…！
あっ！
ちょっ…ちょっとっ
まってっ！
ホントにっ！
中に出すぞっ
加奈子っ！
ダメだってばっ…！
あっ！あっ！あぁ！
だめだめだめっ！



あっやっ！ダメっ！

いやあああああっ!!

あぁもう…どうして男の人って…

んんっ…！

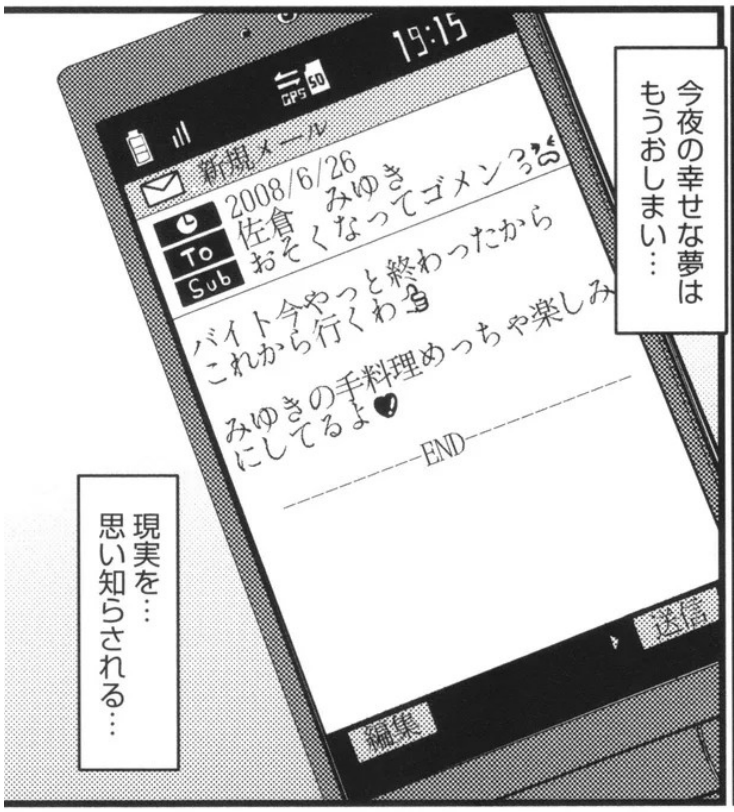
すぐ中に出したがるのよ…

あぁーすげぇ良かったぁー♡

でも…本当に責任とって貰えたら…

きっと私…幸せになれるのよね…





今夜の幸せな夢はもうおしまい…

現実を…思い知らされる…



最悪の目覚めだわ…

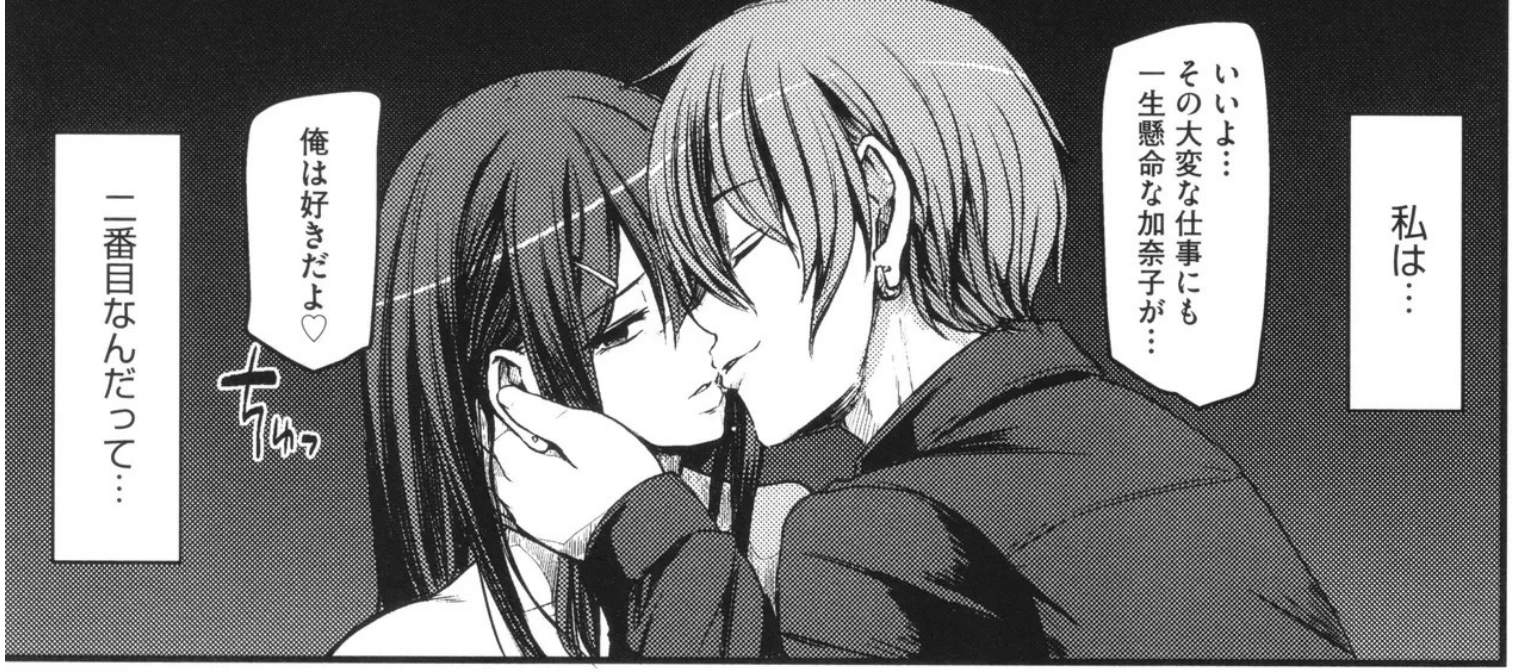




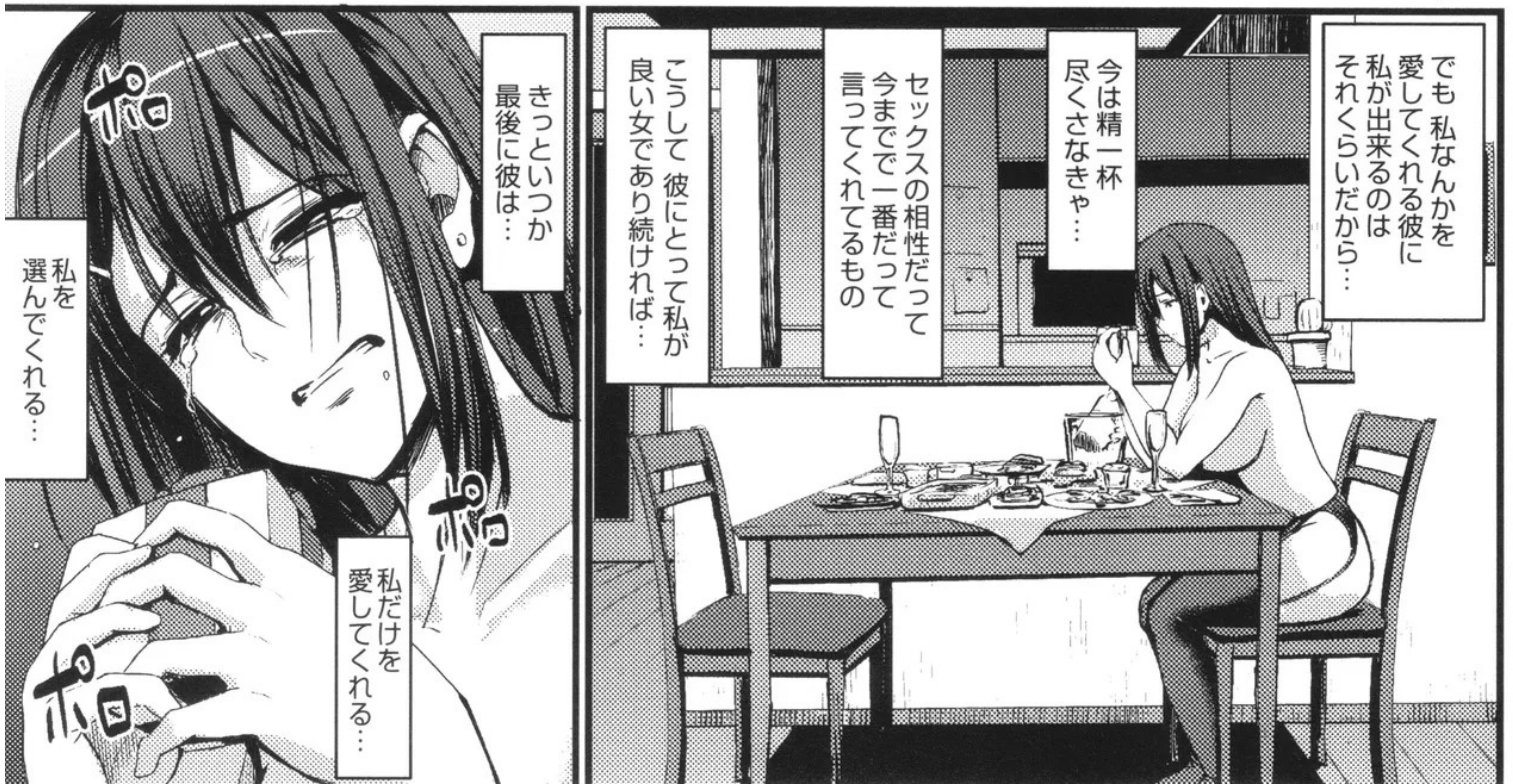

マジで勘弁してほしいよなー
ねぇ…達也…
どうしても行かなきゃダメ…？
行かないでよ…


俺だってホントは加奈子と一緒に居たいけどさ…
本当なら…
ほら俺って結構責任感強いタイプだろ？
仲間が困ってるのどうしてもほっとけないんだよなー
……
本当の彼女なら…


これから他の女に逢いに行くこの男に…
じ…じゃあ次…いつ逢えるかな…？
その時また…お祝い準備するから…
けれど…
怒ったり…泣いたり…できるんだろうな…
バイト忙しいし休み取りづらいからちょっとまだわかんないよ
加奈子も家に帰れる休み土曜の午後と日曜だけだしなー
明日の朝からまた住み込みだろ？
あっ…うん…ごめんね…
私はちゃんと…わかってる…


私は…
いいよ…
その大変な仕事にも
一生懸命な加奈子が…
俺は好きだよ♡
ちゅっ
二番目なんだって…


じゃあまた
メールするわ
うん…
待ってる…
バイト…
頑張ってね
おう
キィッ
はぁ…
私の料理は
全部無駄に
なっちゃった…
欲しがってた時計も
用意してたのに…
ガチャンッ


でも 私なんかを
愛してくれる彼に
私が出来るのは
それくらいだから…
今は精一杯
尽くさなきゃ…
セックスの相性だって
今までで一番だって
言ってくれてるもの
こうして 彼にとって私が
良い女であり続ければ…
きっといつか
最後に彼は…
私を
選んでくれる…
ポロ
ポロ
私だけを
愛してくれる…
ポロ





メイドのおしごと。IV

MAID NO OSHIGOTO IV

美里 加奈子(36)


また坊ちゃまとセックスしてそのまま寝ちゃったんだ…
この間の一件でやっぱり正しくセックスを教えると決めて少し丁寧に教えこんだら…
思った以上に上手になってなんというか…オナニー代わりにちょうど良くて…
さすがにちょっとヒトとして堕落しすぎてるわ…
思えば…「良い女」で居ようと必死だったあの恋も…
結局いつもの「都合の良い女」で終わったのよね…


あの頃の坊ちゃまは…
ちょうど幼稚園に上がる頃だったかしら…
本当に私の二十代は坊ちゃまに捧げたようなモノだったわ…
すー…
す…
住み込みで休みもあまり取れないせいでまともに恋愛もできなくて…
かと言って私の年齢や学歴には不相応に高給なこの仕事を…
わざわざ捨てるような理由になる夢や目標も無く…
結局ダラダラと続けてしまって気づけば私ももうこんな歳…


独身未婚でありながら子育ての真似事を強いられる事にあの頃は言い知れぬ焦りや苛立ちを感じていて…
小さな坊ちゃまの目に私はとても冷たい女に映ったようで…
恋愛の失敗から感情をあまり表に出さなくなった事も相まって…
週末に代わりに来る老齢のメイドにばかり懐いていたわね…
もちろん…私の勝手な私情を幼い子供に押し付ける事への良心の呵責は多少なりともあったから…
私に出来る範囲で優しく接したつもりだけど…
あまり手のかからなくなった小学校の半ば頃には…
坊ちゃま自身がどこか私に遠慮して接するようになっていた気がする…


ろくに避妊もしなかった
あの頃のセックスで…もし
私に子供が出来ていたら…
私はひょっとしたら
彼と結婚して
人並みに幸せになれて
いたんじゃないか…
そんなありえない
「もし」に今でもたまに
ふと心を焦がして…
そのたびに
ほんの少しだけ
「私だってまだ…」
という気持ちが
燻ってしまう…
でも
そんな事より
とにかく今は…
坊ちゃまの心に深い傷を
残すような結末を避ける
道を探さなくちゃ…
キュッ
傷つき歪んだ
恋愛観を引きずって…
私のようにみじめに
生きるなんて事の
無いように…
ここまで関わって
しまった以上
せめてそれだけは…
私が責任…
とらなくちゃね…


はぁっ…
2-3-1
はぁっ…
うっ…！
ビクッ
ビクッ
あれから
もう二週間…
優太とは口を
きいてない…
というより…
どう話しかければ
良いのかわからない…
はーっ
はーっ
優太は一体どうして
こんな写真を…
俺に送って
来たんだ…


やっぱりあんな言い合いをした後だし…ただ単に俺を悔しがらせたいだけ…
自分の方が上だって見せつけたいだけだよな…
でももしかしたらただ単にいつものエロ本やビデオのお礼のつもりなのかもしれない…
だとしても…まさか優太は本当にあのメイドさんとセックスしてるのか…？
最近付き合い悪かったのもそのせいで…
本当は内心で俺の事鬱陶しいガキだって思ってたのか…？
くそおっ…！


なんでだよおっ！


セックスがどうこうの悔しさより…
優太が俺に悪意を向けたという事実に何よりも耐えられない…
認めたくない…
ずっと親友だと思ってたのは…俺だけなのか…？
なぁ…優太…
俺は嫌だよ…こんなの…
お前と一緒の中学入るために俺…頑張って勉強したのに…
こんな事で絶交みたいになっちまうなんて…


いや…でも待てよ…？
もしかしたら優太のやつ…
あの歳上のメイドさんに無理矢理セックスの相手させられてたりするんじゃないか？
そうだ…そうだよ！
そういうの前に読んだ事あるし それなら説明がつくぞ…！
いくら美人だって言っても俺たちから見たらどう考えても歳上すぎるもんな…！
あの写真はきっと…優太からのSOSなんだ！


昔からそうだ…
アイツはなんでも自分から言い出せなかったじゃないか…
内気で泣き虫ですぐにイジメられて…俺が居なきゃ何も出来なくて…
今度だってきっと何か弱みを握られてオモチャにされてるんだよ…！


俺が優太を信じてやらなくてどうする…！
明日こそ…優太と話をして直接確かめよう…
アイツは俺が…
助けてやらなきゃ…！
結局あの日…

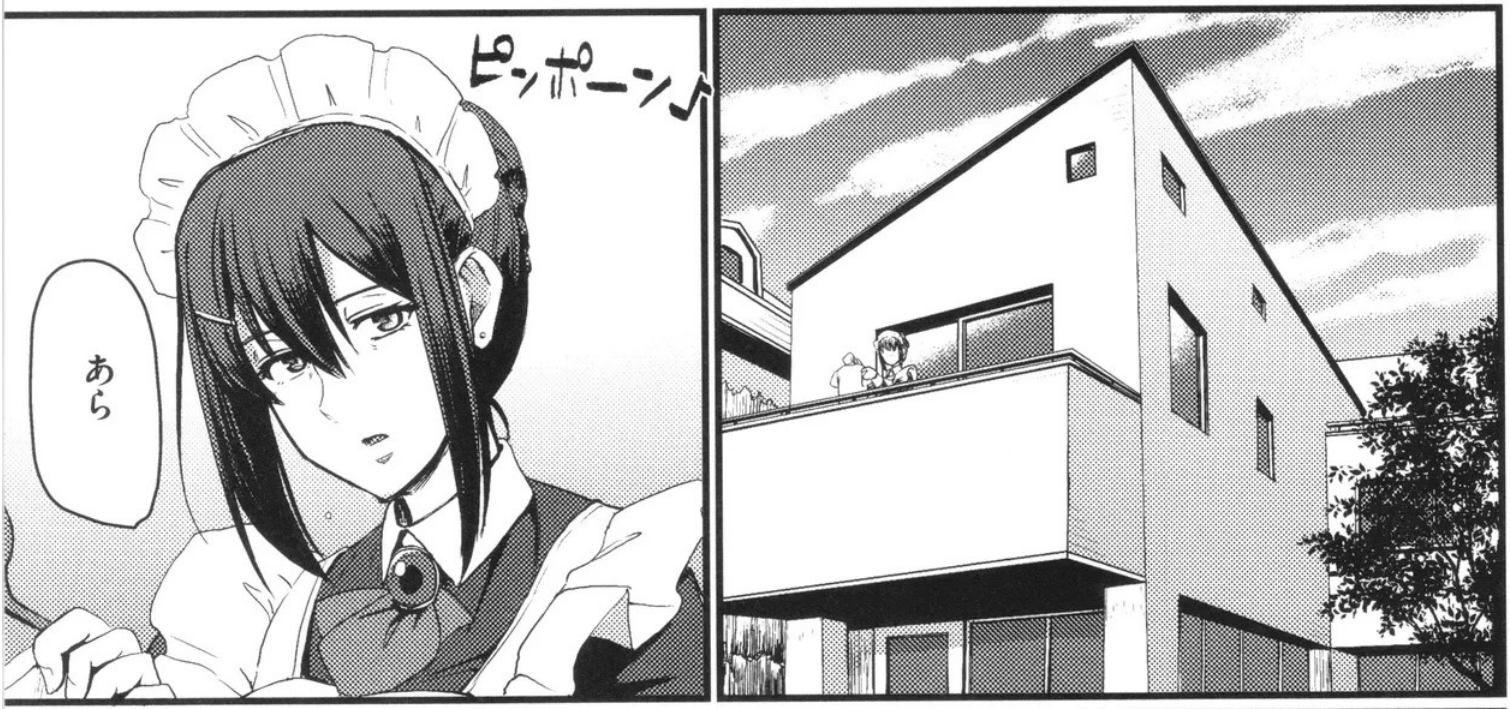

佳祐に送ったミサトさんの写真は…
既読はついたけど…反応がなくて…
それから佳祐とは目すら合わせてない…
あの日 ミサトさんとの関係を否定されたのがどうしても悔しくて…
僕の方が大人だってことを見せつけて…
佳祐を悔しがらせたくて送ったのに…
結局ただ気まずくなっただけで…
佳祐の周りに集まる他の友達ともなんとなく話しづらくなった…
あんな写真…送らなきゃよかった…
今はすごく後悔してる…
佳祐…
やっぱり怒ってるかな…
僕が母親みたいな歳のメイドとセックスして甘えてるって…
裏でみんな僕のこと笑ってるんじゃ…
もしかして…佳祐もうみんなにバラしたんじゃないかな…
ひょっとするとみんな今ごろ…
…！
ブルッ

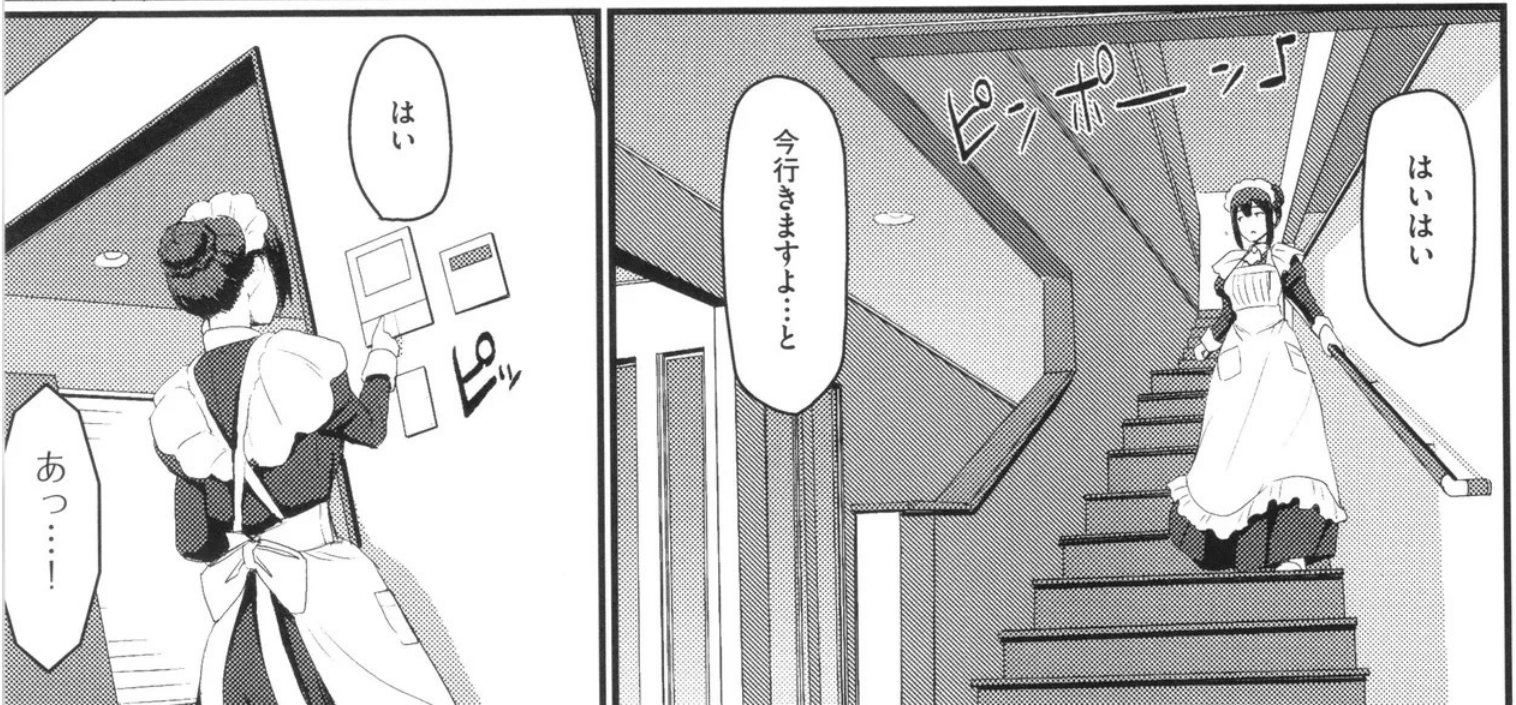

け…
佳祐からだ…
話があるって…
加藤　佳祐
ちょっと話があるから今日は久々に一緒に帰ろうぜ！
どう考えても…
写真のコト…だよね…

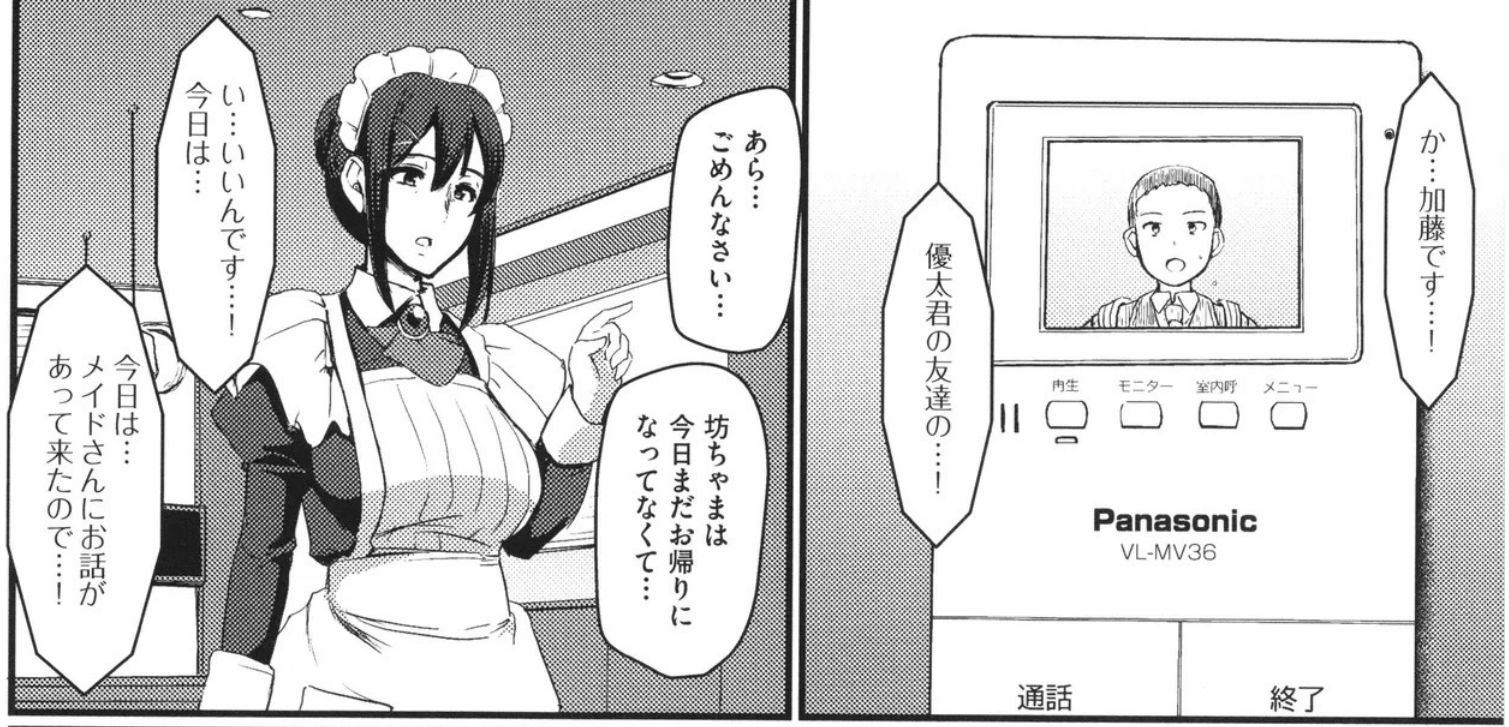

僕だって
本当は
わかってる…
僕が悪いことも…
僕が謝らなきゃ
いけないってことも…
でも…今は佳祐に
合わせる顔がない…
というか…
いつものように
大人ぶった兄貴
気取りされるのが…
まだどこか少し
悔しかったんだ…


既読
8:40
終わるまで待ってるからさ
悪いからいいよ
8:41
既読
8:41
全然へーきだって！
悪いけどまた今度
8:44
やっぱり…
確かに今日は
委員会活動の日
だけど…
今日はここで
引き下がっちゃ
ダメだ…！
ロン
ロン
ロン
俺はお前の
味方なんだって…
どうにか
伝えなきゃ…！
ちょっと話があるから今日は久々に一緒に帰ろうぜ！
今日は委員会の集まりがあるから
ごめん

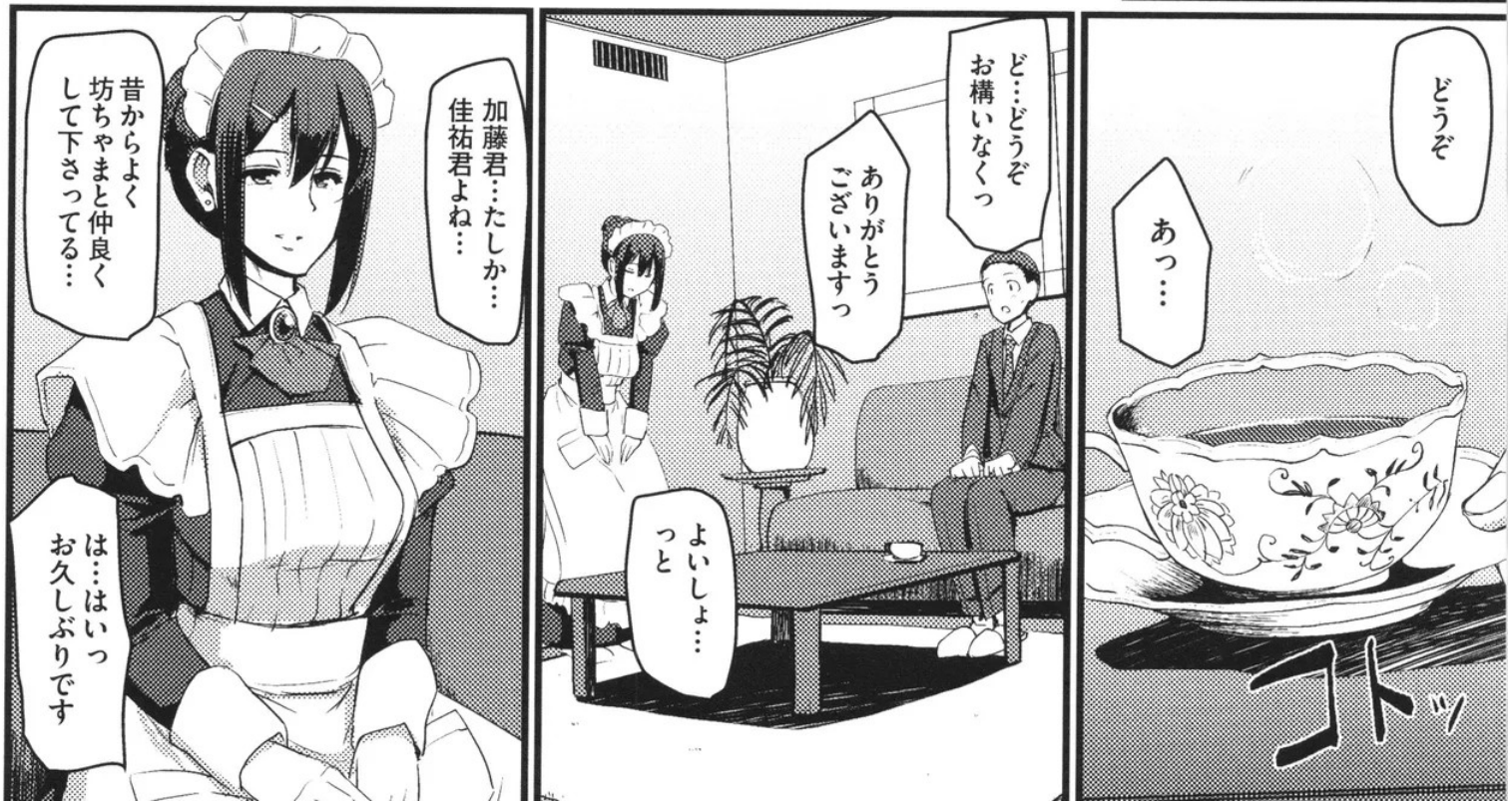

これは俺にすら直接は話せないくらい深刻な事情があるって事だ…
絶対そうに違いない…！
わかったよ 優太…
俺が必ず…
なんとかしてやるからな…！


ピンポーン♪
あら


はいはい
ピンポーン♪
今行きますよ…と
はい
ピッ
あっ…！

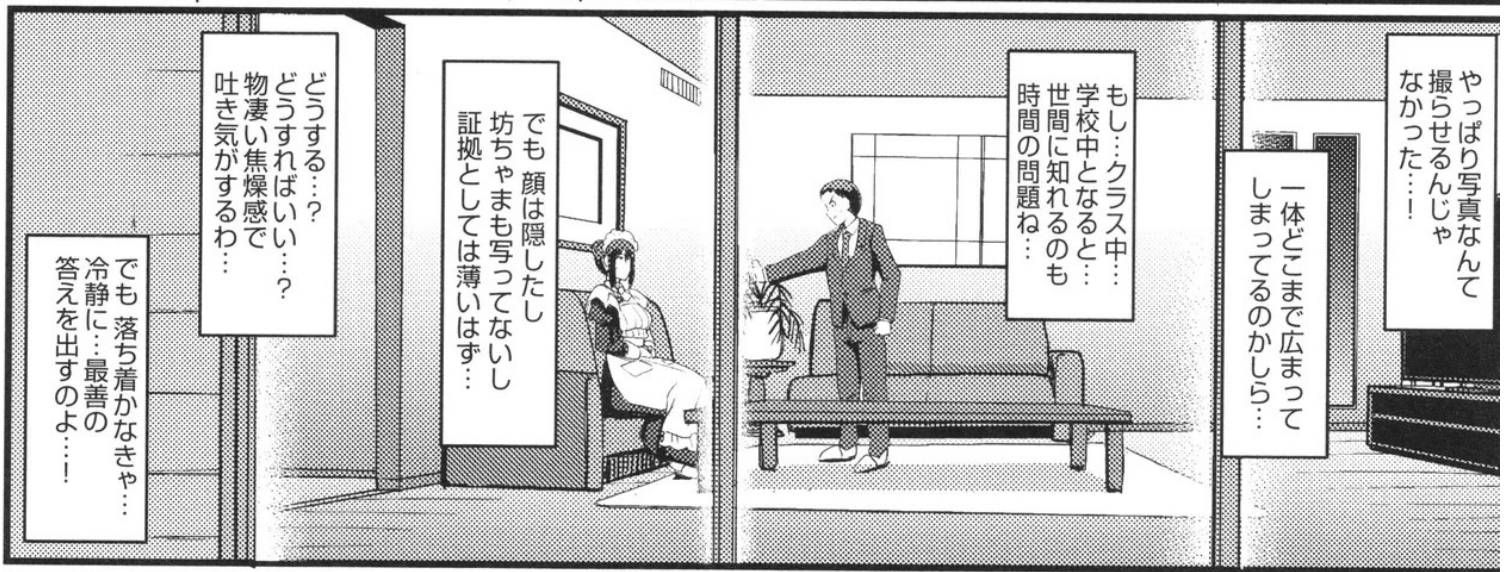

か…加藤です…！
優太君の友達の…！
再生
モニター
室内呼
メニュー
Panasonic
VL-MV36
通話
終了
あら…
ごめんなさい…
坊ちゃまは
今日まだお帰りに
なってなくて…
い…いいんです…！
今日は…
今日は…
メイドさんにお話が
あって来たので…！


私に話…
そう聞いた時点で
嫌な予感が頭をよぎる…
はぁ…
そう…ですか…
十中八九 坊ちゃまが
私との事を何か喋った
としか思えない…
面倒な事にならないと
良いのだけれど…


どうぞ
あっ…
コトッ
ど…どうぞ
お構いなくっ
ありがとう
ございますっ
よいしょ…
っと
加藤君…たしか…
佳祐君よね…
昔からよく
坊ちゃまと仲良く
して下さってる…
は…はいっ
お久しぶりです


坊ちゃまも久しく家に連れていらっしゃらないものだから…
随分とたくましくなりましたね
い…いえ…そんな…
メイドさんこそ…変わらずお綺麗で…
あらお上手美里で構いませんよ
は…はい
まいったな…
久しぶりに見ても本当に綺麗で…
緊張して言葉がろくに出てこない…
そんなに年齢変わらないハズなのにウチの母ちゃんとは大違いだ…
こんなに…綺麗な人だったっけ…
よく考えると俺…この人のアソコまで…見ちゃってるんだよな…
ダメだダメだ…！余計な事考えるな…！
いくら美人でもこの人は自分の子供みたいな年齢の優太をオモチャにしてる変質者…！
昨日調べた児童福祉法違反ってヤツなんだ…！
俺は絶対に…
優太を助ける…！
ゴクッ
まいったわ…正直こんな子供と何を話していいかわからない…
今日の用件はやっぱり坊ちゃまとの関係の事だとは思うけど…
もしかしたら別の事かも知れないし…
とりあえず優しい大人の態度で…
あっ…！
あのっ…！
オチャ


ミサトさん…
ですよね…！
この写真…！
優太に
こんなの撮らせて…
良いと
思ってるんですか…！
やらかして
くれたわね
坊ちゃま…!!


やっぱり写真なんて
撮らせるんじゃ
なかった…！
一体どこまで広まって
しまってるのかしら…
もし…クラス中…
学校中となると…
世間に知れるのも
時間の問題ね…
でも 顔は隠したし
坊ちゃまも写ってないし
証拠としては薄いはず…
どうする…？
どうすればいい…？
物凄い焦燥感で
吐き気がするわ…
でも 落ち着かなきゃ…
冷静に…最善の
答えを出すのよ…！


それで…？
トキッ
え…
動揺は
見せちゃダメ…
そんな写真
私に見せて…
ふうっ
アナタは
どうする気なの？
こんなコト
大した事ない…
そんなふうに装って
余裕を見せて…


ど…どうって…
俺は…その…
だいたい
その写真じゃ
私かどうかなんて
わからないでしょ？
写真が
拡散されていないか…
探りを入れる…
そんなモノ
拡めたって
大した問題にも
ならないわよ
べ…別に俺は
拡めるつもりなんて…！
俺はっ…
どうして優太に
こんな事
させたのかってっ…！
良かった…
この様子なら…
それはアナタには
関係の無い事じゃ
ないかしら？
私と坊ちゃまの
間の事情だもの
まだこの子だけにしか
送っていないさそうね…


さぁ…
こんな脅迫じみた
事をして…
アナタの望みは
なんなのかしら？
お金…？
それとも…
となるとこのまま
この強迫行為を
強く叱るべきか…
優しく説得して
上手になだめるべきか…
あるいは…
いっその事…
身体を使ってでも
黙らせてしまうべきか…
この年頃の子にはこんな
年増の身体でも興味が
ある事は良くも悪くも
充分理解しているし…
一体…
正解はどれなの…！
ちがう…
ちがうっ…！


違うっ！
そんなんじゃないっ！
あんたのせいだろっ！
優太がおかしく
なっちまったのはっ！
ガキ相手に
こんな写真
撮らせるなんて…
あんたいったい
何考えてんだよっ！
ハッ
……
…すみません…
大声出して…
俺は…
ただ話を聞いて
欲しかったんです…

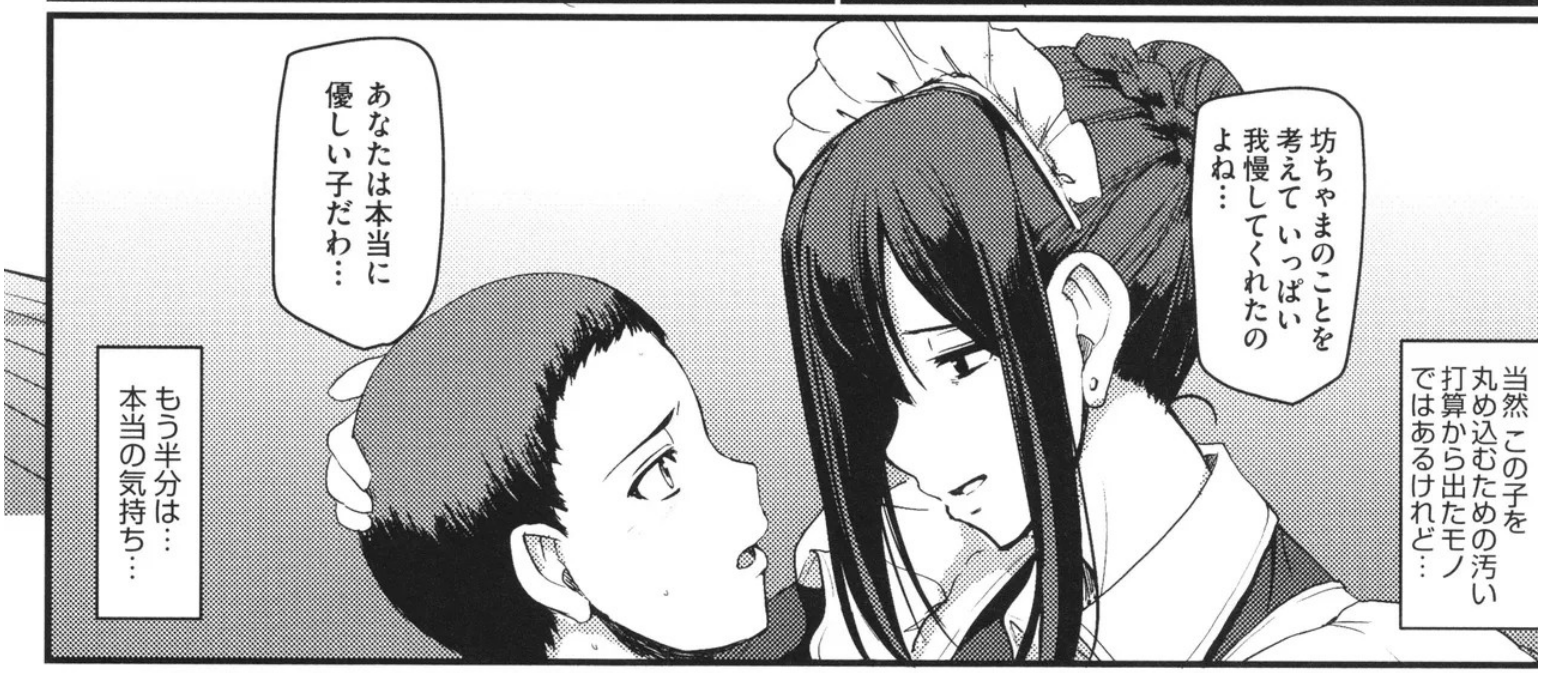

最近…
優太があなたのことを
学校で自慢するように
なって…
急に大人ぶって周りの
ヤツを見下したり…
喧嘩腰になったりで…
これじゃあ
優太はみんなに
嫌われちまうって
思って俺は…
必死に…
優太をなだめたり…
話をしたりしたのに…
このまえ…その写真が…
送られてきたんです…
正直…本当は俺だって…
薄々わかってはいます…
きっと優太が
あなたに頼み込んで
撮らせてもらって…
俺に自慢したくて…
俺を悔しがらせたくて…
その写真を
送って来たんだって…
それでも俺は…
今まで通り
優太と親友で
居たいんです…


お願いですから
どうか…！
これ以上
優太に手を出さないで
やってください…！
このままじゃ
あいつはどんどん
おかしくなっちまう！
あまりに誠実な
この少年の必死な訴えを
目の当たりにして
私はここで初めて…
自分の感覚がいかに
狂ってしまっているのかを
客観的に再認識した…
今しがた私はこんな
年端も行かぬ少年に
性行為を用いて
口を封じる事まで
本気で思案したのだ…
本当にもう…
どうかしているのね…
私…


けれど汚れた大人の
私は あなたのその
純粋さを…
今は最大限に
利用させて
もらうわ…
ガバッ
！
ありがとう
佳祐君…
アナタは本当に
坊ちゃまのことを
大切に想って
くれているのね…


きっと
初めてでしょ…？
ドクン
ドクン
母親以外の女性に
抱きしめられるなんて…
坊ちゃまに
こんな優しいお友達が
いたなんて…
ドクン
私…
安心したわ


本当にごめんなさい…
さぁ上手く演じるのよ加奈子…
突然こんなことになってとっても辛かったわよね…
優しく…理解のある…大人の女を…
悲しくて…悔しくて…やりきれなかったでしょう…
それでも…
まるであの頃の男たちのように臆面なく口を出る白々しいセリフの半分は…


当然この子を丸め込むための汚い打算から出たモノではあるけれど…
坊ちゃまのことを考えていっぱい我慢してくれたのよね…
あなたは本当に優しい子だわ…
もう半分は…本当の気持ち…


「うちの子がごめんなさいね」
ミサト…さん…
ガチャッ
そんなまるで母親のような感情…
とにかく坊ちゃまが写真を送った相手がこんな良い子で本当に助かったわ…
聞いて佳祐君…
あとはこのまま どうにか言いくるめて写真を消して貰えさえすれば…
私と坊ちゃまの関係はね…


帰ったよー
ミサトさ…
ガチャッ
なに…
してるんだよ…
ゆ…優太…！
…坊ちゃま…


佳祐えっ!!
…ッ!!
やめなさい
坊ちゃまっ!
ちがう…優太…
俺はただ…
お前の事が
心配で…!
本当はどうせ
みんなで僕を
笑ってるんだろっ!
落ち着いてっ!
離してよ
ミサトさんっ!
嘘だっ…
そんなの
嘘だっ…!
そのうえ
僕に隠れて
ミサトさんにっ…
手を出すなんてっ!


おまえなんてっ!!
もう友達じゃないっ!!


…っ!!
いい加減にっ…!
……!
坊ちゃまっ!!


いい加減にしなさいっ!!
いくらなんでも言って良い事と悪い事があるでしょうっ!!
彼は本当にあなたのためを思ってここに来てくれたんですよっ…!
謝りなさいっ!!
くっ…!
ゴシッ
ま…待って!佳祐君っ!
ああもうっ!なんてこと…!
坊ちゃまっ!
すぐに追いかけて佳祐くんに謝ってっ…!
せっかく事態が収拾しかけたのに台無しだわ…!
イヤだ…


ミサトさんは
僕だけのモノだっ！
僕にはっ…
ミサトさんしか
いないんだっ！
この子は…
本当にっ…！
…だったら
私の苦労も
知らないでっ！
だったら
どうして
あんな写真を
送ったり
したのよっ！
ミサト…
さん…
ほー
ほー
ほー
だって…
だって僕…
悔しかったんだ…！
ギュウッ


みんなで僕を子供扱いして…
バカにして…！
そんなのおかしいじゃないか…！
みんなずっとお父さんやお母さんに毎日甘えてきたくせにっ…！
本当はみんなより僕が一番大人なのにっ!!
佳祐までっ…!!
佳祐までミサトさんとセックスするなんておかしいって…!!
無理だなんて言うからっ…!!
だから僕はっ…僕はっ…!!
あぁ…
そういう事だったのね…
ようやくわかったわ…
小さな頃から甘えられる母親もおらず…
仕事第一な父親にほぼ育児放棄され「聞き分けの良いよい子」を強いられて…
ある意味で「大人」になる事を強制されてきた坊ちゃまにとって…
「肉親の愛情への渇望」こそが本当の心のスキマなのね…
だから坊ちゃまは…私を「恋人」にする事に強く固執した…
肉親に最も近い存在である「恋人」からの愛情や承認を求めて…


未熟な私が…
幼い坊ちゃまの…
「母親」になる事を
拒絶したから…
私は「母親」に
なってはくれない事を…
私から「母親」としての
愛情や承認を得られない事を
幼い頃から理解していたから…
そして「恋人」を得た
という大人の男性と
しての成功を元に…
周囲からの
承認や肯定をも
欲したんだわ…


けれど私はその
「恋人」になる事すら
拒絶し…
「性教育」なんて
言葉であいまいに
誤魔化し続け…
罪悪感の麻痺とともに
坊ちゃまを都合よく
性欲処理(慰さ晒らし)の道具として
扱い始めていた…
この子がここまで
複雑な袋小路に
追い詰められて
しまったのは…
はじめから全部
私のせいだったんだ…


こんなの本当にメイドの
仕事じゃないけれど…
これ以上
「母代わりのメイド」なんて
中途半端な立場で…
私自身が作り出して
しまったこの現実から
逃げていては…
きっと私は本当に
この子の心を
壊してしまう…
もう…
向き合わなきゃ…
認めなきゃ…


この子の母親は…
この私だけなんだわ…
ミサト…
さん…


ずっと…
ずっと
寂しかったのですね…
優太坊ちゃま…
ひとりぼっちで…
今まで気付いて
あげられなくて
本当にごめんなさい…
よく
聞いてください…
坊ちゃま…
誰がどんなに
バカにしたって…
坊ちゃまは
しっかりと大人に
なっていってます…
決して
焦る必要なんて
ありませんよ…
私はこれからも…
ずっと坊ちゃまの
味方です…
坊ちゃまの成長を
一番近くで見守ってきた
この私が言うのですから…
どうぞ
ご安心下さい…
ですが坊ちゃま…
本当に大人になる
という事は…
ただ恋人を作り
セックスをして
異性の体を覚えるという
事ではありません


大人になるという事は
他の誰かを思いやれる
優しさや強さを
持つという事なのです
もちろん…
忙しいお父様の為に
たとえどんなに寂しくても
ワガママをろくに言わなかった
小さな坊ちゃまの我慢も…
それは立派な
思いやりや
優しさの形です


何度も申し上げた通り…
私と坊ちゃまの今の関係は
許される関係ではありません…
世間的には…
大きく間違った
関係です
佳祐君は…
坊ちゃまのことを
親友として本当に
大事に思うからこそ…
その点で彼は
セックスの経験など
無くとも坊ちゃまより…
ましてや
こんな私よりも
立派で正しい
大人なのですよ


誰にも言えず…
ひとり深く思い悩み…
そして勇気を出して…
私達の間違いを
正しに来てくれたのです
もし彼が
怒りや悔しさ
任せに行動する
自分勝手な子供
だったら…
はっきりと言えば
彼が他の誰かに
あの写真を拡めて
しまっていたら…
きっと私は今頃
坊ちゃまのおそばに
居られなくなって
いたでしょう


軽率にあんな写真を許してしまった私にも落ち度があります…
ですがそれほどにあの写真は…私達の関係は誰にも知られてはいけないものなのです…
それはこれから私が…
ずっとあなたのそばに居るために…
メイドとして…
そしてまた…
あなたの母として
うっ…
くっ…あぁっ…
ごめん…なさい…
ミサトさん…
ごめんなさいぃ…！
うっ…あっ
あぁぁぁぁぁぁっ！
自分がいかに子供で…自分勝手でバカなことをしてしまったのかという恥ずかしさと悔しさと…
ミサトさんはやっぱり僕の恋人ではないんだという寂しさと…
これからずっとお母さんとして甘えることを許してもらえた安心感がごちゃ混ぜになって…
僕は思い切り泣いてしまった…


そうだ…
きっと僕は…
ずっとこの人に…
これから
大人になるまで
どんなに悲しい事や
辛い事があっても…
私だけは…
必ず坊ちゃまの
味方ですから…
もう不安になる
必要はありません…
お母さんになって
欲しかったんだ…


今まで…
坊ちゃまの
母親のようなもので
ありながら…
本当の母親に
なりきれなかった
私のせいで…
とても寂しい思いを
させてしまったと
思います…
けれど今日
ようやく
覚悟ができました…


そうだ…
きっと私は…
ずっとこの子の…
これから
私はずっと…
あなたの
お母さんですからね
本当の母親に
なりたかったんだ…

誰かに真剣に
愛される女にもなれず…

懸命に世話を焼いた
可愛い男の子の
母親でもない…

そんな空漠(くうばく)とした
果てのない虚無感が…

私自身の大きな…

大好きだよっ

ミサトさんっ

心のスキマだったのね…

とても…
とても遠回りして…

傍から見れば
いびつに歪んで
いたとしても…

これがきっと…


私と
坊ちゃまにとって
いちばん自然な…
私も愛していますよ
坊ちゃま
愛のカタチなのだ…
んっ…
ちゅっ
ふっ…
ちゅっ
ふうっ…
ちゅっ


坊ちゃま…
後でキチンと
佳祐くんに
謝るんですよ…？
うん…
わかってるよ…
だから…
もっと…
本当は今すぐにでも
写真を消してもらう
手立てを
取りたいのだけれど…


まぁ…
佳祐くんにも…
坊ちゃまにも…
少し頭を冷やして
落ち着く時間が
必要だろうし…
一晩くらいは
間を空けた方が
いいかもしれない…


それになにより
私自身…
母親になると
改めて決心した
今は…
自分でも
驚くほどに
心の底から…
愚かで未熟な
この子がとても
愛しい…





母親にとって息子は恋人のようなものなんて言うけれど…
はっ
ちゅっ
それはそのハズだわ…
はぁっ
ちゅるっ
はっ
ろちゅっ
れるっ
乳飲み子の頃から面倒を見て…立派に成長し…
こんなにも純粋に私だけを見て私だけを愛してくれる可愛らしい男の子が…
ぷはっ
はぁっ
愛しくないハズがないじゃない…
はぁっ
あせ
あら
あせ
珍しいですね坊ちゃま
こちらをご所望なんて


どうぞ
坊ちゃま
お好きなように
ぷるんっ
たぷ
心の中では
女としての自分が
諦めきれず…
この子が甘えられる
相手は私一人だと…
ずっと頭では
理解していたのに…
そのちっぽけな
私のプライドが
この子を深く
傷付けていた…
その傷はこれから
時間を掛けて
私が埋めていこう…
ふにゅっ
少しづつ…
ひとつひとつ…


今度は
「母代わりのメイド」
などではなく…
「母親」として…
ふっ
ふーっ
「性教育」などではなく…
今まで与えられなかった
「母親の愛情」として…
今日のセックスは…
できる限り優しく
してあげよう…
今までの分まで
めいっぱい…
今日は…
たくさん甘えて
くださいね…
ナデナデ


んっ…
ちゃんと胸も…
お好きだったんですね
坊ちゃま…
ナデ
ナデ
ろにっ♡
ろにゅっ♡


今まで
アソコばかりに
ご熱心だったので…
こんな形の崩れた
胸には興味がないのだと
思ってましたから…
クスッ


そんなに夢中に
なって頂けると…
ちょっと嬉しいです
ミサト…さん
ドキッ


だって…
胸じゃ ミサトさん
そんなに気持ち
良くないだろうし…
んっ
ろにっ
イかせられ
ないから…
むにっ♡
ぐにゅっ♡


そんな事は
ありませんよ
坊ちゃま…
たしかに存分に
感じさせる扱いは
少し難しいですが…
女性にとって
立派な性感帯なのです
乳首は…
優しく舌を使って…
胸への愛撫で
絶頂に達する事ができる
女性だって居るくらい
なのですから…
そう…
強すぎないよう
揉みしだいて…
たまに唇で吸って…
あぁっ…
そうです…
お上手ですよ
坊ちゃま…


それでは…
こんなのは
いかがですか
坊ちゃま…
わっ…！
は…
恥ずかしいよ
ミサトさんっ
ふふっ…
こうしていると…
育児書を片手に
お世話していた頃を
思い出します


いいんですよ
坊ちゃま…
あの頃
吸わせてあげられ
なかった分…
思う存分
味わってくださいね
ちゅっ♡
ちゅぱっ♡
ミサトさんのおっぱい…
暖かくて…柔らかくて…
すごくいい匂い…
まぁ
まぁ
ちゅっ♡ちゅぱっ♡
アソコの方とはまた
ぜんぜん違うけど…
女の人の
匂いって感じで…
そうしていると
まだまだ赤ちゃんの
ようなのに…
こっちは
みるみるうちに
成長して…
坊ちゃまは
私が責任を持って…
スーッ♡
ビクッ
はぁ
立派な大人の
セックスのできる
男性にして差し上げ
ますから…


可愛く愛しい
我が子を
目一杯愛している…
ただそれだけの
事だわ…
もう
つまらない体裁に
こだわる必要も…
感情を押し殺す
必要も無い…
お互い素直に…
身体と心を
通わせ合えばいい…
ミ…ミサトさんっ
そんなのっ…
そんなのされたら
すぐ出ちゃうよっ
あら…
じゃあお口で
しましょうか
あのっ…
してもらいたいこと…
あるんだっ…


よろしいんですか？
坊ちゃま…
お口やアソコでの
射精じゃなくて…
ムニュッ♡
ムニュッ♡
う…うんっ
これ…一度やって
もらいたかったんだ…
お願い
ミサトさん…
良いんですよ
坊ちゃま…
私にできることなら
なんだって
してあげますからね
こうして…
一つ一つこの子の
「初めて」を奪う度に…
今まで感じていた
罪悪感とは別の感情が
私に芽生えている事に
気が付く…



いつかこの子が
私の願い通り 相応の相手と
結ばれる日が来ても…

私という存在はきっと
この快楽の記憶と共に
この子の中に
生涯刻み込まれる…

あっ…あぁっ
ミサトさんっ！

これっ
すごいよぉっ…！

そう思うと…
この子の「初めて」を
すべて奪って
しまいたい…

そんなちょっぴり
意地の悪い感情が
私を支配するのだ…

たぽっ♡
たぽっ♡
たぽっ♡
たぽっ♡
ビクンッ
ビクンッ

気持ち良いですか？
坊ちゃま

うっ…
うんっ…！

ぐにっ♡

おっぱいっ…
やわらかいのっ
こすれてっ…！

ぬるぬるしてっ
おしつぶされてっ…！

たぽんっ♡
たぽんっ♡
たぽんっ♡

わけわかんなっ…
あぁぁっ！

ムギュッ♡
ギューーッ♡

ムにゅっ♡


ミサトさんのっ
おっぱいっ…
気持ちいいっ…！
こんなのすぐ
イッちゃっ…！
あぁっあっ…！
構いませんよ
坊ちゃま…
どうぞお好きな時に
お出しください…
お気に召したのなら
また何度でもして
さしあげますから…
あっあっあっ
だめっ…
ミサトさんっ…！
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ぱちゅんっ
ビクッ
ビクッ
もうっ…
もう
でちゃっ…!!
あああああっ!!
ゾクッ
ゾクッ



これでこの子は…
きっとこの先…

ドクン♡

ギュウウウ

女性の胸で…
射精する度に…

ドクン♡

ドクン♡

まるで幻影のように
思い出すの…

私のことを…

ちゃあぁっ♡

ぬ

ピュルッ♡

今日も
すごい量と
濃さですね…

ご立派です
坊ちゃま…

この意地の悪い感情は…
いつかこの子と結ばれて
幸せになる女の子への…

私のささやかな
嫉妬心なのかも
しれないわね…

それじゃあ今度は
坊ちゃまの番です…

今日もたくさん
練習しましょうね…

はーっ

はーっ

どろおっ♡


練習なんて詭弁で
私の性欲処理に
何度も使ったせいで…
おそらく
坊ちゃまはもう…
同年代の子はもちろん
並の大人の男性よりも…
アソコを舐めるのは
上手だけれど…
さぁ坊ちゃま…
舐めて下さい…♡
はぁ♡
はぁ♡
ヒクン♡
ヒクン♡


変な経験も…
クセもなく…
本当に私の好みの
通りに教え込んだ
坊ちゃまの舌技は…
日を追うごとに
私の快感を司る
正確さを増してゆく…
固くなった
クリトリスを
尖らせた舌先で
何度も転がして…
単調にならないよう
時折り膣口から
愛液をすくうように…
クリトリスまで
小陰唇を舐め上げ…
クリトリスを
ついばむよう
キスをして…
再び舌先で転がして
私が達するまで何度も
従順に繰り返す…
これからはもう…
快楽に溺れる姿を
隠す必要もない…
ちゃんと上手で
気持ち良いのだから
正直に感じてあげる方が
坊ちゃまの自信と
自己肯定に繋がるのだ…
ほんのわずかに残った
罪悪感をそんな理屈で
押し流した私はさらに
貪欲に快感を求める…


坊ちゃま…
今日は…その…
ナカに指を…
挿れてみましょうか…
え…？
あっ…
ちゅぽっ
う…
うんっ！
こ…
こうかな…
はっ…
あっ…！
そうです…そのまま…
人差し指と中指で…
お腹の裏側の…
ザラザラした所を…
あぁっ…！
ぐにっ♡
そこです
坊ちゃまっ…！
そこを…
こすりながらっ…
ヒクンッ
くちゅ♡
クリトリスをっ…
舐めてっ…あっ…
あぁっ…はっ！
倫理観の壁を
乗り越えてしまった
今の私は…
セックスに
目覚めて間もない
若い男の性欲に
求められるまま…
はぁ♡
あぁ♡
ちゅぷっ♡
ちゅるるっ♡
自分の浅ましく発情した
使い古しの女の部分を
大股を開いてさらけ出し
腰をくねらせ嬌声を上げる…
そんな倒錯した禁断の
シチュエーションに
自らの奥底に秘めた
被虐嗜好を刺激され…
久しぶりに感じる
強烈な性的快楽に
情けないほど思考を
支配されていた…


あぁっ…
もうそんな物言いで
取り繕っても
何の意味の無いわ…
坊ちゃまは私の
こんな品のない姿を見て
どう思ってるかしら…
幻滅させちゃってたら
ごめんなさいね…
要するに今の私はただ
「おま○こ気持ちいい」と
「おま○こイきたい」で
頭がいっぱいになってる
醜く発情した年増女…
まだ子供のキレイな
坊ちゃまの指先を
飲み込んで締め付ける
淫らな肉穴に…
理性の効かなくなった
メスの品のない喘ぎ声…
もう…止められない…
何も考えられない…
気持ちいい
気持ちいい
気持ちいいっ…!
おま○こ
気持ちいいっ…!
あぁっ…!
良いです 坊ちゃまっ…!
気持ちいいっ…!
もう私っ…イクっ…
イキそうですっ…!
あぁっ…あっ…!
イキたいイキたい
イキたいっ!
おま○こ
イキたいッ…!
イクっ…イクッ…!
イクイクイクイクッ…!


!!
ミサトさん…
イッたの…？
き…気持ちよかった…？
ほ…ほんとっ？
じゃあこれから毎日気持ちよくしてあげるからねっ！
ありがとうございます…坊ちゃま…
とってもお上手で…気持ちよかったですよ…


それは楽しみです…♡
ちゅっ♡
それじゃあ今度は…二人で一緒に気持ち良くなりましょうね…♡
うんっ!!
002
さぁ坊ちゃま…
今宵もどうぞお使い下さい…♡
ヒクン♡
ヒクン♡
とろぉ♡


入れるよっ…
ミサトさっ…
くちゅ
くちゅ
んっ…！
ズリ
プン
坊ちゃまは
腰使いも前とは比べ物に
ならないくらい上手に
なっているのだけれど…
余計なプライドも
罪悪感も捨てた
今日は…
いつもより
ずっと
気持ち良くて…
久しぶりにナカで…
セックスで
イケそうな気がする…
はっ
はっ
パコん
パコん
パコん
パコん
あっ
あっ
あっ
相手をするのも面倒だった
坊ちゃまにこんなにも
感じさせられて…
バカにしていた
子供サイズのペニスで
イキそうになってる…
そんな背徳感に
本気にさせられた
私の膣壁は収縮して
子宮は下がり…
受精を待ちわびて
坊ちゃまのペニス専用の
カタチになってゆく…
あっ
あっ
あっ
ほぁっ


この子はもう立派に種付けのできるオスで…
私はまだ精を受け子を孕めるメス…
それは親子ほどに離れた歳の差など関係のない純粋な動物的摂理…
あぁっ…イキたいっ…イカされたいっ…！
坊ちゃまのペニスで…男の…おチ○ポでっ…私もまたっ…！
あぁっ…！ミ…ミサトさんっ…！
女に…されたいっ…！
ごめんっ…僕もうっ…！
えっ…!?
あっ…あぁっ…出るっ…出ちゃうっ！
そ…そのっ坊ちゃまっ…もう少しっ…
無理っ…だよっ…！ミサトさんのナカっ…！
いつもよりキツくてっ…あぁあっ…！
もう少しだけ我慢をっ…
イクッ…イクよっ！ミサトさんっ…ミサトさんっ…！
あっ…まっ…待って坊ちゃまっ…！


ミサトさんっ
出るっ…！
あぁあっ…!!
ごめん…
ミサトさん…
いいえ
坊ちゃま…
大丈夫ですよ…


お若くお元気な坊ちゃまなら…
まだまだたくさんできますものね…♡
こんな熱っぽくてエッチな表情のミサトさんを初めて見て思った…
もう何度も何度もミサトさんとセックスしたのに…
僕はミサトさんのことをまだまだ何も知らないんだって…
僕が今まで見てきた厳しく真面目なミサトさんはほんの一面で…
さっき見せてくれた優しい笑顔のミサトさんもほんの一面…
ミサトさんと恋人同士になって対等になるなんて…
いかに生意気な考えだったのか…
今までミサトさんがどんな男の人と付き合ってどんな表情を見せたのかも…
どんなセックスで愛し合ってきたのかもわからないけれど…
どんなにワガママで困らせても僕を見捨てないで許してくれていたミサトさんは…
それじゃあ坊ちゃま今度は前から…
いっぱい突いて下さい…
やっぱり恋人なんかじゃなく…
僕のお母さんなんだ…


きっと聖母のような女性って言うのが本当に居るのなら…
あぁ…もうこんなに固くて…
素敵です坊ちゃま…♡
ミサトさんみたいな女性のことなんだろうな…
あっ♡
はっ♡
ぢゅぷっ♡
射精したばかりですぐにこんなに元気になるのは…
お世辞抜きで本当に大したモノだわ…
ギシッ
固くなってくれさえすれば…
充分にイケる…
ぬちっ♡


何度も求められて
あんなにも面倒だった
坊ちゃまのこの若さが…
あっ…あぁっ…
お上手ですっ…
坊ちゃまっ…
そうっ…そこっ…
さっきお指で
擦ったところっ…
たくさんっ…
突いてっ…
あぁぁっ…！
きっと今日は
私に久しぶりの深い絶頂を
味わわせてくれる…
ちゅぷっ♡
ちゅぷっ♡
ちゅぷっ♡
ちゅぷっ♡
こんな事になったのは
すべてふしだらで欲深い
この私のせい…
すべての罪は
私が背負い償うから…
だからせめて
束の間の
快楽が欲しい…
だからせめて
ベッドの上でくらい…
あっ…はっ…
いいですっ…
気持ちいいっ…
一人の普通の女で
居させて欲しいの…
そのままっ…
あぁっ…！
ちゅぷっ♡
ちゅぷっ♡
ちゅぷっ♡
ちゅぷっ♡


ミ…ミサトさんっ…
キス…キスしよっ…！
はぁっ…あっ…
お願いしますっ…
坊ちゃまぁっ…！
スチュッ
スチュッ
スチュッ
はっ
あっ
はっ
あっ
スチュッ


あぁっ…イイッ…
ハメながらのキスっ…
久しぶりっ…
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
スチュッ
スチュッ
スチュッ
スチュッ


股を開き 足を上げ
はしたなく突き出した
アソコに出し入れされる
熱く硬いペニス…
上と下の粘膜が溶け合って
快楽を貪り合うようなこの感覚…
れろ
れろ
れろ
はぁっ
あっ
はっ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ


あぁっ…
たまらないわっ…
そうっ…
そうよ 坊ちゃまっ…
そのまま突いてっ…
もっとそのままっ…!


あっあぁっ…!
今度こそ
イケそうっ…!
あっあっ…!
おチ○ポでイクわっ…!
やっと私っ…
イクッ…あぁっ…!
イクッ…イクッ…!
イクイクイクイクッ…!


あっ…!
えっ…!?
待って
そんなっ…!!
ウソでしょっ…!?


あと少しっ…！
あともう少しなのにっ…！
ご…ごめん…ミサトさ…
だめっ…
我慢できないっ…
わあっ！
坊ちゃまっ…
ごめんねっ…！
ま…待ってっミサトさん待ってっ！
ごめんなさいっ…！坊ちゃまっ…！
僕もうイッてるっ…！イッてるからぁっ！
あとっ…もう少しですからっ…!!
無理無理もう無理っ…！
お願いやめてぇっ…!!


すみません…
坊ちゃま…その…
お身体は…
大丈夫ですか…？
うん…
大丈夫だよ
あんなにエッチな
ミサトさんには
ちょっと驚いたけど…

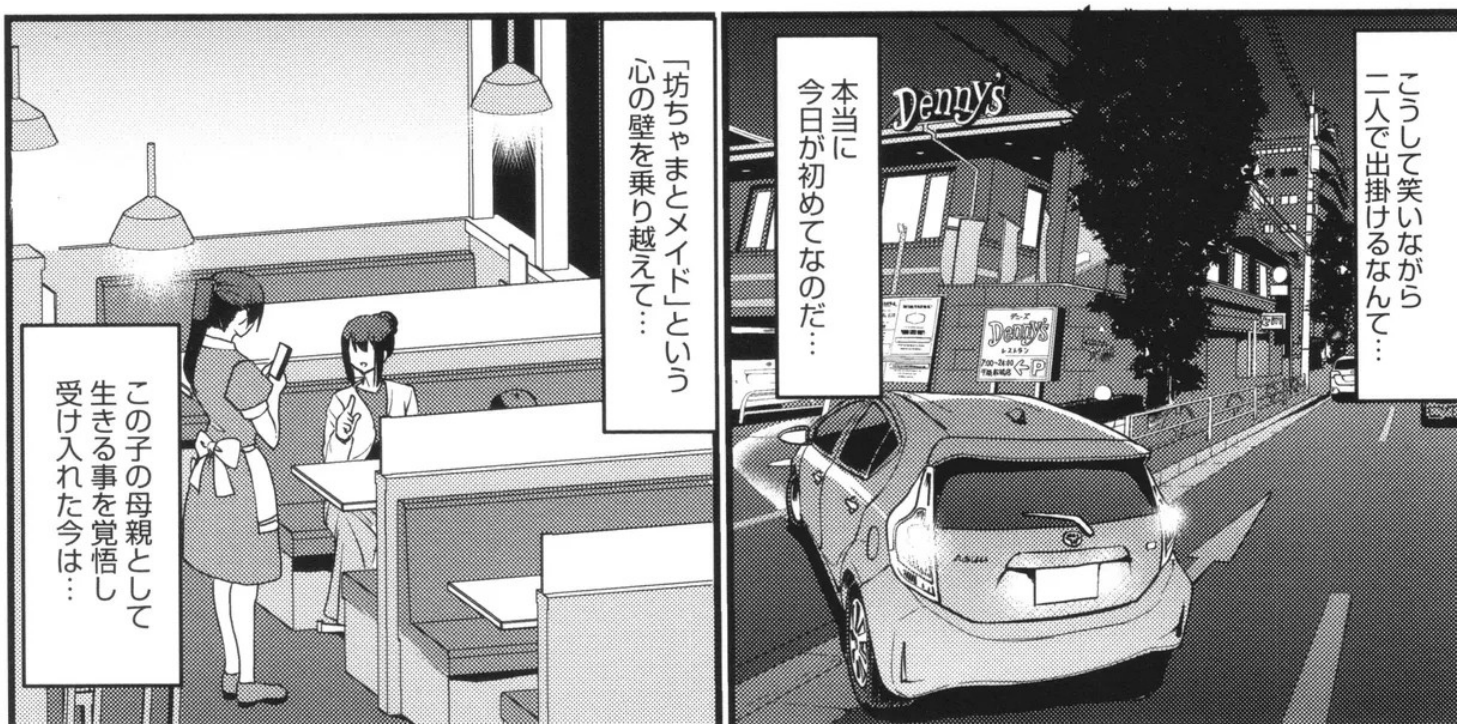

女性の性欲という物は…
時に男性よりも深く激しいのです…
これもまたお忘れなきよう…
それよりミサトさん…僕 お腹空いちゃったな
あら
それでは取り急ぎ何かお作り致しますね


あの…さ…
今から作るの…ミサトさんも大変だし…
たまには二人でどこか食べに行くなんてどうかな…？
その…
本当の…家族みたいにさ…


それでは…
お言葉に甘えて…
今夜はちょっぴり手を抜かせて頂きましょうか…
心の傷を舐め合い…欠けた何かを埋め合う…
そんな不器用で哀れな私達がどうかただ平穏に暮らせますように…
神様に祈れるような立場じゃないけれど…
やった！どこ行こうかミサトさんっ！
せめてこの子が大人になるまで…
坊ちゃまのお好きな所で構いませんよ
あっ…！夜はもう寒いですから上着をお持ち下さいね
どうかお願い…
この子だけは…
■おわり■


どうぞ 坊ちゃま
ありがとう
ミサトさん
ミサトさんの
車乗るのも
初めてだね
シートベルトを
しっかりと
お願いしますね


なにしろ私
運転にはあまり自信が
ありませんので
あはは
そう…
坊ちゃまとは
長い長い年月を
共に過ごしてきたのに…

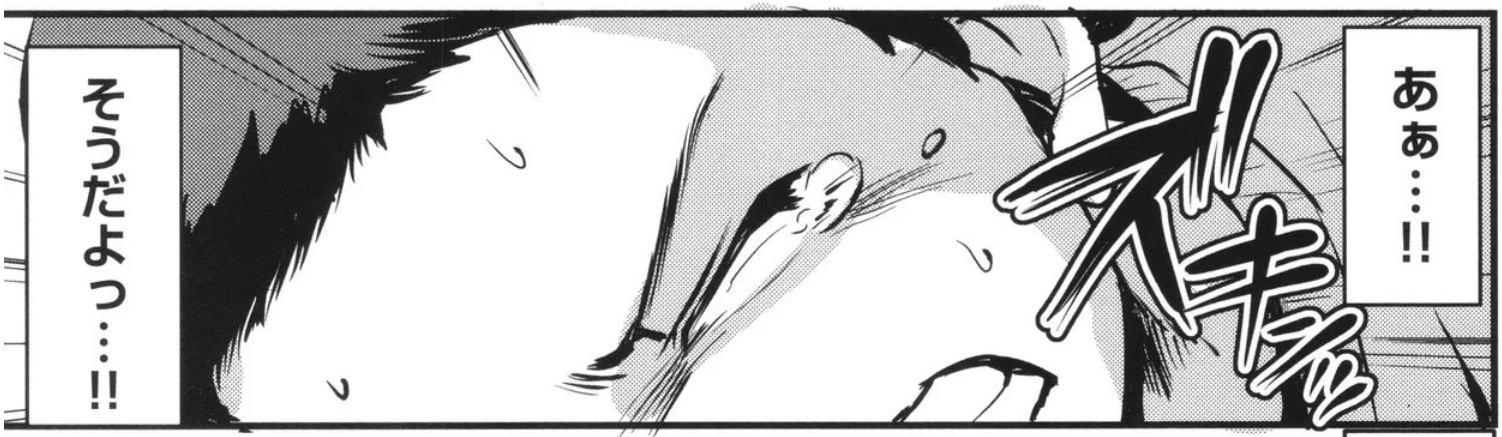

こうして笑いながら
二人で出掛けるなんて…
本当に
今日が初めてなのだ…
「坊ちゃまとメイド」という
心の壁を乗り越えて…
この子の母親として
生きる事を覚悟し
受け入れた今は…
Denny's


こんな
何気ない時間が…
とても
大切に思える…
これからも
どうか…


どうかこんな
幸せな時間が
ずっとずっと…
続きますように…


結局…
アイツにとって
俺はただの邪魔者
だったんだ…
勝手に味方気取って…
一人で熱くなって…
アイツんちまで
押しかけて…
ミサトさんに
なだめられて…
最後は泣きベソかいて
飛び出して…
バカみたいだよな 俺…


おまえなんてっ!!
もう友達じゃないっ!!


あぁ…!!
ズキッ
そうだよっ…!!


こんなにみじめな思いをさせられるくらいならっ…!!
3年2組
メンバー(34)
通知
YU-TA を
送信先より除外しよう
はい
いいえ
お前なんかっ…!!
送信画像を選択
お前なんかもう…!!
送信
友達じゃないっ…!!



既読3
ドクン
既読10
ドクン
ドクン
既読22
ージを削除しますか？
やっぱりダメだっ！
いくらなんでもこんな事…
はーっ
ドクン
ドクン
はーっ
ドクン
何してんだよ 俺っ…！
ドクン
ピコッ
新着メッセージ
YU-TA　さっき
YU-TA ①
さっきはごめん
3年2組(34)
なんだよ今のwww
！
さっきはごめん
佳祐を悔しがらせたくてあんな写真を送ったことや…
佳祐の話も聞かずに一方的に酷いことを言ったことを…
僕は今本当に後悔してる
ミサトさんに叱られて初めて気づいたんだ


佳祐がどれだけ僕のことを本気で心配してくれていたのか
僕がどれだけ佳祐のことを傷つけたのか
みんなが言う通り…僕は本当に子供で自分勝手だった
こんなにひどいことしておいてまた本当に勝手だけど…もし許してくれるのなら
また友達としてやり直すチャンスをください
今までこんな僕を見捨てないでくれたこと…本当にありがとう
またいつか親友って呼んでもらえるように精一杯努力するよ
…!!
ああああ…
俺は…
俺はなんてことを…
2-3-1
優太…
ごめん…


メイドのおしごと。
～最終章～
MAID NO OSHIGOTO


佳祐からの
返信はなかった…
あれだけやって
しまったら 嫌われて
当然なのだけど…
僕なりに誠心誠意
謝ったつもりだし…
正直 内心では…
佳祐とは簡単に
仲直りできると
思ってたから…
今度こそ
佳祐が本気で怒って
いるんだと思うと
学校に近づくたび
足取りが重くなる…


いったいどんな顔をして
佳祐に顔を合わせれば
いいんだろ…
それでも…
とにかく今は直接
佳祐に謝るしかない…
そしてミサトさんが
言う通り 佳祐に写真を
消してもらわないと…
ガヤ
これからも安心して
ミサトさんと…
ずっと一緒に
いられるように…


え…？


なんか…
いま一瞬…
みんなが僕を見て
静まり返ったような…
佳祐…
まだ来てないのか…
やっぱり…
昨日のことのせいで
休みかな…
これは僕が
思っている以上に
佳祐怒ってるんじゃ…
ドンッ
おっす！
わっ
優太
センパイっ！
センパイ
昨日は何発
やったんスか！
そりゃあーもう
昨日も中出し
しまくりッスよね！
ガシッ


この熟女ま○こにっ！
あはははははっ
まさかマジであのおばさんとセックスしてたなんて超ウケるよなw
ドクン
ドクン
ふる
佳祐が…
みんなに送ったの…？
昨日の夜 佳祐がいきなりクラスのグループに上げてさ
すぐ消されちゃったけど余裕で即保存してたわw
ニカッ
この写真どうしたのかって聞いてもそれから全然返信ないし…
まぁどうせ優太が佳祐に自慢するために送ったんだろって思ってたけど…
やっぱその様子だとマジで当たりっぽいな


この時 僕はようやく…
なぁ優太ぁ～
俺もあの
おばさんでいいから
ヤりてぇよぉ～
今度優太の家
遊び行くからさ
マジで頼んで
みてくんない？
もう周りに誰一人
味方が居ないことを…
優太とセックスするくらい
変態なんだし むしろ喜ぶって
でもちょっとこの
ボーボーのマン毛は
勘弁してほしいよなw
いっそみんなで
パイパンに
してやるとかw
あはははは
いいねーそれw
自分のしてしまったことが
いかに取り返しのつかない
ことなのかを思い知った…
このままじゃ
本当に…
僕と
ミサトさんは…
一緒に
居られなくなる…
イヤだ…
イヤだ…イヤだ…
イヤだイヤだ
イヤだイヤだイヤだ…！


そんなのイヤだ!!
うっ…


ゔえええええええっ!!


うっわ マジか…！
優太が吐いたっ!!
キャアアアッ
汚ったねぇっ!!
やだっ
雑巾もってきてぇっ!!

写真の処分の事…
坊ちゃまに任せては
みたけれど…

やっぱり不安だわ…

とはいえ…
もうこれ以上 私に打てる
手なんて無いし…

情けないけれど
あとは佳祐くんの
良心に縋(すが)るしかない…

あーあ…
下手したら私も
コレなのよね…

13歳女子中学生にみだらな行

友利容疑者

「お金に困っている中学生を
助けるためにやった」

ここまで堕ちて
ようやく心が満た
されてるなんて…

ダメ女の人生ここに
極まれりって感じ…

ガチャッ

あら

おかえりなさいませ
坊ちゃま

ずいぶんと
お早いですね

早退…

それで…

佳祐くんとは
お話できましたか…？

暗い表情…


……
無反応…
これは…
ぼ…
坊ちゃま…!?
嫌な予感に
背筋が寒くなる…
坊ちゃま
お待ちください…!
ケンカしたとか…
嫌われたとか…
坊ちゃま…!
どうか
その程度で
あってくれれば…


!!


何してるんですかっ
坊ちゃまっ!!


離しなさいっ…！
危ないですから
ほらっ…！

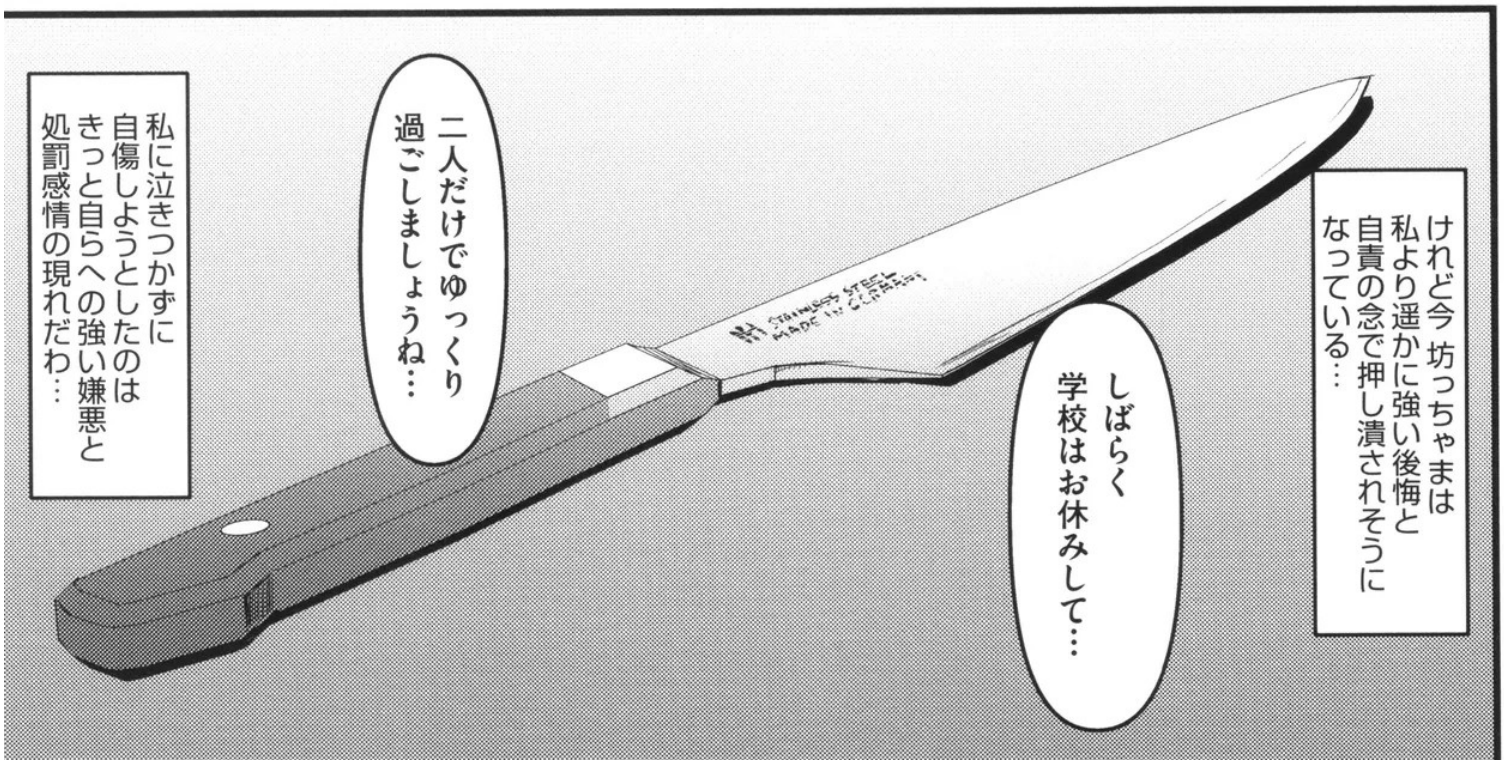

坊ちゃまの
その様子を見れば…


私の淡い希望が
儚く崩れ去った事は
明らかだった…


私の目の前で行うだけ
本気ではないとは
思うけれど…
ぼくのせいだ…
なにか…
なにか言わなきゃ…！
この子を
救えるような…
この状況を
納められるような
なにかを…！
ぜんぶ…
ぼくのせいだ…


このまま友達が
みんな居なくなっても…
ミサトさんが
居なくなっちゃっても…
それは…ぜんぶ
ぼくのせいなんだ……


大丈夫ですよ…
坊ちゃま…！
私は絶対に
居なくなったり
しませんから…！
結局そんな確証もない
「大丈夫」を言って
抱きしめるのが精一杯で…
内心ではどう考えても
悪い方向にしかいかない
これからの現実が
一気に脳裏に押し寄せ
胃液が逆流しそうだった…
自分が思うほど
他人は他人に
興味なんて無いものです
あんな写真の事なんて
みんな数日もすれば
飽きてしまいますよ…
どうして私が
こんな目に…と
いっそ泣き出して
しまいたかった…


けれど今 坊っちゃまは
私より遥かに強い後悔と
自責の念で押し潰されそうに
なっている…
しばらく
学校はお休みして…
二人だけでゆっくり
過ごしましょうね…
私に泣きつかずに
自傷しようとしたのは
きっと自らへの強い嫌悪と
処罰感情の現れだわ…



そして坊っちゃまは
自室に篭りきりになった

思わぬ精神的外傷を避ける為
本人も同意の上で
電源を切ったスマホは
私が預かり…

トイレ以外はほとんど
自室から出ない
いわば隔離病棟のような
状態で…

できるだけ私が目を離す
時間ができないよう
食事もなるべく簡単な物を
用意してお部屋に運ぶ…

そんな軽食も
ほぼ残してしまうほどに
減退した食欲とは相反し…

私たち二人は現実から
逃避するかのように
昼夜問わず眠りに堕ち…





逃避するかのように
昼夜問わず
身体を重ね続ける…

ギョッ
あぁっ♡
ギョッ
ギョッ
あっ♡
あっ♡
ギョッ
ギョッ
ギョッ

不安も孤独も後悔も…
無心に腰を動かし
快楽を追い求めている間は
忘れられる…

ズプッ
あっ♡
あぁっ♡
ズプッ
ズプッ

たとえそんな空虚で
自棄めいたセックスでも
坊ちゃまの救いになるのなら…

そうして私自身もこの先の
不安から目を背けるように
濡れた粘膜が擦れ合う快楽に
ただひたすら身を委ねた…

ズッ
あっ♡
ズッ
おっ♡
ズッ
ズッ
坊っちゃまァァ♡





「離れたくない」とでも言うように坊ちゃまが私を強く抱きしめて絶頂を迎えるたび…

どうしても離別の瞬間に思いは巡る…

不器用な私たちがようやく手にした愛は今この瞬間も…

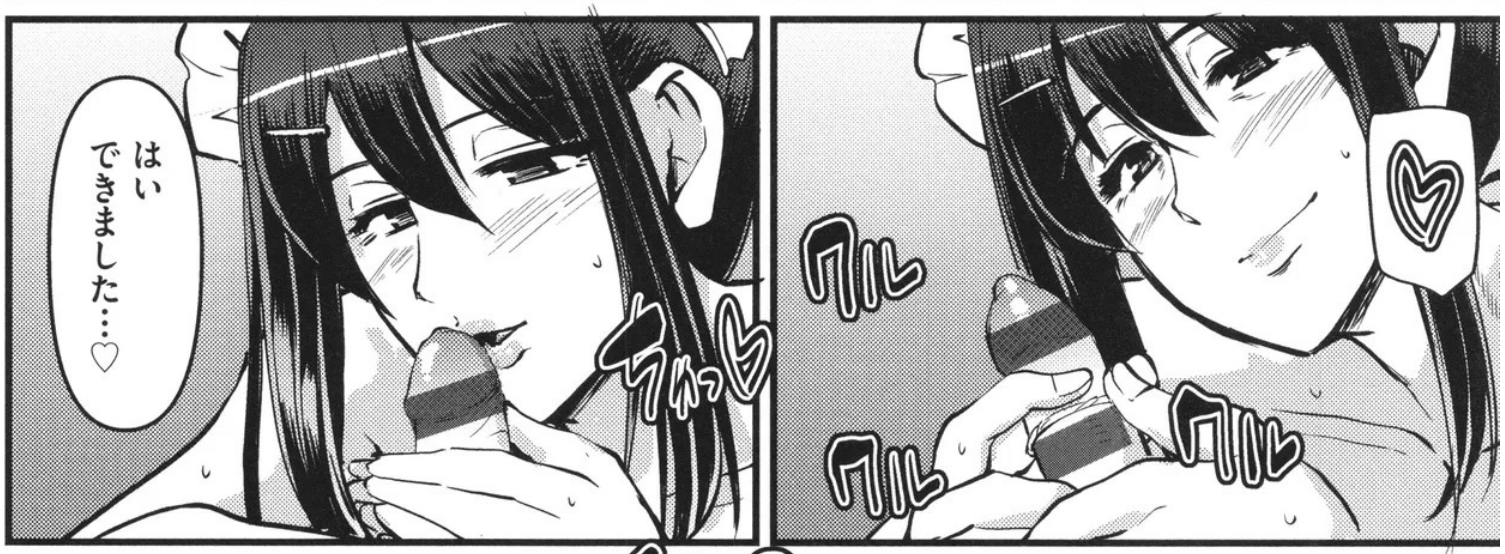
砂のように脆(もろ)く儚く指先から少しづつこぼれ落ちているのだ…

とっても気持ちよかったです坊ちゃま

少しお休みしますか？

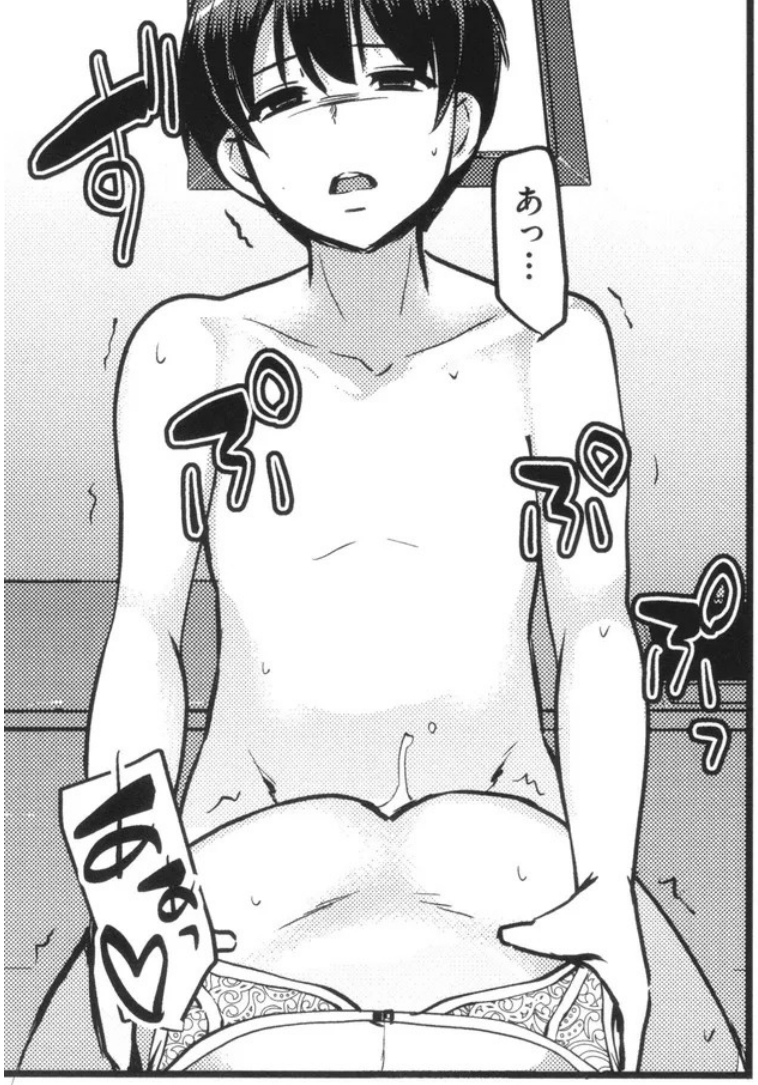

もっと…
もっとしたい…
頭が真っ白になるまで…
ムクッ
ちゅぽんっ
かしこまりました
それじゃあお口でお掃除して…
また準備いたしますね♡
何度でも…何度でも…
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
坊ちゃまが求める限り…
れりっ♡
れりっ♡
れりっ♡







坊ちゃまが気負わぬよう…
ほぉらまた大きくなりました
ではコンドームお付けしますね
クスッ♡
できるだけ私が楽しんでいる姿を見せながら…
♡
クル
クル
クル
ちゅっ♡
はいできました…♡
くぱっ♡
それでは今度は後ろからお願いします…♡
いっぱい突いて感じさせてくださいね♡
クイッ♡
クイッ♡
心の鎮痛剤代わりのセックスを続ける…
それが今坊ちゃまにしてあげられる私の精一杯…


あっ…
ぷっ
ぷっ
ぷっ
あぁっ♡


はぁ…あ…
くちゅ
ぬぷっ♡
あ♡


あっ…はぁっ♡
あっ…♡
おま○こっ
気持ちいいっ♡
お上手です
坊ちゃまぁっ♡
あ♡
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
あ♡
あ♡
あ♡


あっあっ♡
あンッ♡
あっ♡
そこっ♡
あぁっ♡
はぁっ
あっ♡


あっあっあっ♡
イイですっ
坊ちゃまっ♡
そこっ♡
そこぉっ♡
あぁっ♡
イッ…
あぁ…
申し訳ありません
坊ちゃま
ぼーっ
ぼーっ
私ばかり気持ち
よくなっていては
メイド失格ですね…♡







私が責任を持って坊ちゃまの射精まで腰を振らせて頂きます♡

ギシッ

失礼いたします♡

くちゅ♡

くちゅ♡

ズプッ♡

んっ…♡挿入りました♡

それでは騎乗位奉仕…いたしますね♡

ぶるっ

ぶるるっ

パン♡

あっ♡あンッ♡

パン♡

パン♡

あっ♡あっ♡はっ♡

パン♡

パン♡


はぁっ
あっ♡
やっぱり
すごいです…♡
坊ちゃまの
おち○ぽ…♡
とっても
硬くて…♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡


よく見えてますか
坊ちゃま…♡
私のおま○こが
坊ちゃまのおち○ぽ
食べちゃってる
ところ…♡

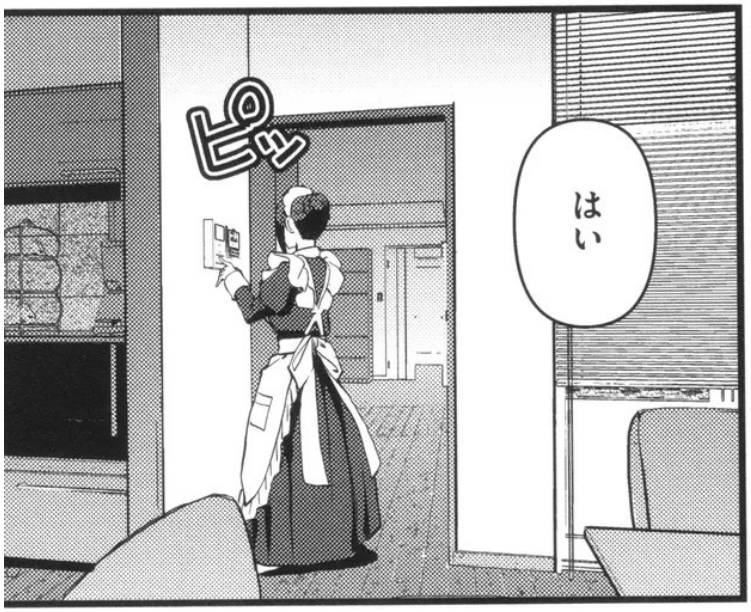

少し
わざとらしいくらいで
ちょうどいい…
坊ちゃまの
せいじゃない…
坊ちゃまは淫らな
年増女につきあって
くれているだけよ…
あっ♡
あっ♡
はぁっ♡
あっ♡
あっ♡

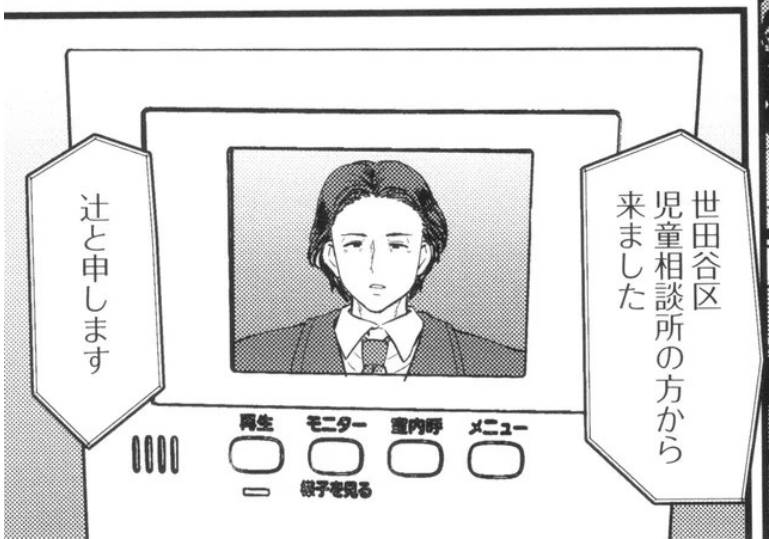

ミサトさん…
そろそろ…
射精(だ)そう…
はいっ♡
いつでもどうぞ
坊ちゃま♡
それじゃあ
ラストスパート
しますね♡
さぁ
また二人で不安を
忘れましょう…


ビクッ
ビクッビクッ
ビクンッ。
ヒクッヒクッ
ヒクッヒクッ
ヒクッヒクッ
おっ
ヒクッ
ヒクッ
ヒクッ

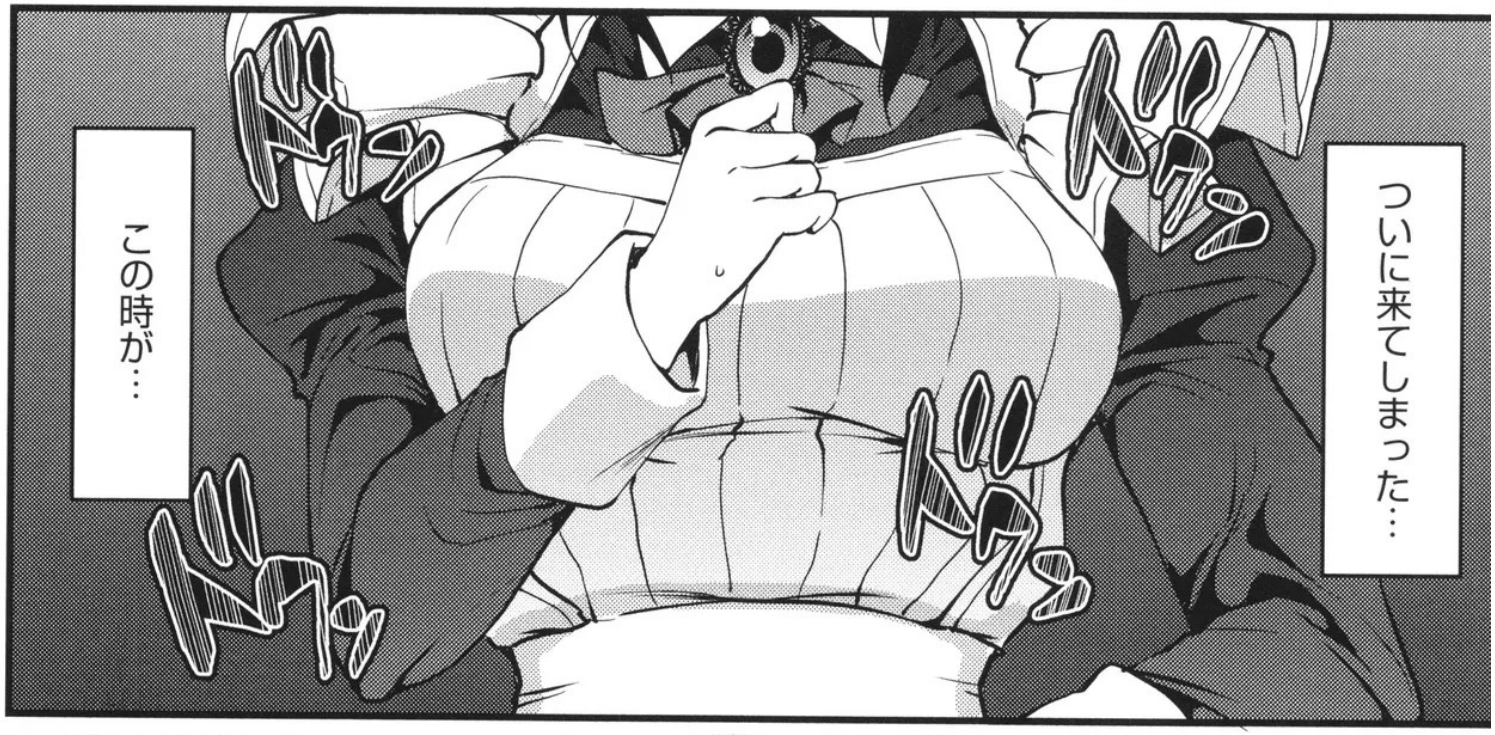

大丈夫ですから
坊ちゃま…
ギュッ
こうして
大人しくしていれば
きっとすぐに…
すぐにまた
いつも通りの毎日に
戻れますから…


そんな私たちの
願いも虚しく…
ピンポーン
状況はまるで
坂道を転がるように
悪化してゆく…


ピッ
はい


世田谷区
児童相談所の方から
来ました
辻と申します
再生
モニター
様子を見る
室内呼
メニュー


こちらのご子息の
優太くんの保護者の方に
お尋ねしたい事が何点か
ありましてお伺いしました
よろしければ
少々お話の方お聞かせ
頂けないでしょうか？
ドクッ


ついに来てしまった…
この時が…
ドクン


迫りくる断罪に…
無意識に足は震え…
喉の奥が一気に乾く…
ガクガク
ギュッ


落ち着くのよ
加奈子…
まだ事実確認の
段階だもの…
ここできちんと…
うまく事情を
説明さえできれば…
まだ希望は…
ドクン
ドクン
ドクン


どうもー
児童相談所の
方角からきましたー
ニコ
改めまして私
週刊文冬の辻と申します
詐欺の古典的な
手口ですからこれからは
気をつけてくださいねー


なっ…なんですか
いきなり写真なんてっ！
ゴッ
すぐに
消してください！
あーそうそう
写真ね
そうなんです


今日は
この写真について…
ニヤァ
お伺いしたくて
来たんですよォ


！

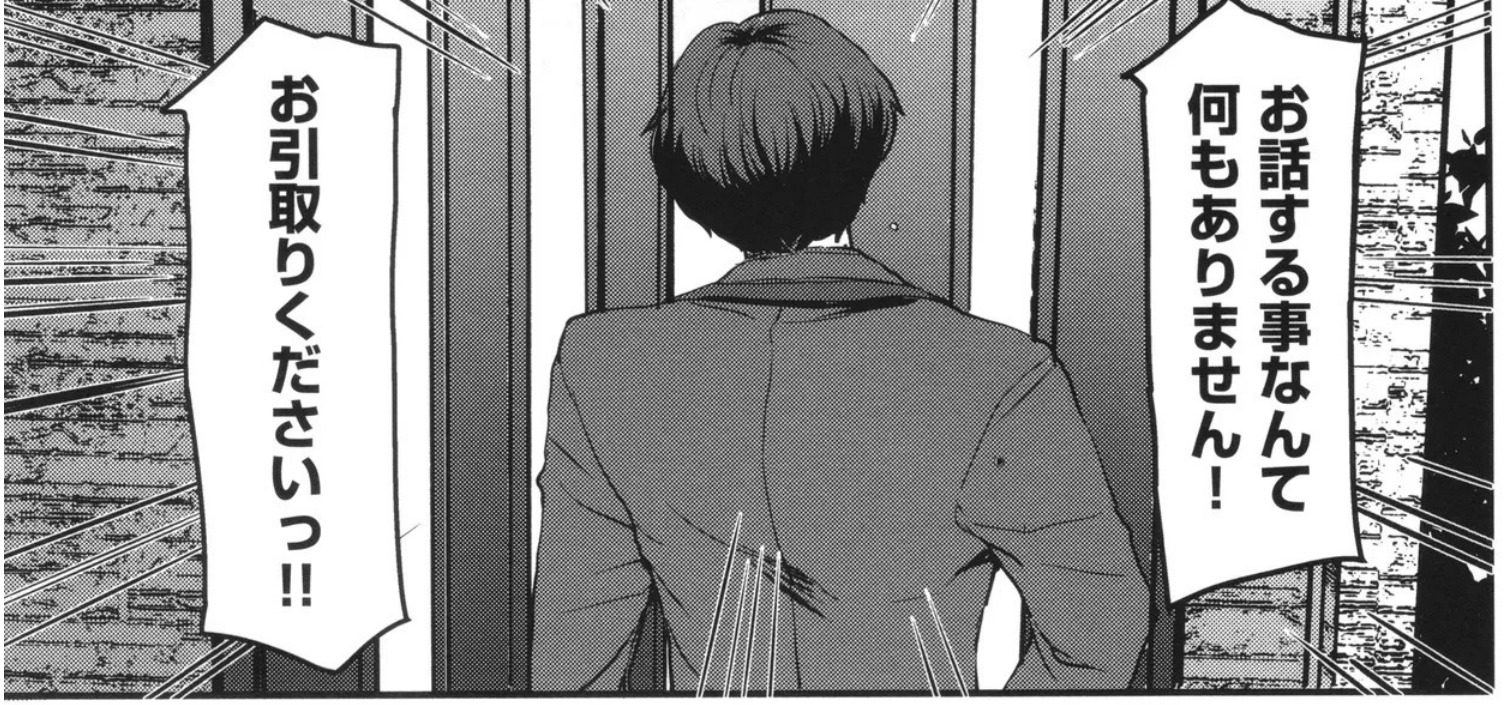

おーっとぉ


待ってくださいよぉ
ちょっとお話お伺いするだけですから
僕らだってちゃんと事実を記事にしたいんですよ
憶測を適当に記事にしたってお互いにメリットないじゃないですか
わかるでしょ？ねっ？


明確に
伝わってくる悪意…
この男は間違いなく
私たちの敵…！


だけど
今度の相手は
子供じゃない…
おっ
開いた
お話頂けますか
そうですか！
モノわかりが良くて
助かりま…
とても私が
言い包められるような
相手じゃない…
とにかく今は…


逃げなきゃ…！
ぎゃっ！
痛ッてぇ!!


お話する事なんて
何もありません！
お引取りくださいっ!!


構いませんよ！
随分と
動揺なさってる
ようですけど…
これも
そのまま記事に
なるだけですから！


色々とお話して
下さった方が
お互いのためだと
思うんですがねえ…！
私と坊ちゃまにとって
最良の選択は…!?
落ち着いて
考えなきゃ…！
一体
何が正解なの…!?
もうダメ…！
こんなの
わかるはずない…！
わからない
わからないわからない
わからないっ!!
はーっ
はーっ
はーっ


帰ってくださいっ!!
警察を呼びますよっ!!


はいはい
これはどーも
失礼致しました
まぁその警察の
お世話になるのは
誰かって話ですがね


チッ…


それでは
お邪魔しましたー


はぁっ…
はぁっ…
はぁっ…
はぁぁっ…



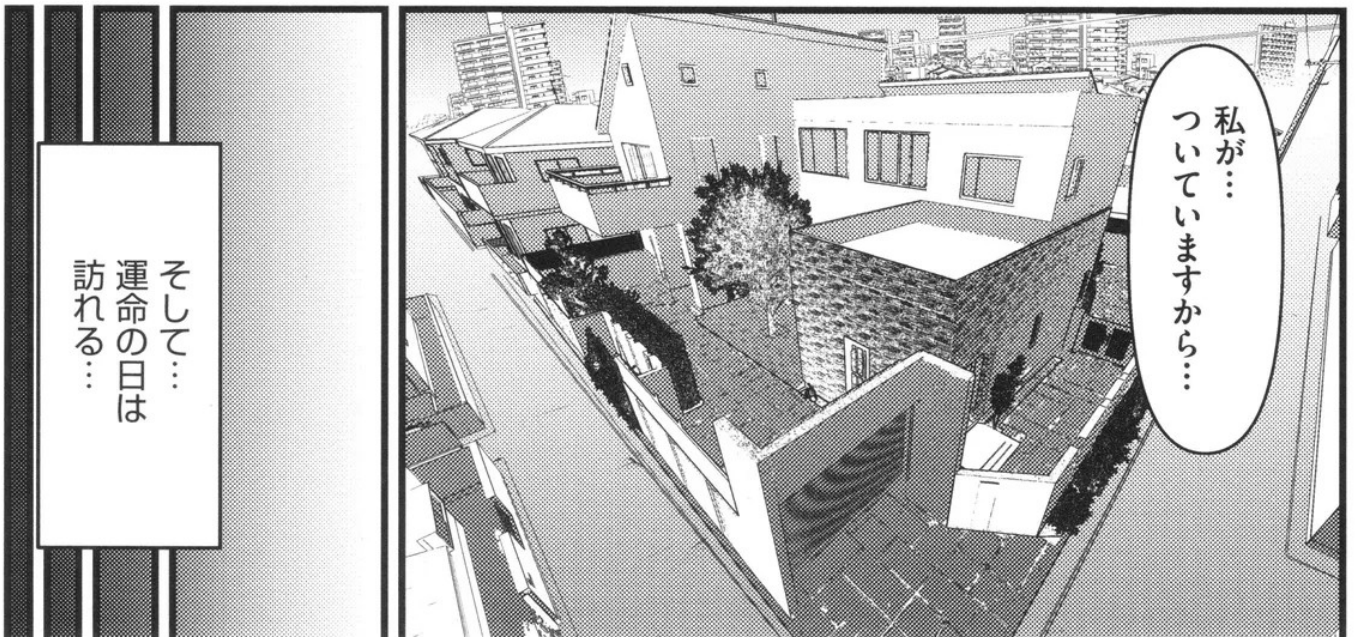

ミサトさん…？
…！
大丈夫…？
いまの…誰…？


大丈夫ですよ
坊ちゃま
あまりにタチの悪い
訪問販売だったので
少し声を荒げてしまい
ましたが…
ご心配には及びませ…




ギュッ
ギュウッ


大丈夫ですから
坊ちゃま…


私が…
ついていますから…
そして…
運命の日は
訪れる…

ついに私たちの記事が世に放たれてしまったのだ…

外務省大使邸の情事

進学校へ通う大使子息に美熟女メイドが性の英才教育

子息のクラスメイトへ流出した破廉恥写真を独占独自入手！

政府高官の家庭の異常な性慣習

メイドに息子の筆おろしをさせる倒錯嗜好の外務省官僚

息子ほどに歳の離れた男の子に手を出した性的異常者のメイド

自らの立場を利用してメイドを性欲処理に使っていた御曹司

新着　ランキング

文冬オンライン

外務省官僚の中学生の一人息子と36歳美熟女メイドの歪んだ関係に迫る

クラスメイト「メイドとのセックスをいつも自慢していた

週間文冬

特別価格490円

どれも流出した写真を元に書かれた安直な憶測だったが

それは鬱屈した民衆の好奇と憎悪が向けられるのに充分なストーリーと登場人物だった

こうして怯え隠れて震えていた私たちは引きずり出され…

コメント76件

早く逮捕しろよ外務省の圧力か？

ばるーん
@baroon69

きしあれ
@BlackSheepJZX100



外の情報が
入らないように
していても
やはり限界があり

連日詰めかける
マスコミに坊ちゃまも
状況を察したようで

ついには
流動食すら口にしなく
なってしまう

あれだけ
求めてきた
セックスすら

拒絶するようになった

記事が出て私はすぐに逮捕されるものだと覚悟していたけれど

官僚相手ゆえにしっかりと裏付け捜査でもしているのかなかなか警察は訪れない

旦那様からの連絡もなく

私たちはただ薄暗い部屋で状況が変わるのを待つしかなかった



外には常に私たちの姿を捉えようとするカメラの視線



自分はそんなにも重い罪を犯したのだろうか

そんなにも誰かを傷つけたのだろうか



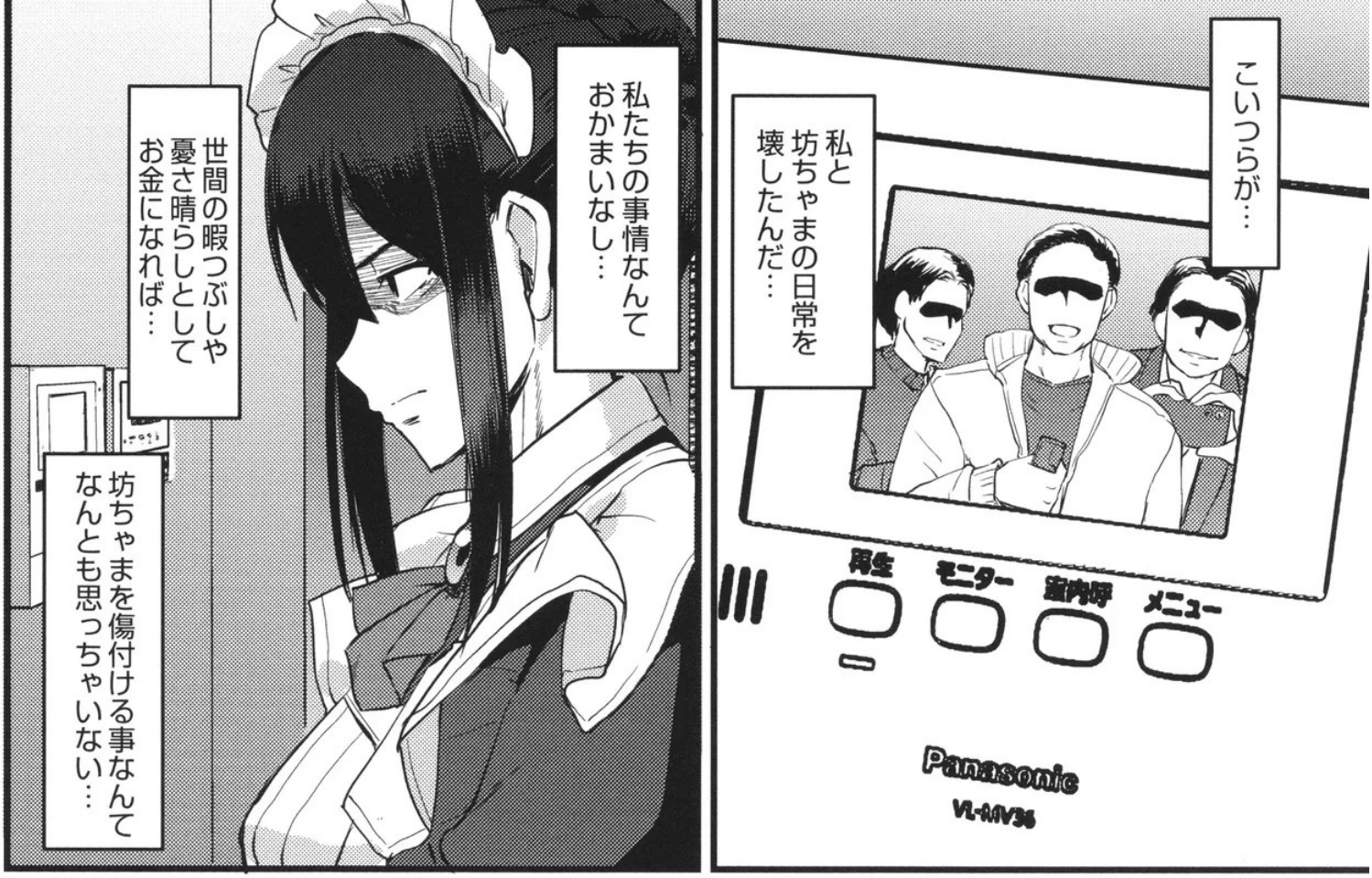
迷いと不安で私の限界も近かったけれど

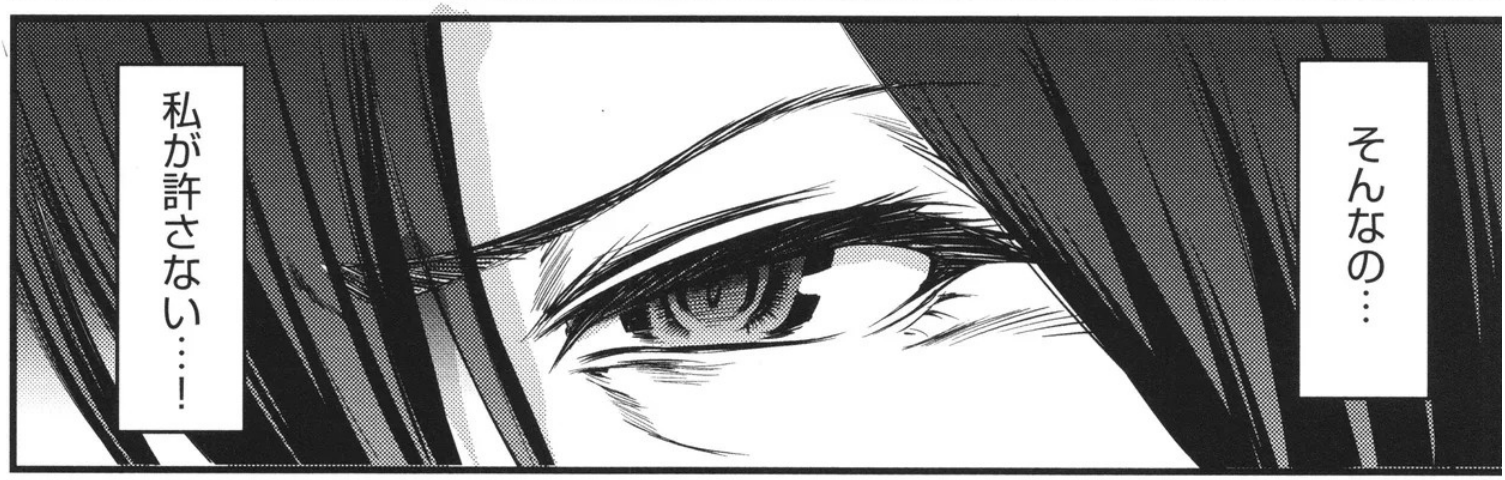


私なんかよりも坊ちゃまの…

十五歳の少年の精神（こころ）はもうとっくに限界だわ…


それでもいざ
自首となるとどうしても
二の足を踏んでしまう…
自分の人生を自ら
終わらせに行くのは
相当に勇気が要る…
まして愛情を
お互いに認めあって
しまったから余計に
釈然としない…
だけど
このままじゃ
坊ちゃまは…
ピンポーン
ピンポーン
こんなのもう
いやだあああっ!!
ピンポーン
わあああああっ!!
もうっ…もうやだっ!!
ごめんなさい
ごめんなさい
ごめんなさいいっ!!
大丈夫ですから
坊ちゃまっ!
すぐに止めて
きますからっ!


こいつらが…
私と
坊ちゃまの日常を
壊したんだ…
再生
モニター
室内呼
メニュー
Panasonic
VL-MV36
私たちの事情なんて
おかまいなし…
世間の暇つぶしや
憂さ晴らしとして
お金になれば…
坊ちゃまを傷付ける事なんて
なんとも思っちゃいない…


そんなの…
私が許さない…！


あなたたちの
思い通りになんて
絶対させない…
せめてこのお話の
最後の結末は…
私が決めさせて
もらうわ…


スッ
愛してますよ…
ギュッ
坊ちゃま…


パチッ


さぁ…
これが私の…
最後のおしごとね…
カチャッ



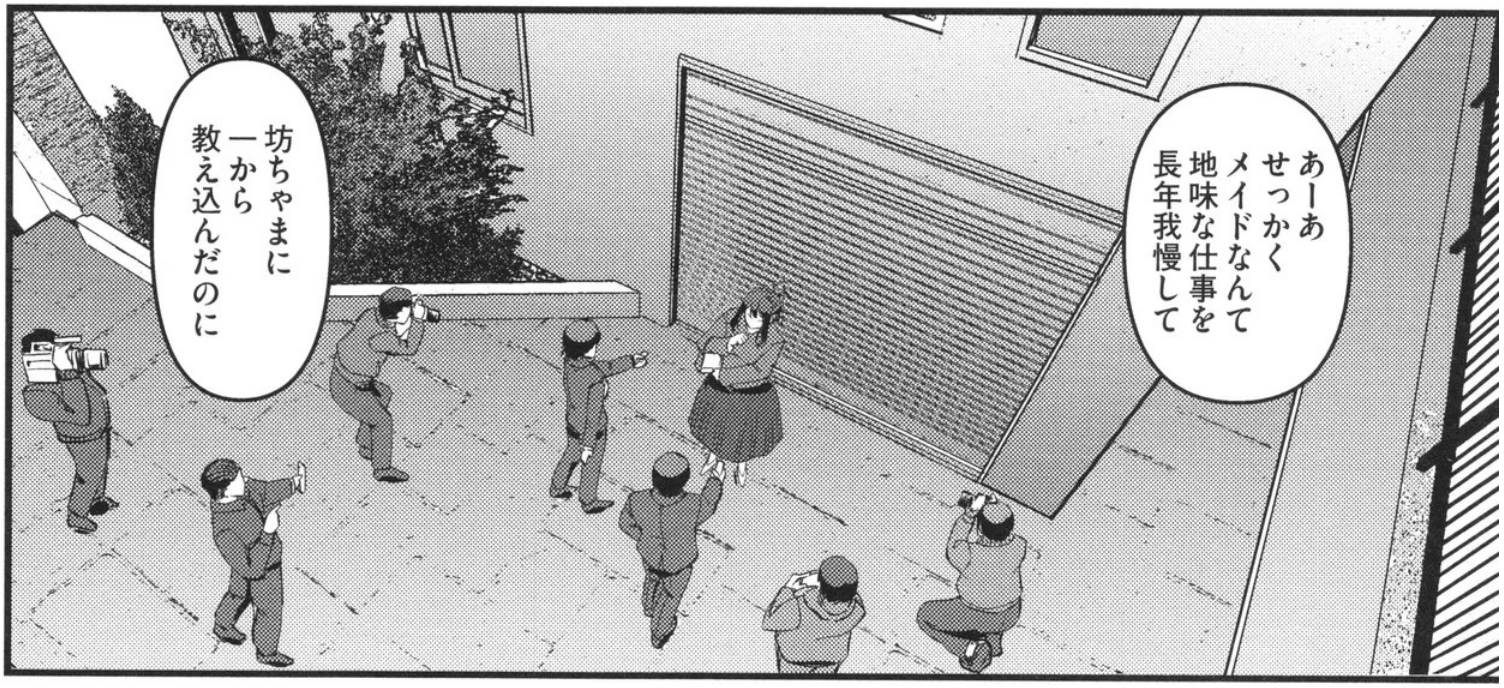

お…
おい出てきたぞ！
カメラ回せっ！
カメラ！


美里加奈子さんですよねっ!?
週刊文冬の記事はご覧になりましたか!?


こちらの家では性教育としてメイドと性行為をする慣習があるという話は本当でしょうか!?
業務として未成年者である大使のご子息と性行為に及んでいるというのは事実ですか!?

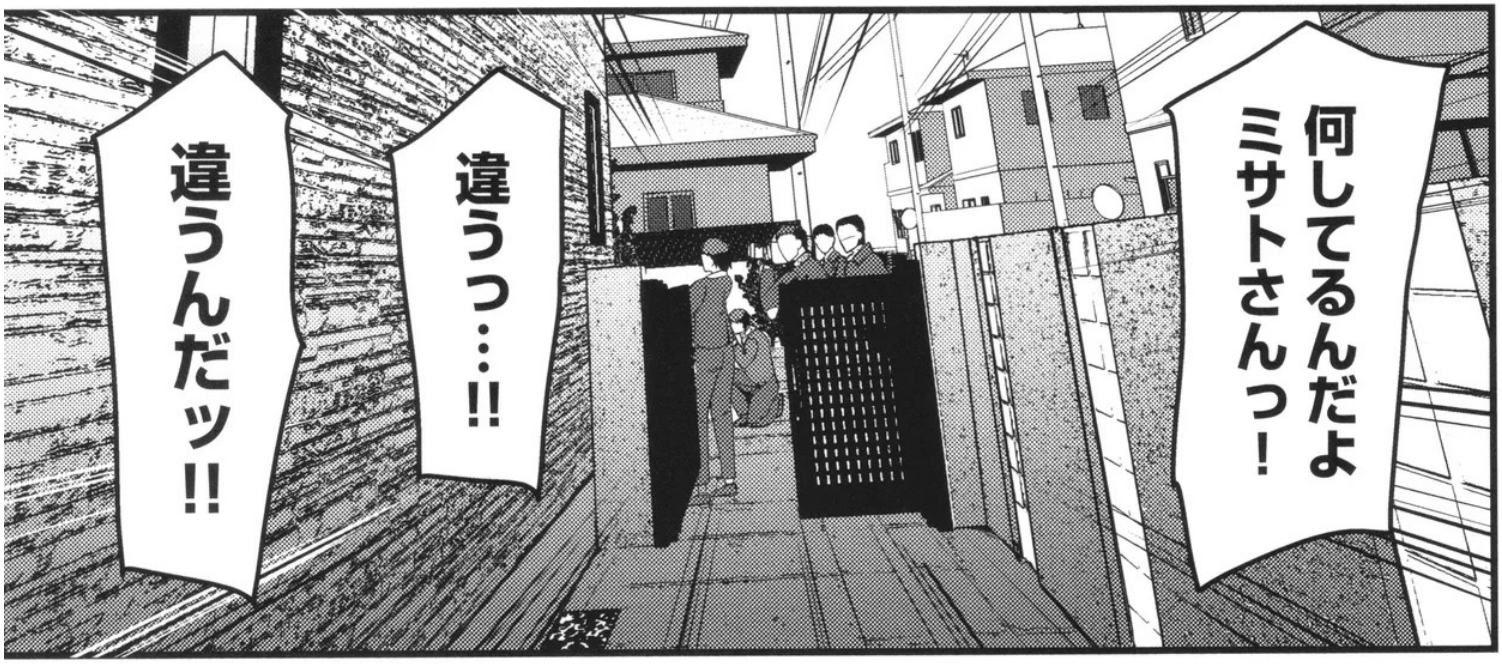

メイドから性教育の慣習？バカじゃないのあんたたち
そんなのメイドの仕事じゃないわよ
あー…もう…
チッ
うるさいわねぇ…


私はねぇ
若くて
可愛い男の子が
だぁい好きなの


あーあ
せっかく
メイドなんて
地味な仕事を
長年我慢して
坊ちゃまに
一から
教え込んだのに


アンタたちが
騒いだおかげで
全部台無しだわ
やってらんないわよ


ミサトさんっ…!!
ナチャ


何してるんだよミサトさんっ!
違うっ…!!
違うんだッ!!


僕がっ…!!
全部僕が悪いんだっ!!


ほぅら
見て
よく躾(しつ)けが
できてるでしょう?
ポンッ


この子はもう
私なしじゃ
いられないの
私の言う事なら
なぁんだって
聞くのよ
!!


なんでそんなっ…
やめてっ…!
もうやめてよ
ミサトさんっ!!


その時
ミサトさんは…
いつもの優しい
眼差しで僕を見た…
その瞳には…
強い意志があった…
いっそ本当に
ミサトさんが
おかしくなって
しまったなら…
僕にとって
まだ救いが
あったのに…


やっぱり…
全部アンタの
せいだったんだな…！
!?


佳祐っ!?
優太も…
俺も…


めちゃくちゃだっ…!
アンタのせいでっ!

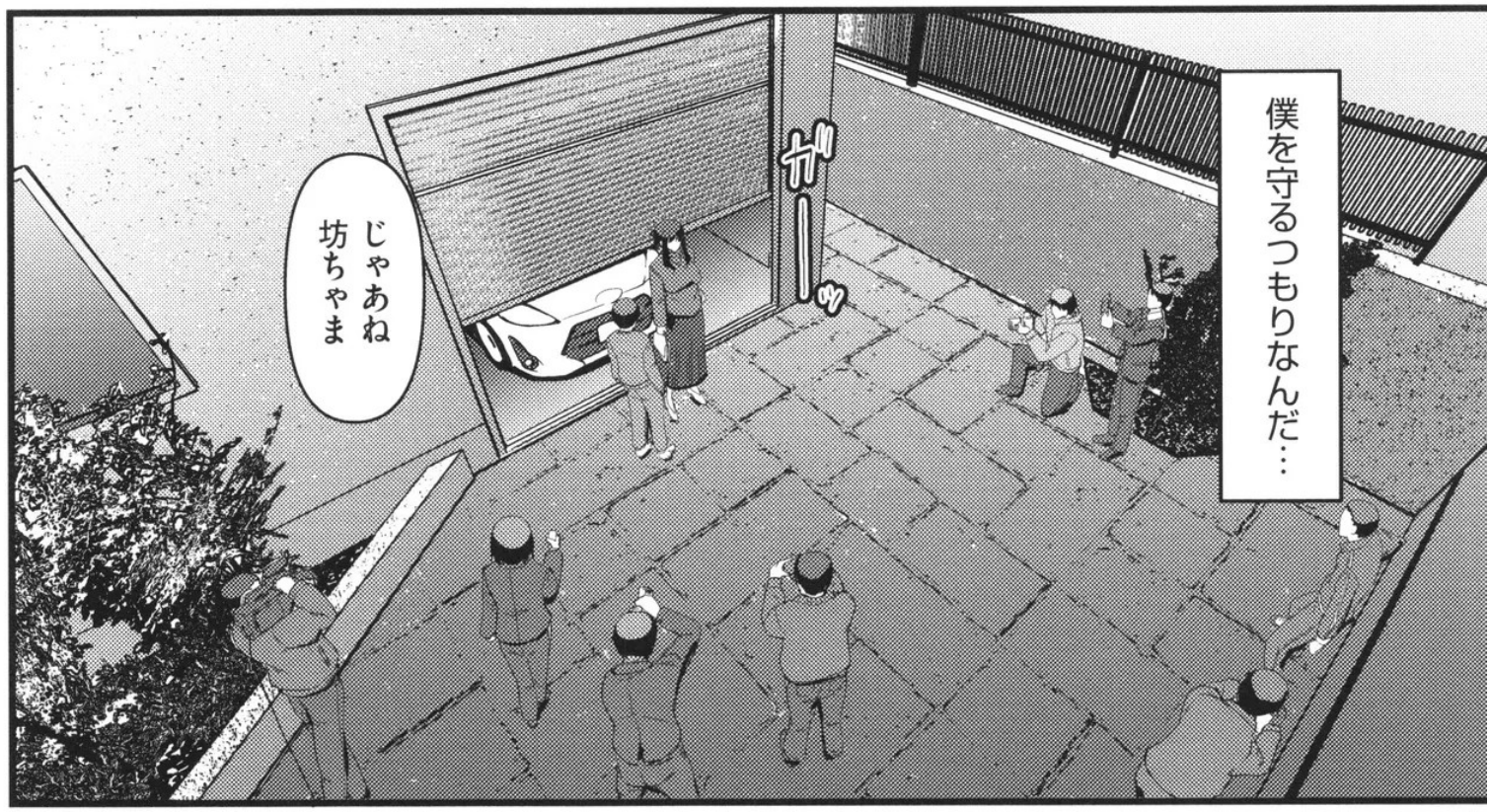

佳祐くん…
佳祐っ!
違うんだっ!
全部
僕のせいなんだっ!
ミサトさんはっ…
ミサトさんはっ!
あなたも救いが
欲しかったのよね…


あら佳祐くん
どうしちゃったの？
そんなに声を荒げて
私に任せて…
大丈夫…

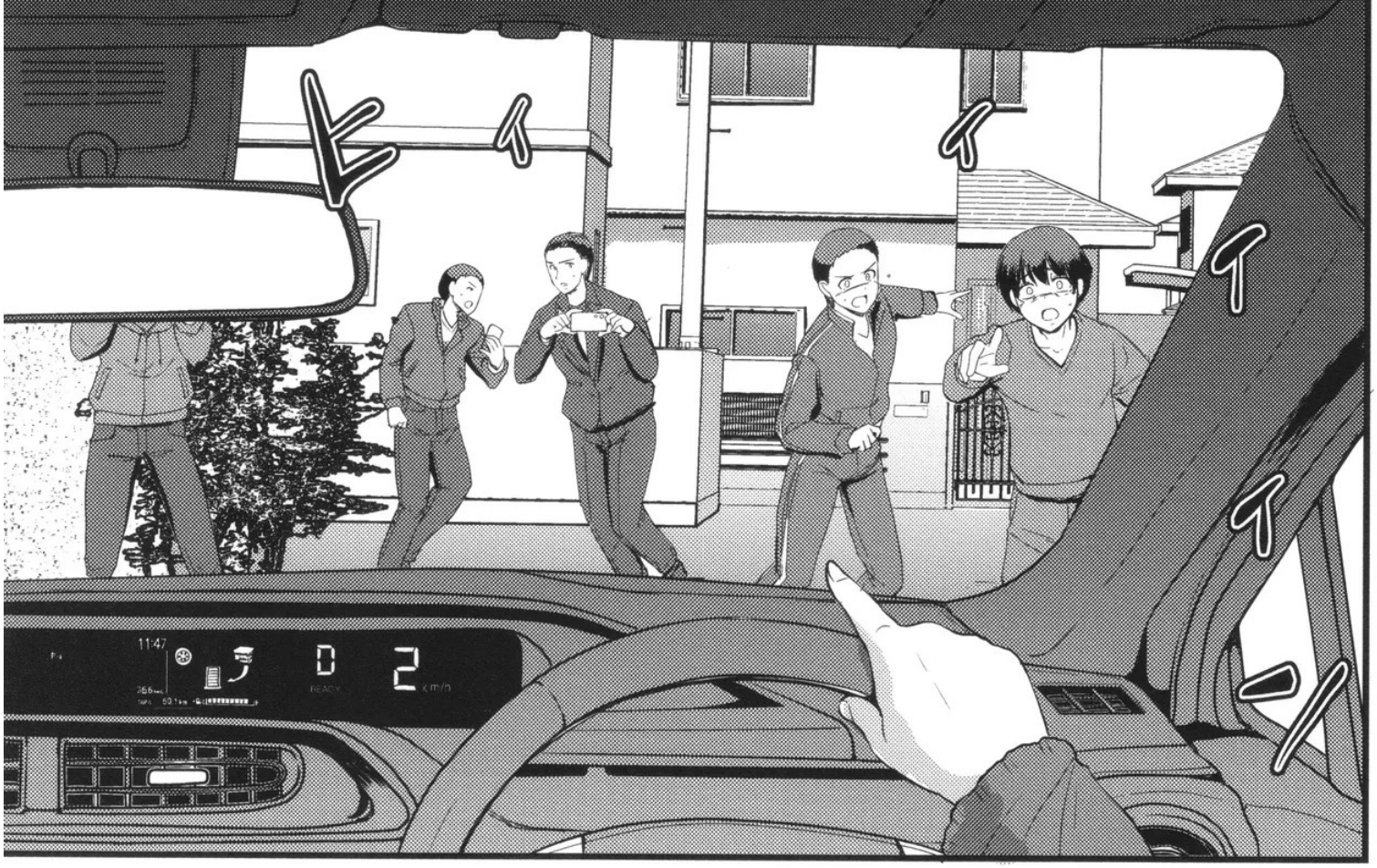

この前はあんなに
私に抱きついて
甘えてくれたのに
そういえば
残念だったわぁ
だからこれからも
坊ちゃまをお願いね…


君ももう少しで
私のモノ
だったのにねぇ♡
坊ちゃまには
あなたが必要だわ…


この人は…
ミサトさんは…
たとえ世界中…
すべてを
敵に回してでも…

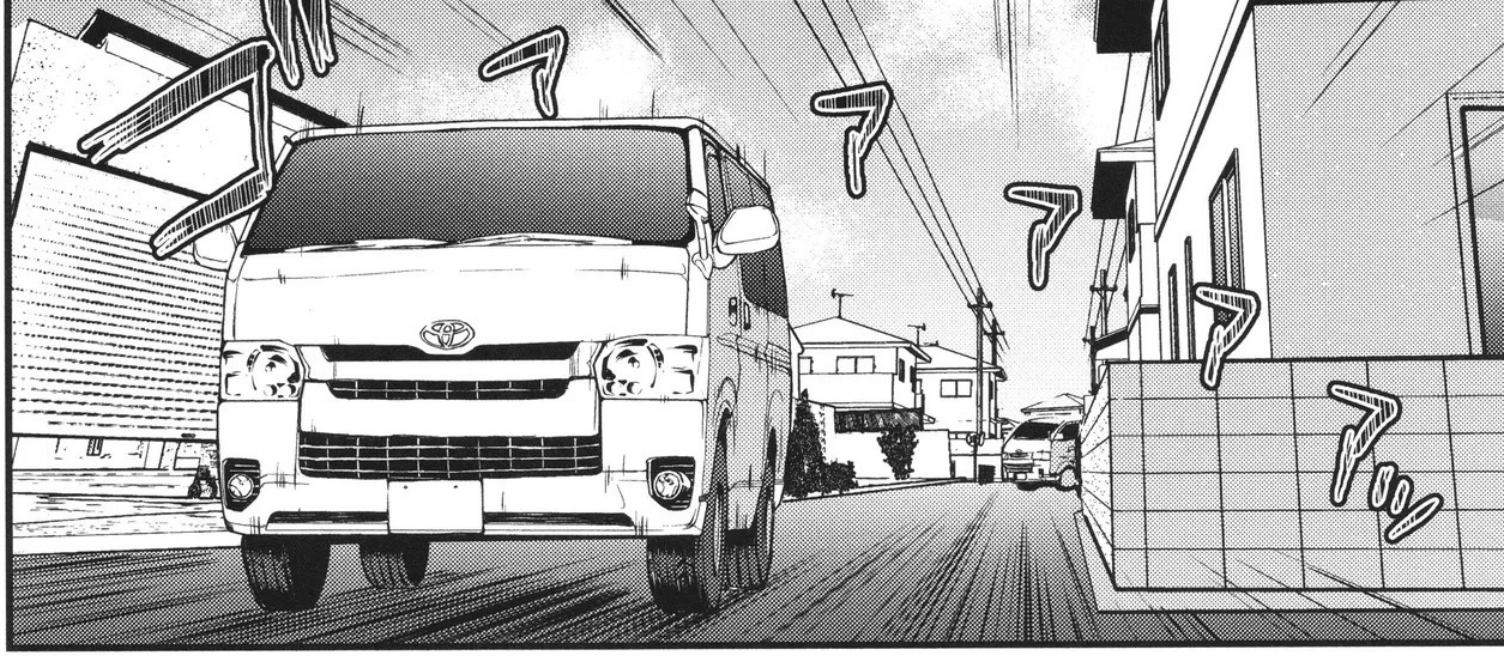

僕を守るつもりなんだ…
ガーッ
じゃあね
坊ちゃま


今まで
楽しかったわ
お元気で♪
ガチャッ


イイイイ
11:47
D
2
km/h
READY


追うぞ急げっ！
車回せ早くっ！
バタバタ
ゴオオッ


キャキャキャ




ミサト…さん…
優太っ
おいっ…！
大丈夫かっ…!?


結局僕は…
あ……
最後まで…
ああ…


ただ泣きわめく
ことしかできない
子供だったんだ…


メイドから
性教育の慣習？
そんなモノ
あるわけ無いじゃない
あー
すげぇ話だよなぁ
コレも

自分の母ちゃんくらいの歳の女に童貞喰われたらそりゃキッツいよなぁ

私はねぇ

若くて可愛い男の子がだぁい好きなの

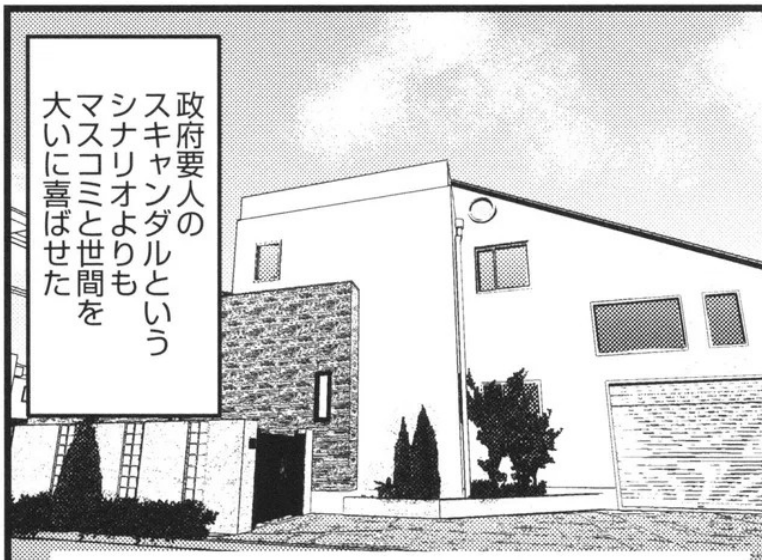
ミサトさんが演じた「狂った少年性愛者（ショタコン女）」は

逮捕 児童福祉法違反の疑い

東京都・世田谷区

家政婦　美里加奈子容疑者（36）

政府要人のスキャンダルというシナリオよりもマスコミと世間を大いに喜ばせた



柳沢裕一　外務省特命全権大使

「長い間信頼していたのでとても信じられない まずは息子の心のケアを優先したい」

なかなか気づいてやれなかったけど…

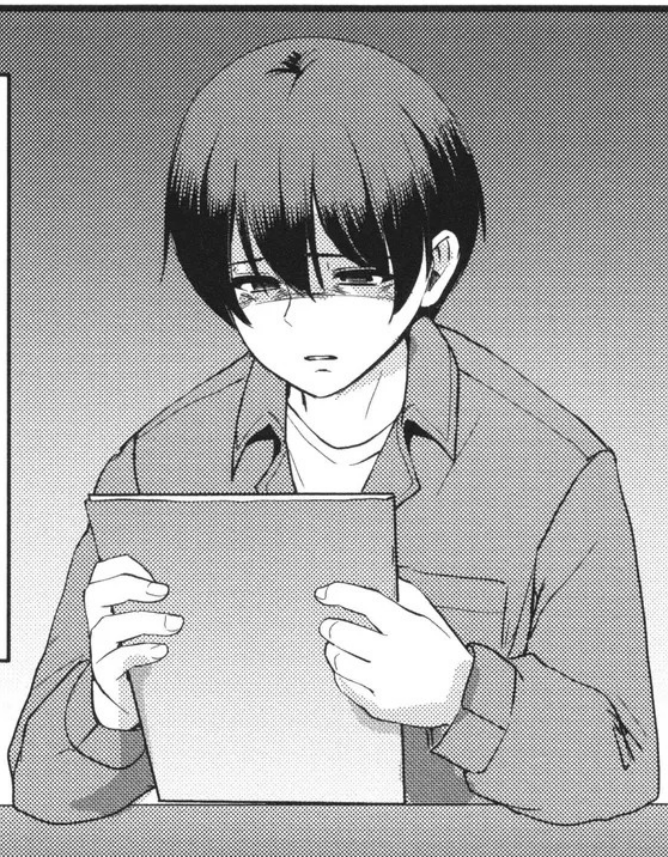
あいつはずっと助けてほしかったんだと思います

そのおかげで

僕の立ち位置は

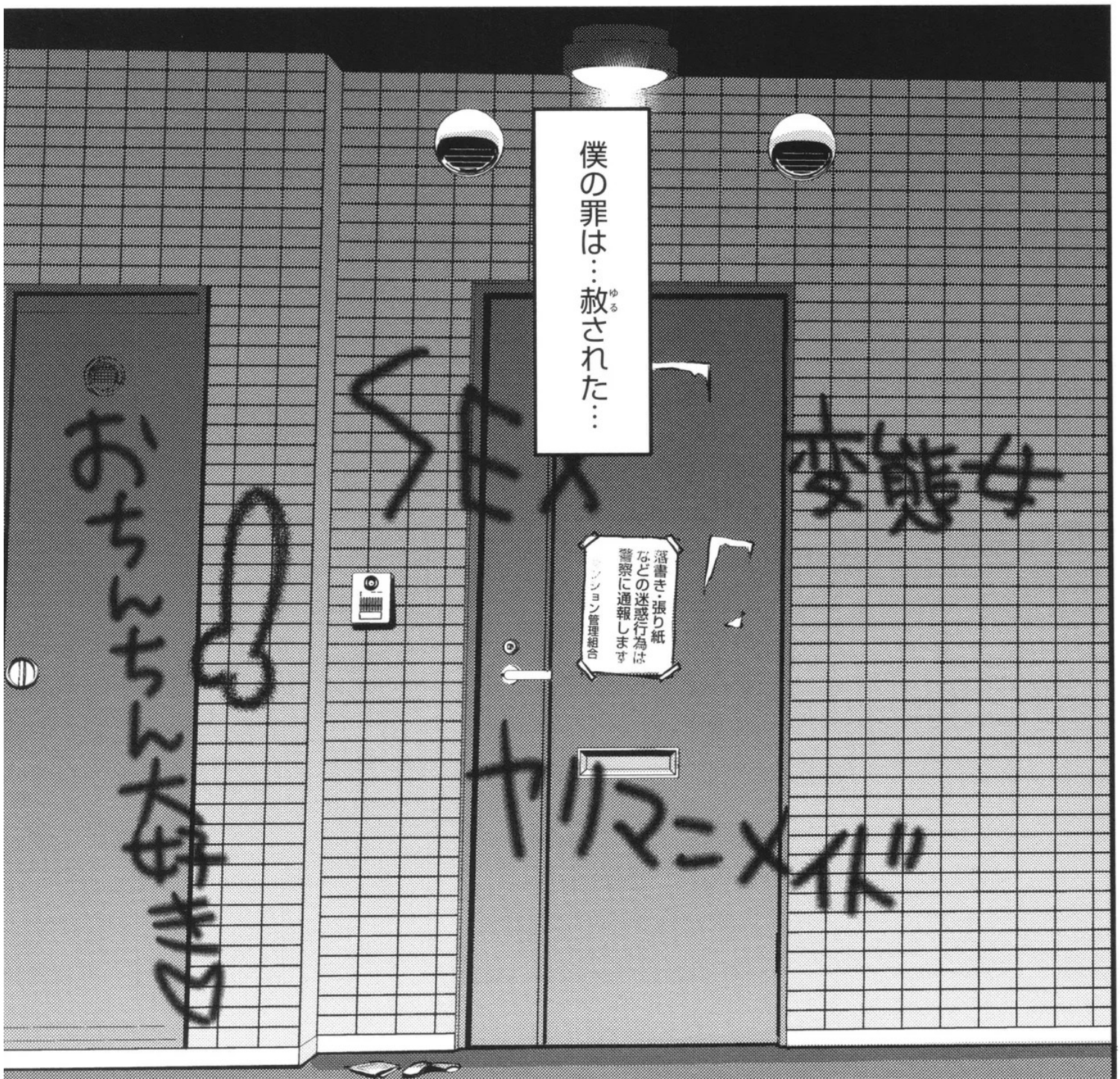


「日夜メイドとセックスする放蕩息子」から



「哀れな性的虐待の被害者」となった





僕の聖母は…

はなしてくれて
ありがとう
～性暴力被害からの回復に向けて～
もう、あなたはひとりじゃないよ。

すべての罪を背負い
十字架にかけられ…

クシャッ

僕の罪は…赦(ゆる)された…

落書き・張り紙
などの迷惑行為は
警察に通報します
マンション管理組合

おちんちん大好き

ヤリマニメイド

変態女

あれから坊ちゃまは
これまでの
すべての事の顛末を

叱責を覚悟で正直に
旦那様に打ち明けて
くれたようで

結果として自らの立場が
救われた事を知った
旦那様から被害届が提出
される事はなく

私は不起訴処分で
釈放された

ひとりの女と
ひとりの少年

ひとつの家族の生活を
ズタズタに引き裂いて
おきながら

世間の興味はほんの数日で
新しく吊るし上げられた
他の誰かへと移り変わる

あれだけ
毎日激しく鳴っていた電話も
インターホンもすっかり止み

何事もなかったかのような静寂が
退去を明日に控えて
空っぽになった私の部屋を包む

とはいえ
何事もなかったかのように
私たちの日常が戻ってくる
はずもなく

坊ちゃまは
旦那様の赴任先の国で
旦那様とともに
暮らす事になり

私は
長年住んだこの土地を
追われる事になった


一体私はこれから
どうすればいいのか
とても両親に合わせる
顔なんてないし
実家には帰れない
ギュッ
あれだけ派手に
顔も名前も報道されて
新しい土地で仕事が
見つかるのかすら
わからない
こんな私に
声を掛けてくれるのは
私を遊び道具にしていた
過去の男たちだけ…
22:40
達也
久しぶり！
ニュースで加奈子が出ててめっちゃ
ビビったよw
土曜日の夜嫁と子供が居ないから
飲みにでも行こうぜ
この寂しさを
埋めてくれるなら…と
つい返信しそうになり
必死に思いとどまる…
愛情の欠片もなく抱かれて
虚しさが増すだけなのは
もうわかっているから…
私…
もう本当に
一人ぼっちだ…
どこで
間違えちゃったのかな…


私はただ…
カラララッ
ずっとずっと…
普通の幸せが
欲しかっただけなのに…
綺麗な月…
悪くないかもね…
ヒュオオオオオ
こんな夜なら…
できる事なら
最後に…
もう一度だけでも
会いたかったな…
オオオオオオ


もう一度…
私に笑いかけてほしかったな…


暖かな春の公園を…
恋人のように…親子のように…
手をつないで…
お弁当を持って…
一緒に歩いてみたかったな…


次に生まれてきたら…
どうか女として…母親として…
そんな普通の幸せを…


ピンポーン
ビクッ
!!


なんて…
最悪の
タイミング…
ガタ
ガタ
ガタ
ガタ
はぁ
はぁ

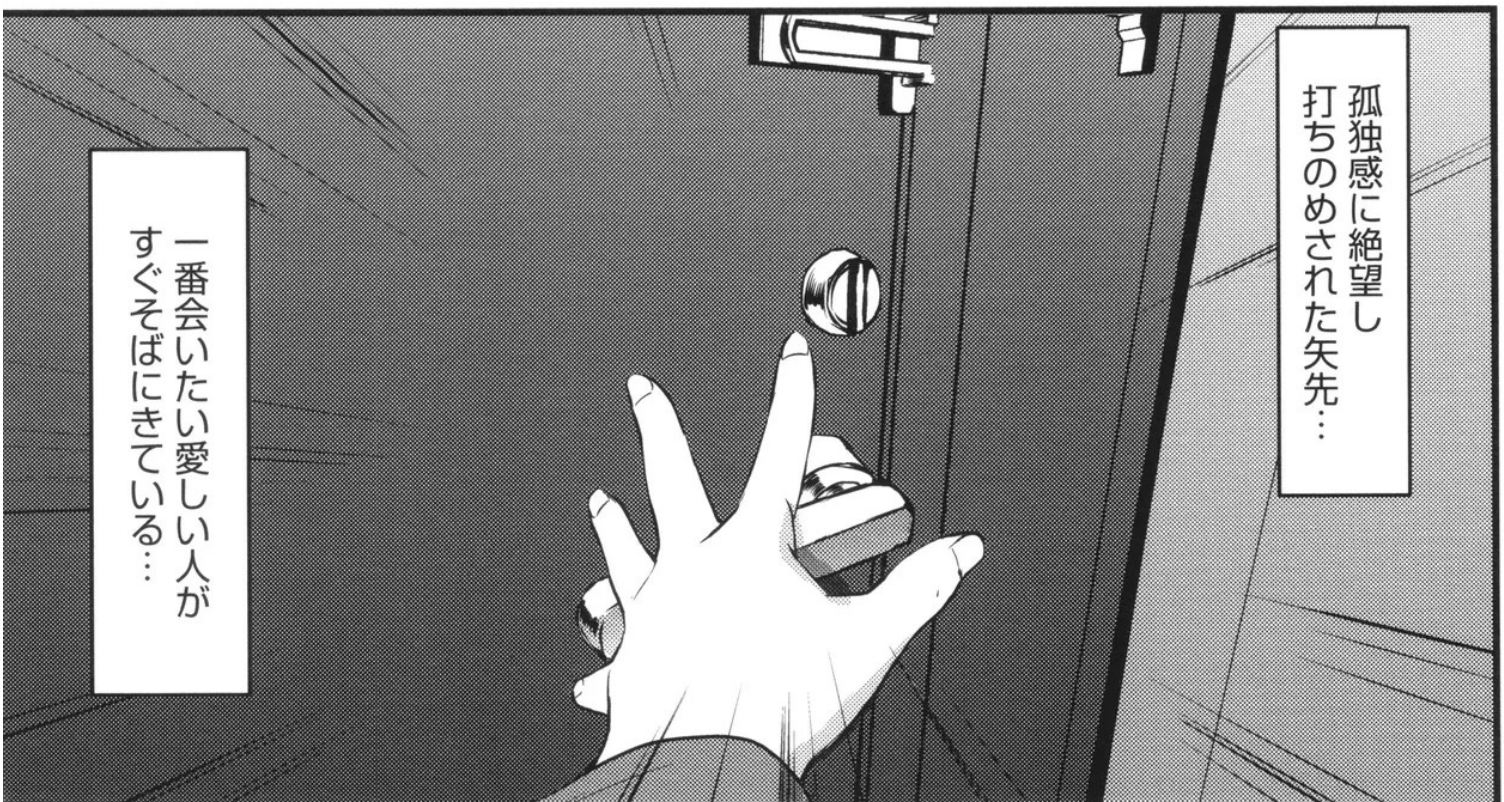

間が悪くて…
ツイてなくて…
私って最後まで
こうなのね…


誰かしら…
こんな時間に…
ピッ


ミサトさん
僕だよ


その声を聞いた瞬間
私はもう
駆け出していた


二度と会わないと
決めたのに…
二度と会えないと
思っていたのに…

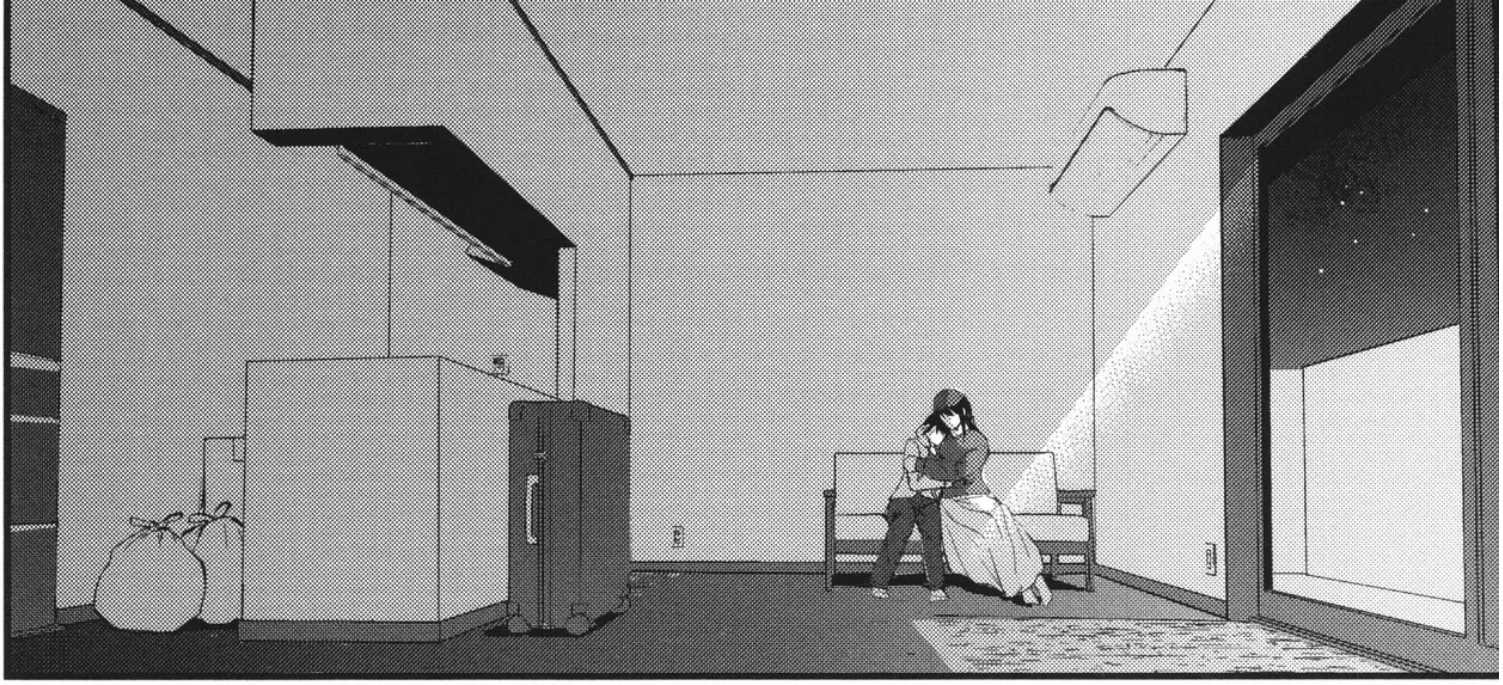

孤独感に絶望し
打ちのめされた矢先…
一番会いたい愛しい人が
すぐそばにきている…


そんなの…
こらえきれるハズなんてないじゃない…！


あぁ…
やっぱり私は
ダメな女だ…
母親になるとか
守るとか偉そうに
言っておいて…
結局
こんな男の子に甘えて
泣いてしまうなんて…


臆病で泣き虫で
ただ愛されたくて…
何度も何度も
みじめな恋をして…
傷付き
凍てついていた
私の心を…
少しずつ温めて
癒やしてくれた
私だけの王子様に…
また私は
救われてしまった…


ごめんね…
お姫様にしては
歳を取りすぎてるけど…
どうか今夜だけは
あなたの
シンデレラでいさせて…




このままミサトさんと
二人で…
どこか遠くで
一緒に暮らすこと…
何度も考えた…


でもね…
ミサトさん…
僕…
もう逃げないよ


今の僕じゃ
ミサトさんを
幸せにするどころか…
自分の食費を
稼ぐことすら
できない…
そうして結局
またミサトさんを
困らせるだけだって
わかってる…
そんなのはもう
絶対に嫌だ


だから今日は…
キチンと
お別れを
言いにきたんだ


初めての失恋…
やっと…
本当の家族みたいに
なれたのに…
ミサトさんと…
もっと一緒に
いたかったのに…
愛する人との
生涯の別れ…


そんな
大人でも辛い経験を…
たくさんいろんな
ところに行って…
たくさんいろんな
ことをして遊んで…
ずっと一緒にいて
ほしかったよ…
たくさんいろんな
お話したかったのに…
セックスなんてもう
できなくたっていいから…
坊ちゃまは今
必死で乗り越えようと
している…


でもミサトさんは…
すべてを懸けて僕のことを守ってくれたんだ…
子供で無力な僕がきちんと大人になれるように…
私の可愛い男の子は…

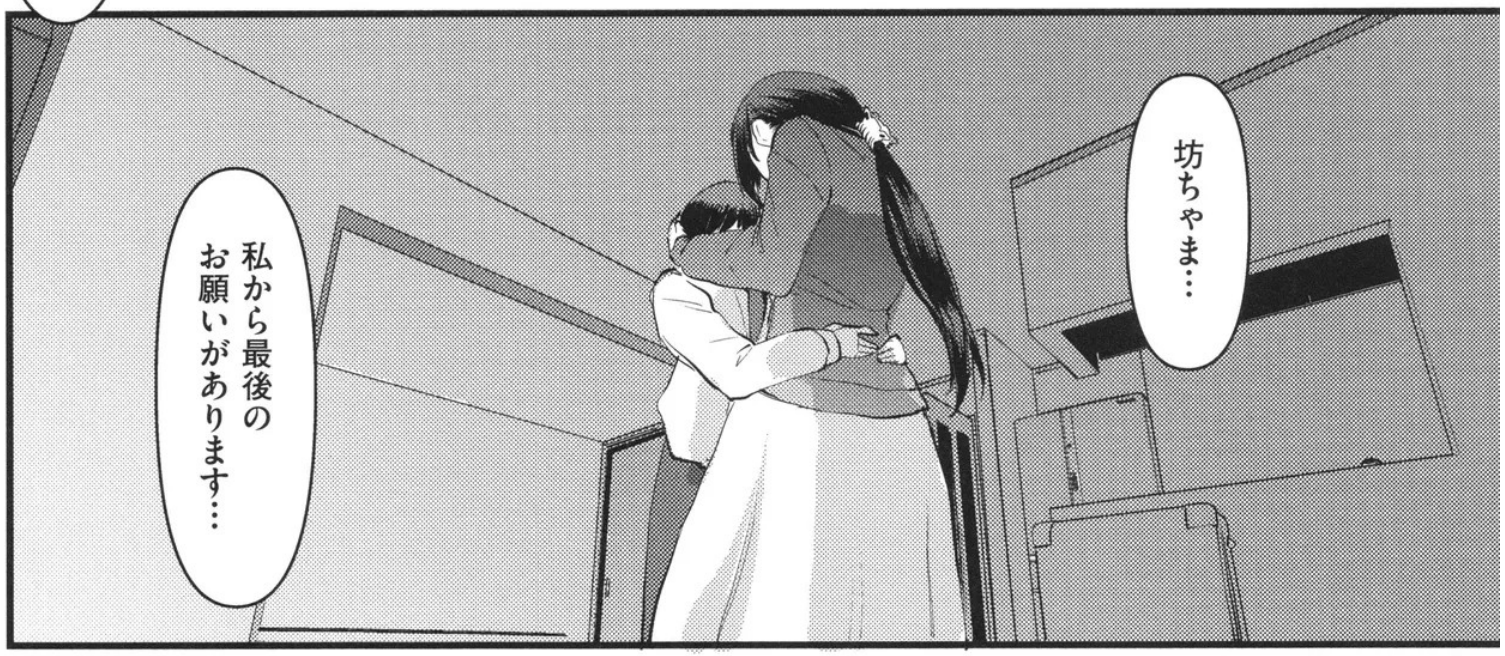

だから僕はもう自分の弱さから逃げたりしない…
もう誰かのせいにもしない…
今度こそ僕は本当の大人になるんだ…
いつのまにかこんなにも大人になっていて…
私は気付かされた…
絶対に無駄になんてしないからね…！
ミサトさんが僕のメイドとして…
お母さんとしてしてくれたこと…
！


私はもう…
坊ちゃま…！
母親ではなく
女として…
この男性(ひと)を
愛しているんだと


私も
もっとずっと…
坊ちゃまの成長を
おそばで見守って
いたかった…

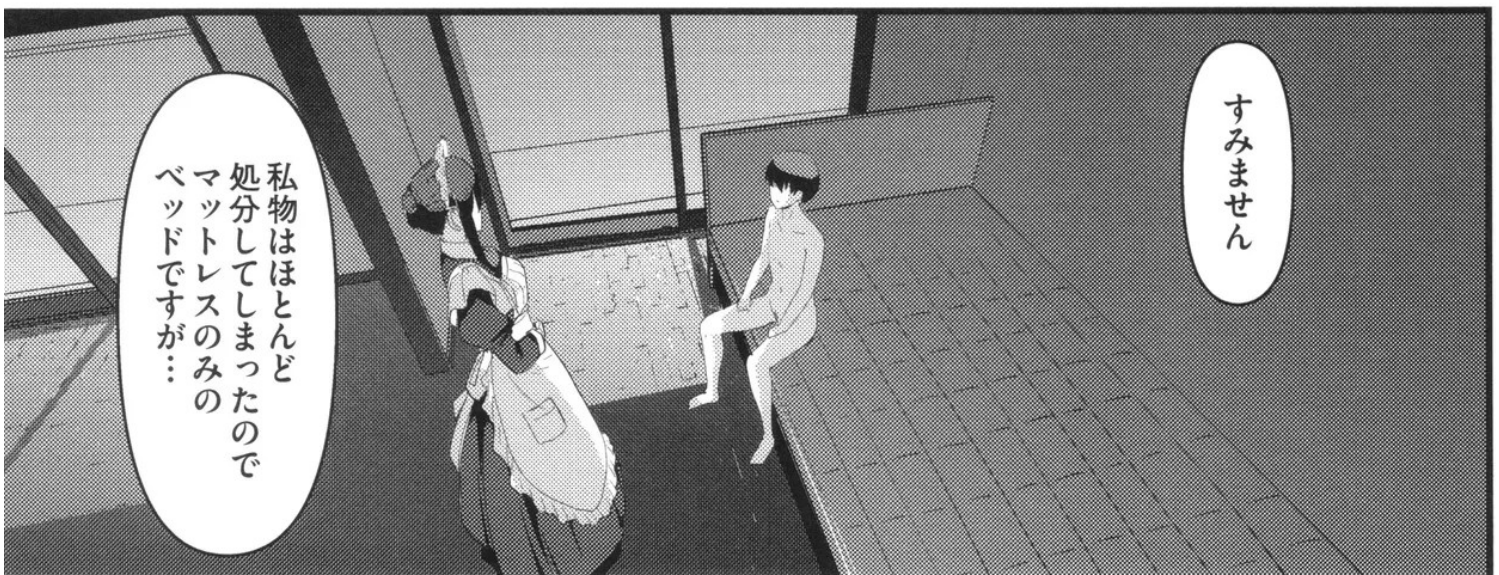

きっとすぐに
もっと素敵な男性に育って
可愛い恋人を連れてきて…
私を嫉妬させて
くれたんでしょうね…
そんな…
ミサトさんより
好きな女の子なんて…
一生できないよ…


いつか僕がちゃんとした…立派な大人になったら…
絶対にミサトさんのこと迎えに行くから…待っててっ…！
約束だからねっ…！
ふふっ…
今日はそのお言葉に素直に喜んでおきますね


坊ちゃま…
私から最後のお願いがあります…


最後にもう一度だけ…
私を抱いてください…


ただひとり…
あなただけですから…
私の生涯で
本当に私を
愛してくれたのは…


すみません
私物はほとんど
処分してしまったので
マットレスのみの
ベッドですが…


最後にまさか
この格好で
お望み頂けるなんて
嬉しいです
私もこの服だけは
どうしても
捨てられなかったので…
やはり
坊ちゃまの前に
立つ時は
この格好が
しっくりときます
うん
やっぱりメイド服の
ミサトさんは素敵だよ
大人っぽくて
キレイで可愛い…
僕の
ミサトさんだ


もう
坊ちゃまったら
いつのまには
そんなセリフが
言えるように
なったんですか？
年増の独身女は
本気にして
しまいますよ
スルルッ
くちゅっ♡
まったく
悪い坊ちゃまです…
いえ…
今日はもう
坊ちゃまではなく…
ご主人さま…♡
ちゅくっ♡
ちゅくっ♡
優太さま…
ですね♡
ご奉仕させて
頂きます♡
ちゅっ♡
ミサトさん…
可愛い…
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡


ぱっ♡
ちろちろちろちろ♡
ぱっ♡
子供の頃から
少し冷たくて
ちょっと苦手だった
ミサトさん…
れろおおっ♡
でも本当は僕に
ただひとり本気で
向き合ってくれて…
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡
本気で叱って
母親になってくれた…
世界一優しい僕の
メイドさん…


いつもの
微笑みとは違う
このどこか
甘えるような
人懐こい表情が…
きっと本当の
ミサトさんの
素顔なんだな…
きっと僕は最後に
少しだけ大人の男として
認めてもらえたんだ…


くりゅ♡
くりゅ♡
少しだけ
ミサトさんと対等に
なれたんだ…
ぐにぃぃっ♡
えりんっ♡
だから
今日のミサトさんは
キレイというより…
れろ♡
れろ♡
れろ♡
れろ♡
どこか可愛く
感じるんだと思う…


手近な女として
青い性欲を
ぶつけられ…
あんなに鬱陶しく
物足りないと思っていた
この未熟なペニスが…
くぽっ♡
くぽっ♡
ちゅぽっ♡
ちゅぽっ♡
ちゅぽっ♡
ん♡
ん♡
ん♡


母親として坊ちゃまの
真っ直ぐな感情を
受け止めるうちに…
だんだんと
可愛く思えてきて…
ぐぽっ♡
ぷぷっ♡
ん♡
ん♡


このペニスが私の
最愛の男性の生殖器なのだと
気づいてしまった今…
この硬く勃起して
私との性交の意志を
示すペニスが心から
愛おしくて愛おしくて
たまらない…
れりゅ♡
れりゅ♡
れりゅ♡
れりゅ♡
モゴッ♡
モゴッ♡
ふー♡
ふー♡


自分を愛してくれる
男性のペニスに
奉仕する悦び…
愛する男性が
唾液まみれの唇に
愉悦の声を上げるたび…
ひとりの
女としての
私の心が…
満たされてゆく…
ちゅぱっ♡
ちゅぱっ♡
ちゅぱっ♡
ちゅぱっ♡
ミサトさん…
僕もミサトさんの
アソコ舐めたいな…

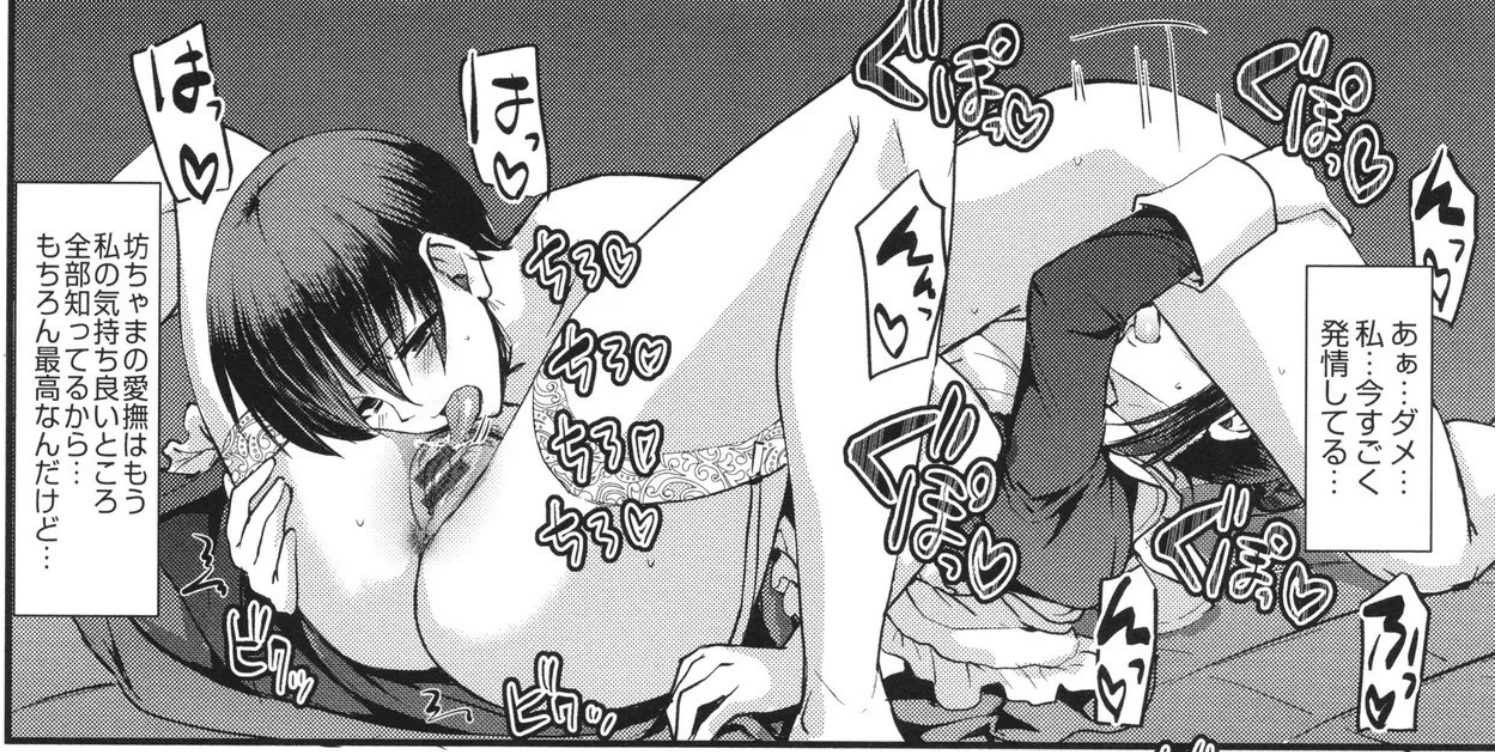

ありがとう
ございます
優太さま…♡
優太さまの
おち○ぽに
ご奉仕していたら…
先程からずっと
アソコがうずいて…♡


恥ずかしいくらいに
濡れてしまっていると
思います…♡
どうかこの
はしたないメイドの
おま○こを…
懲らしめてやって
くださいませ…♡


うわぁ 本当だ…
ミサトさんのアソコ
すごく濡れてる…
ヒクヒク動いて…
匂いもすごく濃くて…
これは恥ずかしい
メイドさんだ…
これは
しっかりと…
ヒク
ヒク


懲らしめて
あげなきゃ
いけないね
きゃあっ


今夜はミサトさんの
性教育の成果を
たっぷり見せてあげる…
ほら
休まないで
ちゃんとご奉仕して
ミサトさん
んっ
んううっ…♡
ヒクンヒクン
ヒクンヒクン


あぁ…ダメ…
私…今すごく
発情してる…
坊ちゃまの愛撫はもう
私の気持ち良いところ
全部知ってるから…
もちろん最高なんだけど…


こうやって男の人に
支配されるような
セックスも…
男の人に甘えるような
セックスも久しぶりで…


なによりもお互いに
愛し合っているという
安心感に包まれた
セックスに…
深く酔いしれて
しまっている…


排泄器官でもある
生殖器を口で
舐め合うなんて…
傍から見れば
なんて間抜けな
姿なんだろう…
大好きな相手に
気持ちよく
なってほしいと…
お互いの性器に
むしゃぶりついて
刺激し合う…
それでも…
感情に満ちた
セックスでは
ただ嬉しい…
ミサトさんのナカ
すごく締まってきた…
イきそう
なんだね…
愛する人に自分を
気持ちよくして
もらえることが…


愛する人が自分で
気持ちよくなって
くれることが…
僕も…
もう射精そうっ
飲んでっ…
精液っ
全部飲んでねっ
ミサトさ…あぁっ


ぐぷっ♡
ぐぷっ♡
ぐぷっ♡
ぐぷっ♡
ぐぷっ♡
ぐぷっ♡
コクッ♡
コクッ♡
ぶるっ
アーっ♡
アーっ♡
ぶるるっ
ヒクッ♡
ヒクッ♡
ヒクッ♡
はぁっ
はぁっ
ぬるるっ
ちゅぽっ♡
ぷはっ♡
ヒクンッ
ちゅぷっ
はぁぁっ
ヒクンッ♡
ヒクンッ♡


優太さまの精液…
たっぷり頂戴
いたしました…♡
今度はどうか
私めの膣穴も…
存分にお使い
くださいませ…♡
ま…
まって
ミサトさん
僕…
コンドーム
持ってなくて…
ふふっ♡
今日は…特別です♡
ミサトさん
持ってる…？
んっ…
んんっ
ちゅっ
ちゅっ
はあっ
私からの最後の性教育…
コンドームなしの
女性の膣の感触…
とろぉ
しっかり
お勉強して
くださいね♡
我ながら
笑っちゃうわ
性教育だなんて
言いながらもう全然
隠しきれてない…


もう私が本気でシたくてたまらなくなってるだけ…
さぁどうぞ優太さま…♡
遠慮なくお使いくださいませ…♡
薄いゴム一枚分も離れずに…
はしたなく濡れた…私の膣穴を…♡
坊ちゃまと直に繋がりたいの…
くぱぁ
ヒクッ
ヒクヒク
ほ…本当に挿れちゃうよミサトさんっ…！
ふふっお願いします♡
挿れてください…♡
ゴクッ。


あぁっ…あっ
あぁあああっ！
はあっ♡
硬いの…
挿入ってきました♡
どうですか
優太さま♡
はじめて
コンドーム無しで
挿入した…
女性の膣の
感触は…♡
あ…あぁ…
すごい…
全然ちがう…
ナカのざらざらも
ヒダヒダも…
濡れて
ヌルヌルなのも…
ぜんぶ…
わかっちゃうよ…


すごいでしょう？
まるで二人の性器が溶け合って…
ひとつになっちゃったみたいに気持ちよくて…
これが恋人同士の…
本物のセックスですよ♡
キンッ


ミサトさんっ…！
はぁっんっ♡


コンドーム無しの膣内の生々しい感触はもちろん頭が痺れるほどの刺激だったけれど…
ミサトさんと初めて生でつながって…
あっ♡
あぁっ♡







ミサトさんが
こんなにも甘い
喘ぎ声で感じる姿…

あぁ僕っ…

ぱちゅっ♡

あっ♡

ほっ♡

ミサトさんと
コンドーム無しで
セックスしてるっ…！

すごいっ…

ぱちゅっ♡

ぱちゅっ♡

ぱちゅっ♡

ぱちゅっ♡

優太さま…
どうか今夜は私を
「ミサト」ではなく…

「加奈子」…と
お呼びつけ
くださいませ…♡

まるで普通の
女の子のように
僕に素直に
甘えてくれる姿が…

ドキッ

なによりも
いちばん刺激的だった…

加奈子っ…

加奈子っ…！

ズプッ

ズプッ

ズプッ

バクッ♡バクッ♡

あぁっ…
優太さまぁっ…♡


きもちいいっ…！
きもちよすぎてっ…
僕もおっ…
あぁっ…！
いいですよ
優太さまっ♡
今日は
そのままナカに…♡
射精して
くださいっ♡
えっ…
ナカって…！
大丈夫
ですから…♡
そのまま
射精して♡
でっ…でもッ…
やっぱりっ…！







えいっ♡

ギュウッ

ビクッ

ビクッ

あっ

あぁ…♡
優太さまの精液
ドクドクって…♡

ドクッ♡

ギュウ

ウウッ♡

ドクッ♡

すっごくたくさん
射精てるの
わかります…♡

ドクッ♡

気持ち
いいでしょう？
膣内射精…♡

はーっ

これが
本気で愛し合う
恋人同士だけに
許される…

はーっ

世界で
いちばん幸せな
セックスですよ…♡

はーっ


もちろん
大好きな男性の
精を受けるのは…♡
女性にとっても…
この上ない
幸せなのです…♡
今日は…
大丈夫な日
ですから…
ペろっ
たくさんたくさん…
注いでくださいね♡
大丈夫な日か
どうかなんて
本当は曖昧だけど…


最後に私が
与えてあげられる
すべてをあげたかった…
私という存在を
できる限り坊ちゃまに
刻みつけたかった…


坊ちゃまの
幸せを考えたら…
やっぱり相手は
私じゃダメ…
その気持ちは今も
変わらないけれど…
今夜のセックスを
せめて生涯忘れえぬ
思い出にしたい…
二人で本気で
愛し合った
思い出が…


坊ちゃまにとっても…
私にとっても…
これから長く
辛い日々の小さな
灯火(ともしび)となるように…


セックスなんて
もうとっくの昔に
単なる日常の行為で…
今まで誰と
何回してきたかも
わからないのに…
私の女としての
本能が悦(よろこ)んでるのが
わかる…
坊ちゃまに…
この男性(ヒト)に愛されて
いることに…
私の胸は今まるで
処女(はじめて)の頃のように
本気で高鳴ってる…


もっと…もっと
この男性(ヒト)に
愛されたい…
もっともっと
気持ちよくして
あげたい…
私の生膣(ナカ)で
もっと感じて…
もっともっと
射精して…
気持ちよくなって…
何度でもっ…!


恋人同士の
本物のセックスだなんて
偉そうに言ったくせに…
優太さま…
ぎゅーって…
してください…♡
結局 私はずっと
知らなかったんだ…

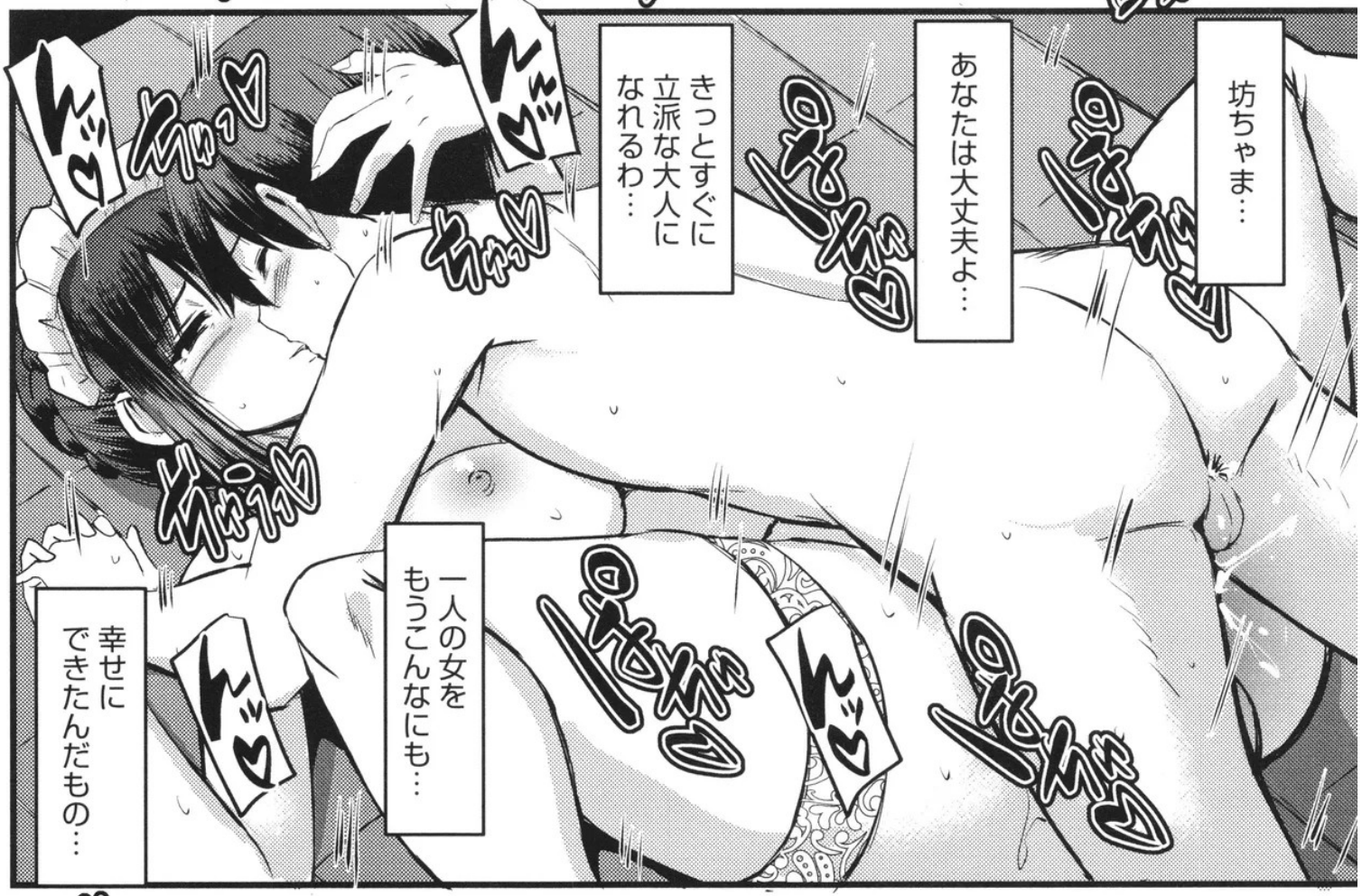

お互いを想い合い
心をすべて委ね合う
愛情に満ちた
セックスが…
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
こんなにも
気持ちいいなんて…


好きっ…
好きだよっ…
愛してるっ…
加奈子っ！
あぁっ
優太さまっ♡
嬉しいですっ♡
私も好きっ
愛してますぅっ♡
今まで男たちから
何度も聞いた
私を抱くための
「愛してる」とは
まるで違う…
その言葉は私の
心の奥と…子宮を
激しく揺さぶる…
何度言葉にして
浴びせあっても
溢れ出る愛情を
伝えきれない…
まるでそのもどかしさを
埋めるかのように私たちは
激しく性器をこすり合い
体液と快楽を交換し続ける…


あぁ…こんなにも
幸せで気持ちいい
ことの果てに…
愛する人の
子供を授かれたら…
それは
どんなに幸せな
ことなのだろう…
もちろん…
きっと私にはもう
叶わぬ願いだけれど…


最後は
私が坊ちゃまに
教わってしまったわ…
これが…
本物のセックス
だったのね…


加奈子っ
イクよ
加奈子っ…！
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぐるっ
ぐるっ
ギシ
ギシ
ギシ
ギシ
くださいっ
ぎゅーって
しながらっ♡
全部
つながったまま
射精してっ♡


坊ちゃま…
あなたは大丈夫よ…
きっとすぐに
立派な大人に
なれるわ…
ぐぢゅ
ぐぢゅ
ぐぢゅ
ぐぢゅ
ぐぢゅ
ぐぢゅ
一人の女を
もうこんなにも…
幸せに
できたんだもの…


本音を言えば
ちょっぴり
忘れてほしく
ないけれど…
ぱちゅ
ぱちゅ
ギシ
ギシ
ギシ
ギシ
いつの日か…
私のことなんてすっかり
忘れてしまうくらいに…
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
いっぱいいっぱい…


幸せになってね…
坊ちゃま…
このあと
何度も何度も
セックスをして…
結局
泣きだして
しまった僕を…
ミサトさんは
朝まで優しく
撫でてくれた
僕は悔しくて
また少し泣いた

あれから三年…

帰国した僕は
佳祐と一緒に
地方の国立大学へ
入学した

いやー
俺らもついに
大学生かー

一緒に現役合格
できてよかったよな

これからまた
よろしくな
優太！

佳祐との友情は
ミサトさんが
残してくれた
大切な物の一つだ

ミサトさんとの真実を
すべて打ち明けても

しかしやっぱ
大学生といえば
合コンよ合コン…！

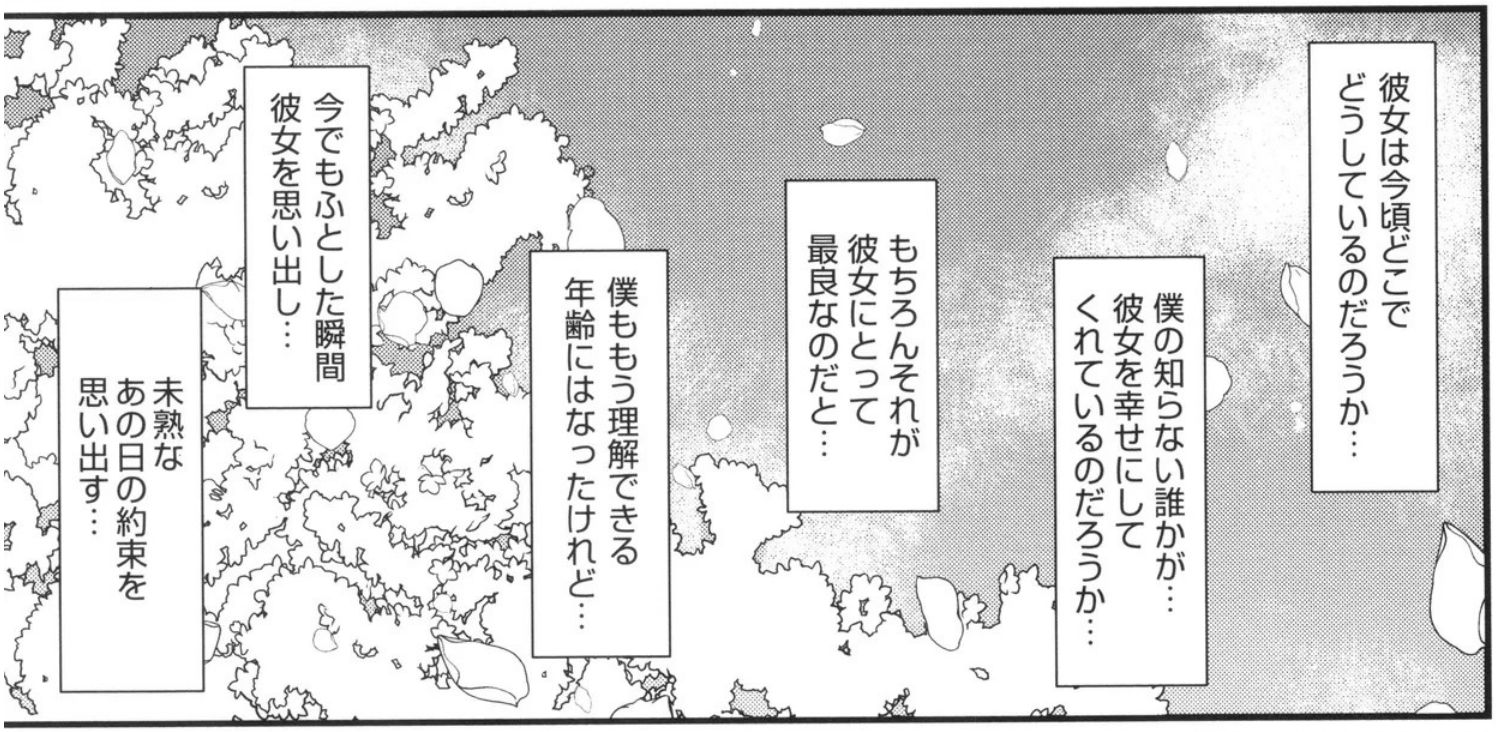
今年こそ絶対
可愛い彼女
ゲットすんぞー！

あはは

佳祐が相変わらずで
安心したよ

彼は
見知らぬ異国の地で
心細く暮らす僕を
支え続けてくれた


そして僕は…
相変わらず
ミサトさんのことを
忘れられていない…

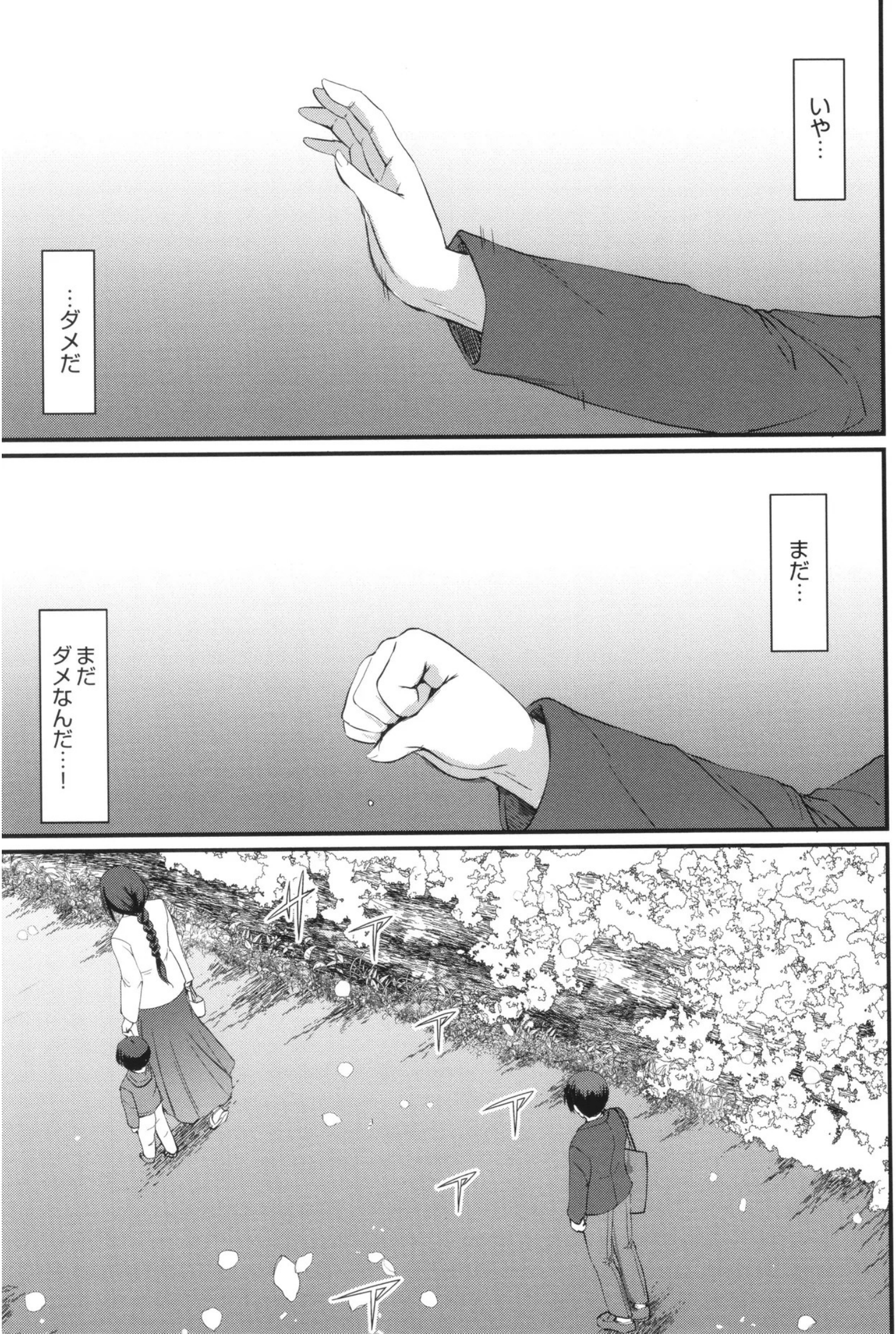

彼女は今頃どこで
どうしているのだろうか…
僕の知らない誰かが…
彼女を幸せにして
くれているのだろうか…
もちろんそれが
彼女にとって
最良なのだと…
僕ももう理解できる
年齢にはなったけれど…
今でもふとした瞬間
彼女を思い出し…
未熟な
あの日の約束を
思い出す…


え…
今でも…
まだまだ
「立派な大人」には
程遠いけれど…
「いつか」
という気持ちは…






ミ…
まっ…
ミサトさん…!?
待って…!!
ミサトさっ…


いや…
…ダメだ
まだ…
まだ
ダメなんだ…！
ア
ア
ア
ア
ア


どうした優太
ん？


……いや
なんでもないよ…


初日から
遅刻しちまうぞー
ごめんごめん
急ごう…！





メイドのおしごと。

完

あとがき

”メイドおねショタ”という非現実を可能な限りのリアリティで描く

それがこの「メイドのおしごと。」のコンセプトです。

そもそもはツイッターで何気なく描いた無表情なメイドさんとショタ坊ちゃまの落描きがそこそこ評判良くて、
じゃあコレを同人誌にするかと始まったこのシリーズ。
んでもって「じゃあこのメイドさんはなんで無表情なのか？」ってちゃんと考えたときに、
圧倒的な経験値の差で未熟な子供にちょっとエッチなことをされたくらいじゃ
大人の女性は動じないよなっていう理由付けになり、このミサトさんというキャラが生まれたワケです。

僕はキャラクターの「生」を感じる作品、
「このキャラクターはこう生きてきたからこういう思考をしてこういう発言をするんだな」と
ちゃんと理解できるタイプの作品が好きです。
今回の「メイドのおしごと。」のキャラクターたちも
端々から「生」を感じられるようお話を作り込んだつもりです。
優太や佳祐の未熟な感情や行動は中高生の頃の自分を憑依させて作り込み、
ミサトさんの感情や行動は４０歳も目前となった今の自分の経験値を反映させて作り込んだので、
なかなかに生々しい「生」と「性」を感じて頂ける作品になったのではないかと自負しております。
そんなのエロマンガに必要かと言われればほぼ１００%必要無いんですが、
エロマンガに１００%必要のないカーチェイスをしたりガンアクションをしたりという
「贅沢な無駄」がもはや僕の作風ではあるので、
今回はこの過剰なまでのキャラクターの深堀りが「贅沢な無駄」と言えるのではないでしょうか。

完結まで実に５年ほどの歳月を要したこの「メイドのおしごと。」シリーズ
ストーリーの面白さとエロマンガの根幹部分の抜きどころをキチンと両立できるよう
毎話毎話本当に悩み抜いて描きました。
毎話たくさんの感想を頂いて、たくさんのご意見を頂いて、
最終章を前に自分でも「どーすんだこの話」って感じの展開になり、
自分では１００点満点の着地だなと思っていた結末にも褒められ怒られ…
だれもがみんな納得してくれる作品を作るのは本当に難しいことなんだなと身にしみた経験にもなりました。

同人版ではあとがきに「死ぬほど苦労した…！！」って毎話毎話書かれていて
その辺を再編集したのをカバー裏に載せておいたのであとで覗いてやってください(笑

結末に関しては本当に賛否両論頂いているので、読んだアナタの受け取り方にお任せしますという状態なのですが、
優太もミサトさんもそして佳祐も、みんな前を向いて未来へ進んでいる。
そんな結末であるということだけは読み取ってもらえればなと思ってます。

ちなみに今回の作品は同人誌で出していたシリーズの総集編なワケですが
作画に統一感がなくて「？」となりそうなので注釈を入れておきます。

メイドのおしごと。　全編完全描き直し。
メイドのおしごと。Ⅱ　髪型や表情、エロシーン数コマ描き直し。
メイドのおしごと。Ⅲ　髪型と表情の描き直し。
メイドのおしごと。Ⅳ　髪型と表情の加筆修正。
メイドのおしごと。最終章　髪型と表情の加筆修正。

メイドのおしごと1話だけ最終章を描き終えた後に完全描き直ししていて
背景に最終章から導入した3Dを使っていたりするので
なんか作画が違う感じになってるワケです

それではまたいつかなにかのあとがきでお会いいたしましょう。

2024/7/23　荒岸来歩

MAID NO OSHIGOTO。

メイドのおしごと。

著　者——荒岸来歩
発行人——三好貴文
発　行——ヒット出版社
〒153-0061 東京都目黒区中目黒
1-10-25-501
営　業——03(5773)5861
ＦＡＸ——03(5773)5863
2024年8月28日初版発行

©荒岸来歩

●本誌に掲載されている作品は全てフィクションです。
実在の人物・団体名等とは一切関係ありません。
●落丁・乱丁本はお取り替えいたします。
●本書の無断複写・複製・転載を禁じます。
●購入者以外の第三者によるいかなる電子複製も認められておりません。

COMMISSIONED
BY
HENTAICORE.NET
VISIT US @ WWW.HENTAICORE.NET


H-MANGA DOUJINSHI ANIME COMIC HCG
WWW.HENTAICORE.NET